

< 教職課程 >

<教職課程>

区 分	科 目 名	頁	
免許状取得に必要な  共通科目	日本国憲法	1	
	スポーツ理論	2	
	スポーツ実技Ⅰ	3	
	スポーツ実技Ⅱ	4	
	コミュニケーション英語Ⅰ	5~12	
	コミュニケーション英語Ⅱ	13~20	
	情報処理Ⅰ	21	
	情報処理Ⅱ	22	
教科及び教科の指導法に関する科目	高等学校 (公民)	法学（国際法を含む）	23
		国際関係論（国際政治を含む）	24
		人権と法	25
		社会学概論	26
		家族社会学	27
		経済学概論	28
		現代経済学（国際経済を含む）	29
		哲学	30
		倫理学	31
		心理学	32
		生命倫理	33
		公民科指導法Ⅰ	34
		公民科指導法Ⅱ	35
		高等学校 (福祉)	社会福祉原論Ⅰ
	社会福祉原論Ⅱ		37
	社会保障論Ⅰ		38
	社会保障論Ⅱ		39
	社会福祉教育論		40
	高齢者福祉論Ⅰ		41
	障害者福祉論Ⅰ		42
	子ども家庭福祉論		43
	ソーシャルワーク論Ⅲ		44
	ソーシャルワーク論Ⅴ		45
	地域福祉論Ⅰ		46
	地域福祉論Ⅱ		47
	介護概論	48	
基本介護技術	49		

<教職課程>

区 分		科 目 名	頁
導 教 法 科 に 及 び 関 す る 科 の 目 指	高等学校 (福祉)	介護現場実習	50
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	51
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	52
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	53
		医学概論	54
		介護福祉論	55
		障害者福祉論Ⅱ	56
		福祉科教育法Ⅰ	57
		福祉科教育法Ⅱ	58
に 大 学 が 定 す る 自 立	高等学校 (公民) (福祉)	教育学	59
		生涯学習論	60
		ジェンダー論	61
		文化人類学	62
		地域社会論	63
		道德教育論	64
教 育 の 基 礎 的 理 解 に 関 す る 科 目 等	高等学校 (公民)	教育原理	65
		教職概論	66
		教育法概論	67
		教育心理学	68
		特別支援教育の基礎	69
		教育課程論	70
		総合的な学習の時間の指導法	71
		特別活動論	72
		教育方法・技術論	73
		生徒指導論	74
	高等学校 (福祉)	学校カウンセリング	75
		進路指導及びキャリア教育	76
		教育実習事前事後指導	77
		教育実習	78
		教職実践演習（高等学校）	79

<教職課程>

区 分	科 目 名	頁
特別支援学校教諭  社会福祉学科	障害児教育学	80
	知的障害心理・生理・病理	81
	肢体不自由心理・生理・病理	82
	病弱心理・生理・病理	83
	障害児教育課程論	84
	障害児教育方法論	85
	肢体不自由者教育課程論	86
	肢体不自由教育演習	87
	病弱教育学	88
	視覚障害教育総論	89
	聴覚障害教育総論	90
	障害児の病理と心理Ⅰ	91
	障害児の病理と心理Ⅱ	92
	障害児教育実習事前事後指導	93
	障害児教育実習	94
栄養教諭	栄養教諭論	95
	食生活・食文化論	96
	食教育指導論	97
	教育原理	65
	教職概論	66
	教育法概論	67
	教育心理学	68
	特別支援教育の基礎	69
	教育課程論	70
	道徳教育論	64
	総合的な学習の時間の指導法	71
	特別活動論	72
	教育方法・技術論	73
	生徒指導論	74
	学校カウンセリング	75
	栄養教育実習事前事後指導	98
栄養教育実習	99	
教職実践演習（栄養教諭）	100	

<教職課程>

区 分	科 目 名	頁
幼稚園教諭	国語	101
	生活	102
	音楽Ⅰ	103
	音楽Ⅱ（ピアノ）	104
	図画工作Ⅰ	105
	図画工作Ⅱ	106
	体育	107
	保育内容・人間関係Ⅰ	108
	保育内容・人間関係Ⅱ	109
	保育内容・環境Ⅰ	110
	保育内容・環境Ⅱ	111
	保育内容・健康Ⅰ	112
	保育内容・健康Ⅱ	113
	保育内容・言葉	114
	保育内容・表現Ⅰ	115
	保育内容・表現Ⅱ（音楽）	116
	保育内容・表現Ⅱ（造形）	117
	保育内容・表現Ⅱ（言語）	118
	教育原理	119
	幼児教育史	120
	教職概論（幼稚園）	121
	教育法概論	122
	子ども教育心理学	123
	発達心理学	124
	特別な教育的ニーズの理解とその支援	125
	保育内容総論	126
	保育指導論	127
	保育指導論演習	128
	子ども理解と教育相談	129
	教育実習指導	130
	教育実習	131
	教職・保育実践演習	132
	生涯学習論	133
	児童文化	134
	児童文化演習	135

<教職課程>

区 分	科 目 名	頁
特別支援学校教諭  社会保育学科	障害児支援の基礎理論	133
	知的障害者の心理・生理・病理	134
	肢体不自由者の心理・生理・病理	135
	病弱者の心理・生理・病理	136
	知的障害者教育課程論	137
	知的障害者教育方法論	138
	肢体不自由者教育課程論	139
	肢体不自由者教育方法論	140
	病弱者教育論	141
	重複障害・発達障害の評価	142
	重複障害・発達障害の教育	143
	視覚障害者教育総論	144
	聴覚障害者教育総論	145
	障害児教育実習事前事後指導	146
	障害児教育実習	147

科目名	日本国憲法				
担当教員名	栢山 茂樹				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>日本国憲法の重要項目について学ぶ。一般向けの解説ではなく、法学の専門的水準の知見を身につけてもらう。</p> <p>ひいてはそれらを通じて、現実の憲法問題を議論できるようになる。</p>				
授業の概要	<p>憲法とは「国家権力のしくみを定め、コントロールする法」のことである。憲法は社会科の授業で教わるほか、政界・マスコミ等でも話題に上るため、一般人にもある程度は知られている。しかしそれが仇となってか、誤解や俗説も多々見受けられる。本講義ではそれにも注意しながら、法学としての憲法論を学ぶ。</p> <p>半期で憲法学の全分野(総論・人権・統治)の要点を解説していく。それらの根本にあるテーマは、「人間と国家のあるべき関係とは？」である。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義ガイダンス、憲法に対する誤解を解く</li> <li>2 憲法総論：国家・憲法・法律</li> <li>3 人権と憲法上の権利</li> <li>4 憲法上の権利の享有主体性：特に外国人</li> <li>5 幸福追求権：自己決定権、プライバシー権</li> <li>6 法の下での平等</li> <li>7 信教の自由と政教分離</li> <li>8 表現の自由</li> <li>9 経済的自由：特に職業選択・営業の自由</li> <li>10 社会権：特に生存権</li> <li>11 国民主権原理と象徴天皇制</li> <li>12 国会と国会議員：代表民主制のしくみ</li> <li>13 内閣：議院内閣制の構造と特色</li> <li>14 裁判所：司法権の概念、違憲審査制</li> <li>15 憲法九条</li> </ol>				
授業の留意点	<p>人権編については私の担当講義「人権と法」で詳しく扱う(そのため、同一内容の回もあることをお断りしておく)ので、併せて履修してもらうことを強く望む。そのほか、「法学(国際法を含む)」 「子どもの権利」「教育法概論」も関連が深い。</p> <p>授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。</p>				
学生に対する評価	<p>期末試験(100%)。加点措置としてリアクションペーパー、小テスト等実施する場合もある。</p>				
教科書(購入必須)	<p>なし。毎回ハンドアウトを配布する。各自ノートをしっかりとること。</p>				
参考書(購入任意)	<p>独習用に以下をすすめる。そのほか、参考文献を適宜紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内山奈月+南野森『憲法主義』(PHP文庫、2015)</li> <li>・デイリー法学選書編修委員会編『ピンポイント憲法』(三省堂、2018)</li> <li>・中村睦男編著『はじめての憲法学 第3版』(三省堂、2015)</li> </ul>				

科 目 名	スポーツ理論				
担 当 教 員 名	関 朋 昭				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教 職 : 必 修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<p>スポーツが、社会の中でどのような立場をもち、私たちの生活と連結しているのかを広い視野に立って探求できることを目標とする。また、基本的な保健知識を理解するとともに、所属学科と本講義内容との連携を常に意識し、思考性を深めることをテーマとする。</p> <p>学習到達目標としては、スポーツと自分自身が専攻する学科を関連づけながら今日的課題を見つけることができるようになる、すなわち自分なりの「問い」を立てることができるようになることである。</p>				
授 業 の 概 要	<p>(1) 大学生としての保健に関する基本的な知識教養の習得と、スポーツとの関連性を理解する。</p> <p>(2) スポーツが、商業化される問題点と実社会との関係性を学ぶ。</p> <p>(3) スポーツと各学科との連携教育を意識する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス：本講義のねらい</li> <li>2 生活習慣とスポーツの捉え方について</li> <li>3 運動の捉え方について</li> <li>4 栄養の捉え方について</li> <li>5 休養の捉え方について</li> <li>6 大脳皮質と適応規制の関係</li> <li>7 社会的欲求とスポーツについて</li> <li>8 筋組成について</li> <li>9 スポーツ倫理学</li> <li>10 学校スポーツ（1）日本</li> <li>11 学校スポーツ（2）諸外国</li> <li>12 スポーツとマーケティングの考え方（1）スポーツプロダクト論</li> <li>13 スポーツとマーケティングの考え方（2）スポーツプロデュース論</li> <li>14 リーダーシップとチームワークの形成（1）チーム論</li> <li>15 リーダーシップとチームワークの形成（2）組織論</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	<p>スポーツ、運動、健康に関連するニュース報道、新聞、SNSなどを媒体としながら情報を収集しておくことが学習成果を上げることになるため情報収集のための予習時間が必要不可欠なものとなる。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>小レポート 60 点。優秀なレポート、発表は 40 点で評価する。</p>				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	なし				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	関朋昭 (2015) 『スポーツと勝利至上主義』ナカニシヤ出版。				



科 目 名	スポーツ実技 I				
担 当 教 員 名	関 朋 昭				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	実 技
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教 職 : 選 択 必 修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	生涯スポーツを視野に入れ、多くの学生が、過去の体育授業で経験してきたバドミントン、バレーボールをとりあげ、それらの技術構造や練習方法を学習し、生涯を通じて明るく豊かな活力ある生活を営むことができる能力や態度を育成する。 学習到達目標としては、講義の中でどのようなふるまいが求められているのか、各人がリーダーまたはフォロワーとなり、自発的な行動が取れるようになることである。				
授 業 の 概 要	学習した「基礎技術」がゲームにつながらない「技術」であったりするが、この授業では、「応用技術」であるゲームにつながる「基礎技術」(論)を追求し、学習する。また、共同学習の場であるため、自己の役割を理解し他者と協力しながら種目を展開し進めていくことがねらいである。				
授 業 の 計 画	1 ガイダンス 2 ストレッチ運動・バレーボール基本練習 3 バレーボール(1) ①オリエンテーション ②感覚練習 技術練習(オーバーハンドパス) 4 バレーボール(2) ①技術練習(アンダーハンドパス) ②ルール確認 ③試しのゲーム 5 バレーボール(3) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<1> ③試しのゲーム 6 バレーボール(4) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<2> ③試しのゲーム 7 バレーボール(5) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<3> ③ゲーム 8 バドミントン(1) ①オリエンテーション ②感覚練習 ③技術練習(ハイクリア、ドライブなど) 9 バドミントン(2) ①技術練習(ハイクリア、スマッシュなど) ②主なルール ③簡易ゲーム 10 バドミントン(3) ①技術練習(サービス) ②戦術<1> ③ダブルスゲーム 11 バドミントン(4) ①技術練習(ドロップショットなど) ②戦術<2> ③ダブルスゲーム 12 バドミントン(5) 団体戦(ダブルスゲーム) 13 まとめ チーム編成および総合試合の戦略策定 14 まとめ 総合試合①(バレーボール、バドミントン) 15 まとめ 総合試合②(バレーボール、バドミントン)				
授 業 の 留 意 点	服装は運動に適したものであること。ジャージ、トレーナー、Tシャツ、ショートパンツ等で、運動靴は球技専用のシューズが望ましい。栄養学科・社会福祉学科は後期の開講となる。 日頃から健康管理やスポーツに関わるメディア情報や関連書籍などに関心を持ち、予備知識を得ておくこと。				
学 生 対 する 評 価	評価は、授業での意欲・態度 80 点、レポートの提出 20 点とする。				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)					

科目名	スポーツ実技Ⅱ				
担当教員名	関朋昭・荻野大助・今野聖士・岩田直美・傳馬淳一郎・敦賀信人				
学年配当	1年	単位数	1単位	開講形態	実技
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	教職：選択必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>スポーツ実技Ⅱは、名寄市の地域資源を活用し、生涯スポーツとして親しむことのできるウィンタースポーツの修得をめざしている。この講義では、雪質日本一と呼ばれる名寄市の自然環境を生かしたスキー、および全国でも恵まれた競技環境にあるカーリングをとりあげる。</p> <p>スキーおよびカーリングは選択制とし、どちらか一方のみ履修可能とする。</p>				
授業の概要	<p>(スキー) 授業では、スキー(スラローム)の基本技術を、「重心の先行を伴う左右交互荷重」とおさえ、「ブルークボーゲン」を「基礎滑降法」と位置づけ、ブライトターンを経て、パラレルターンへと発展させる。学外実習であるため、地域社会との交流といったことも本講義のねらいでもある。(関)</p> <p>(カーリング) まずカーリングについての基礎知識を学び、実技は氷になれるところから始める。基本動作の練習を行った後、チームを編成してゲームの実戦を行い、戦略を練るところまでをめざす。(敦賀)</p>				
授業の計画	<p>授業計画(スキー)</p> <p>第1日目 午前—実技① 午後—実技②</p> <p>第2日目 午前—実技③ 午後—実技④</p> <p>第3日目 午前—実技⑤ 午後—実技⑥</p> <p>*7月に初回ガイダンスを行う</p> <p>*10月と12月初旬に、オリエンテーション及びガイダンスを行う</p> <p>学習プログラム・A(初心者および初級者対象)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初歩動作—歩き方、坂の上り方、方向転換</li> <li>2. 滑走感覚養成—直滑降、ブルークファーレン→山回り→停止</li> <li>3. 基礎滑降法 — ブルークでの左右交互荷重による大回り、小回り</li> </ol> <p>学習プログラム・B(初中級者および中級者対象)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ブライトターン — ターンの切り換えにおける諸動作とタイミング</li> <li>2. 開脚パラレルターン — 立ち上がり抜重による同時切り換え</li> </ol> <p>学習プログラム・C(中級者および上級者対象)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. カービングターン — エッジ感覚重視の同時切り換え → 緩・中・急斜面</li> <li>2. ウェデルン — 速いタイミングによる同時切り換え → 緩・中・急斜面</li> </ol>		<p>授業計画(カーリング)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ルール・ポジションの役割</li> <li>②氷の状態・カーリングの歴史</li> <li>③用具などの説明</li> <li>④カーリング技術の基礎(氷に慣れる)</li> <li>⑤カーリング技術の基礎(リリース・フォームなど)</li> <li>⑥カーリング技術の基礎・メンタルトレーニング(スウィーピング)</li> <li>⑦カーリング技術の基礎(作戦)</li> <li>⑧ゲームの進め方とその実際(先攻・後攻の有利・不利)</li> <li>⑨ゲームの進め方とその実際(氷の状態に合った作戦)</li> <li>⑩ゲームの進め方とその実際(チームに必要なこと・チーム作り)</li> <li>⑪ゲームの進め方とその実際(勝っている時、負けている時の作戦)</li> <li>⑫より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう レベルに合ったショット・作戦</li> <li>⑬より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう カーリングに必要なもの</li> <li>⑭より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう</li> <li>⑮技術と戦略作りのまとめ</li> </ol>		
授業の留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3日間の集中講義で実施する(積雪の状況から冬季休業期間中もしくは土曜日と日曜日の実施となる)。</li> <li>2. スキーのリフト代は個人負担とする。ウェア、帽子、グローブ、ゴーグルなどは各自用意すること。カーリング用具はレンタル可能(個人負担)。</li> <li>3. スキーは10月のオリエンテーションでは事前調査用紙を記入し提出し、12月のガイダンスではグループ分けと事前確認を行う。</li> <li>4. 【重要1】受講希望者が多い場合、抽選とし人数制限をすることがある。 【重要2】初回のガイダンス不参加者は、履修意思がないものと考え履修資格を認めない。ゆえに、掲示板をみのがさないように(スキーは7月予定)。 【重要3】スキーは二回目(10月予定)、三回目(12月予定)のガイダンスに関しても、【重要2】と同様に、不参加者は履修意思がないものと考え履修放棄したとみなす。</li> </ol>				
学生に対する評価	評価は、授業での意欲・態度80点、レポートの提出20点とする。				
教科書(購入必須)	テキストは使用しない。				
参考書(購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担当教員名	Martin Meadows				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	This course focuses primarily on developing communication skills through interaction with English-language learners abroad in an online, virtual exchange program. Students will learn about everyday activities and concerns of students from other cultures and, by sharing aspects of their own daily lives with foreign students, have opportunity to reflect on and re-evaluate their own cultural values and assumptions.				
授業の概要	Using a Moodle-based virtual exchange platform, students will develop writing and speaking skills by posting textual and audio accounts of their daily lives and concerns in shared online forums. At the same time, listening and reading skills will be developed as students read and listen to posts made by their exchange counterparts. Students will not only gain an understanding of and appreciation for the daily concerns of English-language-learning students from a different culture, they will develop a greater appreciation of their own culture. In addition to the virtual exchange, students will rehearse and construct original, “model” speeches and receive feedback from their classmates. Classroom activities will also provide opportunities for spontaneous and unrehearsed speech acts. By the end of this course, all students will be able to make and post a short recorded speech, and provide verbal feedback to their classmates’ speeches.				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Class placement test (all students)</li> <li>2 Adding resources to Moodle</li> <li>3 Introduction to Cross-Cultural Communication</li> <li>4 Virtual Exchange (VE) - Self-introductions</li> <li>5 Virtual Exchange (VE) - Self-introductions</li> <li>6 Virtual Exchange (VE) - Homes in Our Culture</li> <li>7 Virtual Exchange (VE) - Homes in Our Culture</li> <li>8 Virtual Exchange (VE) - The Culture Around Me</li> <li>9 Virtual Exchange (VE) - The Culture Around Me</li> <li>10 Virtual Exchange (VE) - What I Learned</li> <li>11 Virtual Exchange (VE) - What I Learned</li> <li>12 University Life - Interviewing a Partner</li> <li>13 University Life - Interviewing a Partner</li> <li>14 Part-time Jobs</li> <li>15 Final Exam or Assignment</li> </ol>				
授業の留意点	Students will be expected to try to use English for the majority of communication conducted in the classroom. With a smaller class, participation in class activities is particularly important and students are strongly encouraged to both speak out and voice their opinions when able, and to ask for information and assistance when necessary. Students should take responsibility for their own learning and participate actively in pair and group activities. Students are also expected to learn how to use some computer-based applications required for the online exchange.				
学生に対する評価	Class participation - forum posts and replies (40 pts), Term-end oral test (40 pts), Extensive reading (20 pts)				
教科書 (購入必須)	Online materials in the Moodle-based course.				
参考書 (購入任意)	Depending on the public health situation in 2021, all or part of this course may be held online using a video-conferencing system in Moodle.				

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担当教員名	小古間 甚一				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	英語 I で学習した基礎的な文法知識を使って英語を発信する力をつける。英語によるコミュニケーション能力を高める。例文を参考にしながら英文が作成できる力を身に付ける。				
授業の概要	中学生レベルの基礎的な文法知識を使って短文を作る練習を徹底的に行う。毎回英文を書き提出してもらう。最終的に 200 ワード程度を英文を書く。英語の基礎的な力を高めるために E ラーニングによる英語読解力トレーニングを行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業ガイダンス 英語 I の復習</li> <li>2 主語と動詞</li> <li>3 現在形、過去形、完了形</li> <li>4 受動態</li> <li>5 分詞の用法</li> <li>6 不定詞の用法</li> <li>7 動名詞の用法</li> <li>8 比較の用法</li> <li>9 関係詞を使った英文 1</li> <li>10 関係詞を使った英文 2</li> <li>11 仮定法を使った英文 1</li> <li>12 仮定法を使った英文 2</li> <li>13 自由テーマ作成</li> <li>14 英語による質疑応答 (1)</li> <li>15 英語による質疑応答 (2)</li> </ol>				
授業の留意点	遅刻・欠席をしないこと。遅刻 (5分程度) 3回につき1回の欠席とする。授業で説明したことをきちんとメモすること。授業で学んだ内容を忘れないようにしっかり復習すること。				
学生に対する評価	基礎文法確認テスト (50点)、課題提出 (20点)、Eラーニング読解トレーニング (30点)。				
教科書 (購入必須)	プリントを配布する。				
参考書 (購入任意)	辞書 (中学生用が望ましい)、参考書、英語 I で配布した資料等を持参すること。				

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担 当 教 員 名	野月 朱美				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	英語をコミュニケーションの道具として活用する。				
授業の概要	英語でコミュニケーションを取る能力を身に付け、実践する				
授業の計画	1 クラスガイダンス 2 インターナショナル・バーチャル・エクスチェンジ(IVE)のための練習 3 IVE で実際使われた英語のフィードバック 4 IVE で実際使われた英語のフィードバック 5 IVE で実際使われた英語のフィードバック 6 IVE で実際使われた英語のフィードバック 7 IVE で実際使われた英語のフィードバック 8 IVE で実際使われた英語のフィードバック 9 IVE で実際使われた英語のフィードバック 10 IVE で実際使われた英語のフィードバック 11 IVE で実際使われた英語のフィードバック 12 IVE で実際使われた英語のフィードバック 13 IVE で実際使われた英語のフィードバック 14 IVE で実際使われた英語のフィードバック 15 IVE で学んだこと				
授業の留意点	辞書持参のこと 毎回復習し、小テストに備えること				
学生に対する評価	小テスト (60点)、moodle reading (30点)、授業態度 (10点)				
教科書 (購入必須)	なし				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担当教員名	マシュー・ネチャコフ				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	The objective of this course is to build students' confidence and improve their abilities when communicating in English. Basic English communication skills will be				
授業の概要	The class will focus on providing students with ample opportunities to speak English on a variety of topics. Students will frequently work in small groups or pairs in order to maximize the chances of speaking English.				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Placement Test</li> <li>2 Orientation</li> <li>3 Introducing Yourself and Friends</li> <li>4 Your Hometown</li> <li>5 Discussing Hobbies and Interests</li> <li>6 Describing People and Events</li> <li>7 Asking Questions</li> <li>8 Asking Questions</li> <li>9 Assignment 1</li> <li>10 Giving Directions</li> <li>11 Giving Reasons and Excuses</li> <li>12 Opinions</li> <li>13 Debate</li> <li>14 Debate</li> <li>15 Assignment</li> </ol>				
授業の留意点	Students should come prepared to speak and study English. Class participation is expected and making mistakes while speaking English during class will not be penalized. Any homework will be assigned at the end of the class.				
学生に対する評価	Class participation and Attendance (30) Readers (30) Assignments (40)				
教科書 (購入必須)	Print materials will be handed out in class and a variety of online materials will be used.				
参考書 (購入任意)	Japanese-English Dictionary (Print/Electronic/Smartphone Application) is not required but highly recommended.				

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担当教員名	前田 千早				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	This course is designed to focus on the listening and speaking skills of the students in hopes to improve their abilities to communicate in English.				
授業の概要	The classes will focus on a different topic every week. The students are encouraged to openly share their own experiences and interests with their classmates. There will be a variety of speaking, writing and listening assignments.				
授業の計画	1 Orientation/test 2 introduction 3 Health Habits 4 Haiku 5 Cross words 6 Cross words 7 Life boat 8 Proper Sentences 9 Describing people 10 How much? 11 Guess who 12 Scrabble 13 Term project 14 Term project 15 Term project				
授業の留意点	Students should come prepared to speak and study English at each lesson. Participation in class will be an important part of this course.				
学生に対する評価	Class participation (60点) Readers (30点) Term Project (10点)				
教科書 (購入必須)	Materials will be handed out in class Dictionary				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担当教員名	野村 太				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	北海道を訪れる外国人が急増する傾向は今後も続くといわれています。皆さんもこれから先、思いがけない場面で英語を話さねばならない機会が来るでしょう。自信をもって会話できることを目標に掲げ、訓練します。				
授 業 の 概 要	音読、シャドーイングなどの方法を用いて基礎会話力をつけ、習熟度を見ながら応用編に入ります。				
授 業 の 計 画	1 クラス分けテスト 2 Name & Age 3 Hometown & Education 4 Personality & Health 5 My dream 6 My family 7 Pets 8 Clothes 9 Cooking & Restaurants 10 Smartphones 11 Sleeping and Shopping 12 Weekends & Daily schedule 13 My favorite seasons 14 English 15 Music				
授 業 の 留 意 点	授業中の居眠り、無断のスマホ操作は授業放棄とみなし、欠席に準ずる処置をとります。				
学 生 対 する 評 価	授業態度 50 点、期末テスト 50 点合計 100 点で評価します。無断欠席は 8 点、授業放棄行為は 5 点減点します。Moodle で規定語数に達しなければ不足語数 100 語につき 1 点減点、その反対に多く読めば加点します。				
教 科 書 (購入必須)	プリントを配付します。				
参 考 書 (購入任意)					



科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担当教員名	Herman Leung				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開講形態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資格要件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	The objective of this course is to build confidence and improve students' abilities conversing in English.				
授業の概要	The class will focus on discussing life experiences, making skits, and a variety of role-playing scenarios.				
授業の計画	1 Placement Test 2 Introduction 3 Talkopoly 4 Group Story 5 Food Recipe 6 Fashion Trends 7 Employment 8 Dream Vacation 9 Predictions/Future Tense 10 Project Preparation 11 Reading and acting theater skits 12 Reading and acting movie Scripts 13 Term Project 14 Term Project 15 Final Project				
授業の留意点	Students should come prepared to speak and study English. Class participation is highly expected for this course.				
学生に対する評価	Class participation (50) Readers (30) Final Project (20)				
教科書 (購入必須)	Materials will be handed out in class				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担 当 教 員 名	森永 治之介				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>文法間違いを恐れず、積極的に英会話を楽しむことができる。          日常会話で頻繁に使用できる定例文を記憶し、状況に応じて発信できるようになる。          相手の英語（音声）を理解し、自分も簡単な英語で応答できるようになる。          Colloquial English（口語表現）を身につける。</p>				
授業の概要	<p>様々なシチュエーションを想定した英会話文（本文）の内容を理解し、発音練習・会話演習を行う。会話文の暗記・発音練習に取り組み、暗唱での発表・口頭試験を行う。音声やビデオ映像を用いてリスニング練習を行う。日常生活に関する簡単なオリジナルスキットを小グループで作成し、学期末に発表する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションとウォームアップ</li> <li>2 あいさつ・自己紹介・相手のことを尋ねる</li> <li>3 今日あったことについて話す</li> <li>4 好き嫌いについて話す</li> <li>5 趣味について話す</li> <li>6 映画や本について話す</li> <li>7 レストランで注文する</li> <li>8 道案内をする</li> <li>9 時間の表現</li> <li>10 旅行計画を立てる</li> <li>11 週末の予定について話す</li> <li>12 自分の悩みについて話す</li> <li>13 将来の夢について話す</li> <li>14 スキット作成</li> <li>15 スキット発表</li> </ol>				
授業の留意点	<p>プリントをなくさないように気を付けること（遠隔授業時にはムードルに掲示するので、適宜ダウンロード・印刷すること）。対面授業時は英和辞典を毎回持参すること。          学生の興味分野や授業の進捗状況に応じて、取り扱う内容・テーマを変更する場合もある。          各週における予習復習・課題などの自己学習は、講義時間と同程度の時間取り組むこと。</p>				
学生に対する評価	<p>Reader 及び全クラス共通で行うオンライン学習（30点）          小テスト・課題・口頭試験・スキット発表（70点）</p>				
教科書（購入必須）	<p>プリントを配布する（遠隔授業時にはムードルに掲示する）          英和辞典必須（収録語数5万語以上が望ましい）</p>				
参考書（購入任意）					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ			
担 当 教 員 名	Martin Meadows			
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件 教職：必修
実務経験及び授業内容				
学習到達目標	This course extends the development of communication skills and strategies by having students create their own slideshow and video presentations based on topics introduced by the NHK TV program, Cool Japan. Students will reflect on aspects of Japanese culture and how to communicate their own customs, beliefs and values as Japanese to a foreign audience. Students will develop their ideas through discussion with classmates then present their perspectives in a voice-narrated slideshow or video. If it can be arranged, students will have the opportunity to interact with English-language learners abroad in an online, virtual exchange where foreign students will share their own cultural values and perspectives on the same topics and issues examined by the Japanese students.			
授業の概要	Course content will be delivered via Moodle, and students will both share their contributions and submit assignments on this platform. Tablets with WiF capabilities can be provided to students who wish, although students are free to use their own mobile devices. Students will develop writing and speaking skills by interacting with fellow participants in both textual and audiovisual contexts. Online content will include interactive videos with listening exercises and quizzes, as well as online reading material. Students will use mobile applications to create content for uploading to the course Moodle and are expected to react to the content posting by their classmates and other foreign students, if applicable.			
授業の計画	1: Orientation and Introduction: Cool Japan - Cool Nayoro 2: Universities 3: Universities 4: Washoku 5: Washoku 6: Fashion Trends 7: Fashion Trends 8: Figure: Dieting & Weight Loss 9: Figure: Dieting & Weight Loss 10: Cold Weather Items 11: Cold Weather Items 12: Attracting Good Luck 13: Attracting Good Luck 14: Cool Nayoro 15: Cool Nayoro			
授業の留意点	Students will be expected to try to use English for the majority of communication conducted in the classroom. Students are strongly encouraged to both speak out and voice their opinions when able, and to ask for information and assistance when necessary. Students will be required to install some applications on their mobile devices if they choose to use them rather than the available tablets provided by the teacher.			
学生に対する評価	Extensive Reading (30pts) Class participation in forums and online discussion (20pts), Video/slideshow presentation assignments (50pts)			
教科書 (購入必須)	A variety of online materials, including Cool Japan videos and student-created content.			
参考書 (購入任意)	Depending on the public health situation in 2021, all or part of this course may be held online using a video-conferencing system in Moodle.			

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担当教員名	小古間 甚一				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	基礎的な文法知識を応用して英文を作り、英語で発信する力を身に付ける。				
授業の概要	練習問題を解きながら基礎的な文法を復習する。毎回テーマに沿って英文を書き、提出する。まとめとして自由テーマを2つ設定し、200語程度の英文を2つ書く。基礎力養成のためにEラーニングによる読解トレーニングを行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 英語の基礎 復習</li> <li>2 1週間の出来事を書く1</li> <li>3 1週間の出来事を書く2</li> <li>4 1週間の出来事を書く3</li> <li>5 自己アピール1</li> <li>6 自己アピール2</li> <li>7 友人に近況を報告する1</li> <li>8 友人に近況を報告する2</li> <li>9 自由課題1 構想</li> <li>10 自由課題2 英文下書き</li> <li>11 自由課題3 ワープロ原稿作成</li> <li>12 自由課題4 原稿修正</li> <li>13 自由課題5 原稿提出</li> <li>14 自由課題6 発表1</li> <li>15 自由課題 発表2</li> </ol>				
授業の留意点	遅刻・欠席・居眠り厳禁。遅刻（5分程度まで）3回で欠席1回分とする。辞書（中学生用が望ましい）を必ず持参すること。予習・復習をしっかり行い、基本的な英文法の知識を理解するよう努めること。				
学生に対する評価	文法・英作文テスト（50点）、課題提出（20点）、Eラーニング読解トレーニング結果（30点）。				
教科書（購入必須）	プリントを配布する。				
参考書（購入任意）	高校時代に使った参考書、教科書、辞書（中学生用が望ましい）を持参すること。英語Ⅰ・Ⅱで配布したプリントを持参すること。				

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担 当 教 員 名	野月 朱美				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	英語をコミュニケーションの道具として活用する。				
授業の概要	英語でコミュニケーションを取る能力を身に付け、実践する				
授業の計画	1 ガイダンス 2 インターナショナル・バーチャル・エクスチェンジ(IVE)のための練習 3 IVE で実際使われた英語のフィードバック 4 IVE で実際使われた英語のフィードバック 5 IVE で実際使われた英語のフィードバック 6 IVE で実際使われた英語のフィードバック 7 IVE で実際使われた英語のフィードバック 8 IVE で実際使われた英語のフィードバック 9 IVE で実際使われた英語のフィードバック 10 IVE で実際使われた英語のフィードバック 11 IVE で実際使われた英語のフィードバック 12 IVE で実際使われた英語のフィードバック 13 IVE で実際使われた英語のフィードバック 14 IVE で実際使われた英語のフィードバック 15 IVE で学んだこと				
授業の留意点	辞書持参のこと 毎回復習し、小テストに備えること				
学生に対する評価	小テスト (60点)、moodle reading (30点)、授業態度 (10点)				
教科書 (購入必須)	なし				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担当教員名	マシュー・ネチャコフ				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	The objective of this course is to build students' confidence and improve their abilities when communicating in English. By the end of the course students should be able to discuss a variety of topics and speak in English in relation to a variety of genres.				
授業の概要	The class will focus on providing students with ample opportunities to speak English on various topics. Students will frequently work in small groups or pairs in order to maximize the chances of speaking English.				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Orientation/Introduction</li> <li>2 Introducing Friends and Family</li> <li>3 Introducing Japanese Culture</li> <li>4 Party Planning</li> <li>5 Giving Advice</li> <li>6 Negotiating</li> <li>7 Debate</li> <li>8 Debate</li> <li>9 Interviewing</li> <li>10 Interviewing</li> <li>11 Storytelling</li> <li>12 Storytelling</li> <li>13 Term Project: Explanation and Preparation</li> <li>14 Term Project: Preparation</li> <li>15 Term Project: Presentations</li> </ol>				
授業の留意点	Students should come prepared to speak and study English. Class participation is expected and making mistakes while speaking English during class will not be penalized. Any homework will be assigned at the end of the class.				
学生に対する評価	Class participation and Attendance (40) Readers (30) Term Project (30)				
教科書 (購入必須)	Print materials will be handed out in class and a variety of online materials will be used.				
参考書 (購入任意)	Japanese-English Dictionary (Print/Electronic/Smartphone Application) is not required but highly recommended.				

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担当教員名	前田 千早				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	The objectives of the second part of this course are the same as the goals for English I. After the completion of both courses, the students are hoped to have gained more confidence in English and to have enjoyed the English language.				
授業の概要	The classes will focus on a different topic every week. The students are encouraged to openly share their own experiences and interests with their classmates. There will be a variety of speaking, writing and listening assignments.				
授業の計画	1 Introduction 2 Giving Direction 3 What if ...? 4 Recipe 5 Family Tree 6 Invitations 7 Photographs 8 Jobs 9 Shopping 10 School 11 How was your trip? 12 ABCs 13 Term project 14 Term project 15 Term project				
授業の留意点	Students should come prepared to speak and study English at each lesson. Participation in class will be an important part of this course.				
学生に対する評価	Class participation (60点) Readers (30点) Term Project (10点)				
教科書 (購入必須)	Materials will be handed out in class Dictionary				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担当教員名	野村 太				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	北海道を訪れる外国人が急増する傾向は今後も続くといわれています。皆さんもこれから先、思いがけない場面で英語を話さねばならない機会が来るでしょう。自信をもって会話できることを目標に掲げ、訓練します。				
授業の概要	音読、シャドーイングなどの方法を用いて基礎会話力をつけ、習熟度を見ながら応用編に入ります。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Outline of the course</li> <li>2 Traveling</li> <li>3 Computers</li> <li>4 TV</li> <li>5 Hot springs</li> <li>6 Drinking</li> <li>7 Movies</li> <li>8 Reading</li> <li>9 Driving</li> <li>10 Comics</li> <li>11 Baseball &amp; Soccer</li> <li>12 Companies, Jobs, and Commuting</li> <li>13 Co-workers, Working hours &amp; Meetings</li> <li>14 Vacations and Business trips</li> <li>15 Review</li> </ol>				
授業の留意点	授業中の居眠り、無断のスマホ操作は授業放棄とみなし、欠席に準ずる処置をとります。				
学生に対する評価	授業態度 50 点、期末テスト 50 点合計 100 点で評価します。無断欠席は 8 点、授業放棄行為は 5 点減点します。Moodle で規定語数に達しなければ不足語数 100 語につき 1 点減点、その反対に多く読めば加点します。				
教科書 (購入必須)	プリントを配付します。				
参考書 (購入任意)					



科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担当教員名	Herman Leung				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	The objective of this course is to build confidence and improve students' abilities conversing in English.				
授業の概要	The class will focus on discussing life experience, making skits, and a variety of role-playing scenarios.				
授業の計画	1 Introduction 2 Talkopoly 3 Travel 4 Restaurants 5 Shopping 6 Movies and Television 7 Subway Directions 8 English Karaoke 9 Gestures 10 Project Preparation 11 Reading and acting theater skits 12 Reading and acting movie Scripts 13 Term Project 14 Term Project 15 Final Project				
授業の留意点	Students should come prepared to speak and study English. Class participation is highly expected for this course.				
学生に対する評価	Class participation (50) Readers (30) Term Project (20)				
教科書 (購入必須)	Materials will be handed out in class.				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担 当 教 員 名	森永 治之介				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<p>文法間違いを恐れず、積極的に英会話を楽しむことができる。          長く複雑な英語を聞いて理解し、それに対応できるようになる。          自分の専門分野に関して、自分の考えを適切な専門用語を用いた英語で発信できるようになる。          Colloquial English（口語表現）とより丁寧な表現を、双方の違いに留意しながら身につける。</p>				
授 業 の 概 要	<p>様々なシチュエーションを想定した英会話文（本文）の内容を理解し、発音練習・会話演習を行う。会話文の暗記・発音練習に取り組み、暗唱での発表・口頭試験を行う。音声やビデオ映像を用いてリスニング練習を行う。栄養・看護・社会福祉・保育に関わるオリジナルスキットを小グループで作成し、学期末に発表する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションとウォームアップ</li> <li>2 いろいろな社会問題 Vocabulary and Conversation</li> <li>3 病気（1）COVID-19</li> <li>4 環境問題（1）Climate Crisis</li> <li>5 環境問題（2）Food Waste</li> <li>6 病気（2）Obesity and Medical Bills</li> <li>7 栄養と自然療法 Nutrition and Natural Remedies</li> <li>8 環境問題（3）Plastic Pollution</li> <li>9 環境問題（4）Deforestation</li> <li>10 保育と社会 Workforce Crisis – Shortage of Childcare Workers</li> <li>11 高齢化社会と福祉 Super-Aging Society and Elderly Care</li> <li>12 Power and Political Corruption</li> <li>13 Poverty, Depression and Suicide</li> <li>14 スキット作成</li> <li>15 スキット発表</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	<p>プリントをなくさないように気を付けること（遠隔授業時にはムードルに掲示するので、適宜ダウンロード・印刷すること）。対面授業時は英和辞典を毎回持参すること。          学生の興味分野や授業の進捗状況に応じて、取り扱う内容・テーマを変更する場合もある。          各週における予習復習・課題などの自己学習は、講義時間と同程度の時間取り組むこと。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>Reader 及び全クラス共通で行うオンライン学習（30点）          小テスト・課題・口頭試験・スキット発表（70点）</p>				
教 科 書 （購入必須）	<p>プリントを配布する（遠隔授業時にはムードルに掲示する）          英和辞典必須（収録語数5万語以上が望ましい）</p>				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	情報処理 I				
担 当 教 員 名	石川 貴彦				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	ICT（情報通信技術）に関する基礎・基本を理解し、ワープロソフトを用いた文書の作成や、表計算処理ソフトを用いたデータの集計、オンライン授業や SNS といった最新のトピックについて、日常生活および専門科目に適用できるレベルまで情報処理活用能力を習得することを到達目標とする。				
授 業 の 概 要	授業では、情報機器の操作（Windows の操作、プリンタ等周辺機器の使用方法）、文書の作成（電子メール、Word を利用した文書作成の方法）、情報の整理（Excel によるデータ処理、グラフ描画）の方法・技術について演習を行う。また、Web や AI、データベース等の基本的事項についてオンデマンド授業を実施する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、大学 PC・メール・教務システムの使用方法、Word の基本操作（対面）</li> <li>2 オンライン授業の活用方法と課題（オンデマンド）</li> <li>3 Word を用いた文章の入力・印刷と編集機能（対面）</li> <li>4 Word の表の作成と編集（対面）</li> <li>5 Web アプリケーション（サーバー、CGI）の基礎（オンデマンド）</li> <li>6 Word のクリップアート、ワードアートの挿入、図形描画（対面）</li> <li>7 Word のスマートアート、段組み、ドロップキャップ、ページ罫線（対面）</li> <li>8 Excel の入力・計算、ワークシートの活用 1（SUM、AVERAGE 関数）（対面）</li> <li>9 Excel のワークシートの活用 2（MAX、MIN、COUNT、COUNTA、IF 関数）（対面）</li> <li>10 AI 技術と社会への応用（オンデマンド）</li> <li>11 Excel のグラフの作成（棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、3D グラフ、複合グラフ）（対面）</li> <li>12 Excel のデータベース、データの抽出、ピボットテーブル（対面）</li> <li>13 Word、Excel 実習のまとめ（対面）</li> <li>14 データベース設計、SQL の基礎（オンデマンド）</li> <li>15 SNS の有用性と課題（オンデマンド）</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	毎回の授業において課題を出すので欠席はしないこと。他者が作成した課題をコピーして提出した者は、当該課題を採点から除外して評価を行う。また、対面授業とオンデマンド授業を併用して実施するので時間割を確認すること。				
学 生 対 する 評 価	オンデマンド授業 5 課題（30%）、Word 演習 4 課題（35%）、Excel 演習 4 課題（35%）				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	30 時間でマスター Word2016、実教出版、2016 年 30 時間でマスター Excel2016、実教出版、2016 年				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	情報処理Ⅱ				
担 当 教 員 名	石川 貴彦				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	情報コミュニケーションおよびネットワークに関する基礎・基本を理解し、プレゼンテーション資料の作成、Web ページの制作による情報配信やコミュニケーションなど、日常生活および専門科目に適用できるレベルまで、情報発信能力を習得することを到達目標とする。				
授 業 の 概 要	授業では、情報の表現・伝達（PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成）、情報の発信（HTML、CSS による Web ページの作成・配信）について演習を行う。また、著作権や情報モラル、IP アドレス等の基本的事項についてオンデマンド授業を実施する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、PowerPoint と Web デザインの初歩（オンデマンド）</li> <li>2 クライアントサーバーモデル、インターネットセキュリティ（オンデマンド）</li> <li>3 PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（対面）</li> <li>4 プレゼンテーション資料のブラッシュアップ、図形の挿入（対面）</li> <li>5 グラフの挿入、アニメーションの設定、リハーサルにおける操作（対面）</li> <li>6 自作スライドのストーリーシートの作成（オンデマンド）</li> <li>7 PowerPoint を活用した情報表現（自作スライド1）（対面）</li> <li>8 PowerPoint を活用した情報表現（自作スライド2）（対面）</li> <li>9 情報モラル、SNS との関わり方（オンデマンド）</li> <li>10 著作権、肖像権、情報発信者としての心構え（オンデマンド）</li> <li>11 HTML の基本要素、画像の表示（対面）</li> <li>12 ハイパーリンク、スタイルシート（CSS）の基礎（対面）</li> <li>13 ボックスモデル（対面）</li> <li>14 Web サイトの制作、ページデザイン（対面）</li> <li>15 PowerPoint、Web デザイン実習のまとめ（対面）</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	毎回の授業において課題を出すので欠席はしないこと。他者が作成した課題をコピーして提出した者は、当該課題を採点から除外して評価を行う。また、対面授業とオンデマンド授業を併用して実施するので時間割を確認すること。				
学 生 対 する 評 価	オンデマンド授業3課題（30%）、PowerPoint 演習4課題（35%）、Web デザイン演習4課題（35%）				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	30 時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2016、実教出版、2017 年 30 時間でマスター Web デザイン改訂版、実教出版、2019 年				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	法学(国際法を含む)				
担当教員名	栢山 茂樹				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(高公)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	法学全般の土台的知識を身につける。 現代日本の主要法分野ならびに国際法の概要をつかむ。				
授業の概要	本講義では、まず前半で法学全般の基礎となる事項を学ぶ。これから法学系科目を学ぶ人には必ず身につけてほしい内容である。 後半では主要法分野である憲法・民法・刑法、そして国際法の概要を解説する予定である。法学の入門としてはもちろんのこと、現代社会を知るための一般教養としても学ぶ価値はある。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義ガイダンス</li> <li>2 法とは何か</li> <li>3 法の解釈</li> <li>4 法の存在形式と分類</li> <li>5 法学文献と調査方法</li> <li>6 世界の主要法系：英米法と大陸法</li> <li>7 日本の法体系①：明治憲法下の法制度</li> <li>8 日本の法体系②：現憲法下の法制度、近年の司法制度改革・債権法改正等</li> <li>9 日本国憲法の要点①：総論・人権</li> <li>10 日本国憲法の要点②：統治機構</li> <li>11 民法の要点①：財産法</li> <li>12 民法の要点②：家族法</li> <li>13 刑法の要点：罪刑法定主義と犯罪論</li> <li>14 国際社会の法①：国連憲章下の国際法秩序</li> <li>15 国際社会の法②：人権の国際的保障</li> </ol>				
授業の留意点	本講義は、私の他の担当科目「人権と法」「子どもの権利」「日本国憲法」「教育法概論」を学ぶうえで有益である。併せて受講してもらうことを強く望む。 授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。				
学生に対する評価	期末試験(100%)。加点措置としてリアクションペーパー、小テスト等実施する場合もある。				
教科書(購入必須)	なし。毎回ハンドアウトを配布する。各自ノートをしっかりとること。				
参考書(購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤正己+加藤一郎編『現代法学入門 第4版』(有斐閣、2005)</li> <li>・末川博編『法学入門 第6版補訂版』(有斐閣、2014)</li> </ul> そのほか、参考文献を適宜紹介する。 また、法学検定ベーシック～スタンダード問題集を解いてみることもすすめる。				

科 目 名	国際関係論（国際政治を含む）				
担 当 教 員 名	大場 崇代				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(高公)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	本講義では、現代の国際社会がいかにして形成されてきたのかという点に焦点を絞り、国民国家の現状とナショナリズムの作用及び第二次世界大戦後のヨーロッパ政治について学ぶ。この学習を通じて、各受講生が国際関係について理解を深めるとともに、現代世界がどのように構築されてきたのか、残された課題は何なのかについて自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。				
授業の概要	20世紀、人類は二度の悲惨な世界大戦を体験し、その後の米ソ冷戦体制下では「核戦争の恐怖」の中での生活を余儀なくされた。そして21世紀に入っても、地球上には依然として戦火が絶えず、急進的なナショナリズムもいまだに大きな影響力を持っている。こうした認識の下、本講義では国際関係について主にヨーロッパを中心に検討する。まず、国民国家とナショナリズムについて考察し、その後、二つの世界大戦とその後の国際体制について検討する。さらに、冷戦体制と戦後ヨーロッパにおける平和の構築という観点から、分断国家であったドイツを中心としつつヨーロッパの動向を検討する。その上で、現代国家のあり方として重要な概念である福祉国家の現状についても取り上げる。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 「政治」、「国際関係」とは何か</li> <li>3 「国家」、「ナショナリズム」とは何か</li> <li>4 第一次世界大戦後の世界①ヴェルサイユ体制</li> <li>5 第一次世界大戦後の世界②ファシズム国家の展開</li> <li>6 第二次世界大戦後の世界①冷戦とは何か</li> <li>7 第二次世界大戦後の世界②冷戦体制の現実</li> <li>8 冷戦体制下の東西関係①西ドイツを例として</li> <li>9 冷戦体制下の東西関係②ベルリン問題と東ドイツ</li> <li>10 冷戦体制下の永世中立国－オーストリアを例として</li> <li>11 冷戦体制の終結</li> <li>12 ヨーロッパの統合</li> <li>13 EU－国家連合から連邦国家へ？</li> <li>14 福祉国家の理論と現実</li> <li>15 おわりに－国際関係をどう見るか</li> </ol>				
授業の留意点	履修にあたっては、高校世界史、政治・経済の内容を再確認しておくことが望ましい。また、予習としては、日常的に世界政治の動向に関心を払い、新聞等を積極的に読んでおくことが必要である。復習としては、講義内容をふまえてノートやプリントを整理することが求められる。出席状況に十分留意すること。				
学生に対する評価	定期試験及び小テストの結果に基づいて評価する。配点は、定期試験を80点、小テストを20点とする。				
教科書（購入必須）	使用しない。講義時に資料を配布する。				
参考書（購入任意）	山本左門『現代国家と民主政治（改訂版）』（北樹出版、2010年） 平島健司、飯田芳弘『改訂新版 ヨーロッパ政治史』（放送大学教育振興会、2010年） その他は講義時に指示する。				

科 目 名	人権と法				
担 当 教 員 名	栢山 茂樹				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(高公)：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<p>基本的人権の理念と、それにまつわる法的争点を学ぶ。人権とは何かを理解し議論できるようにする。憲法の権利規定の解釈等について、法学の専門的水準の知見を身につけてもらう。</p>				
授 業 の 概 要	<p>憲法人権分野の事例を題材に、その典型論点を学ぶ。現代日本で起きている人権問題の動向、およびそれに関する憲法上の議論を学ぶ。 現代社会では人権理念が普及する一方で、それに反動する民族主義・差別主義等も台頭してきている。その渦中にあるわれわれは、人権についての見識や公共心をどれだけ備えているかが試されているのである。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義ガイダンス、憲法に対する誤解を解く</li> <li>2 憲法総論：国家・憲法・法律</li> <li>3 人権と憲法上の権利</li> <li>4 外国人の人権①：入管法のしくみ</li> <li>5 外国人の人権②：マクリーン事件ほか</li> <li>6 外国人の人権③：ヘイトスピーチ</li> <li>7 公共の福祉と違憲審査基準</li> <li>8 私人間効力論：三菱樹脂事件ほか</li> <li>9 女性の人権：女性の再婚禁止期間最高裁判決</li> <li>10 ジェンダー：夫婦同氏訴訟最高裁判決</li> <li>11 L G B T Qの人権：府中市青年の家事件ほか</li> <li>12 少数民族の人権：二風谷ダム事件</li> <li>13 婚外子差別：婚外子法定相続分規定訴訟</li> <li>14 信教の自由・プライバシー権：イスラム教徒個人情報流出事件</li> <li>15 公務員の政治活動の自由：猿払・堀越・宇治橋事件</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	<p>本講義は私の担当科目「日本国憲法」を補完するものでもある(そのため、同一内容の回もあることをお断りしておく)。併せて受講してもらうことを強く望む。「法学(国際法を含む)」「子どもの権利」「教育法概論」とも関連がある。 授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。</p>				
学 生 対 対 する 評 価	<p>期末試験(100%)。加点措置としてリアクションペーパー、小テスト等実施する場合もある。</p>				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	<p>なし。毎回ハンドアウトを配布する。各自ノートをしっかりとること。</p>				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	<p>独習用のテキストとして、以下を紹介する。そのほか、参考文献を適宜紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デイリー法学選書編修委員会編『ピンポイント憲法』(三省堂、2018)</li> <li>・中村睦男編著『はじめての憲法学 第3版』(三省堂、2015)</li> <li>・棟居快行ほか『基本的人権の事件簿 第6版』(有斐閣、2019)：旧版も参照。</li> </ul>				

科 目 名	社会学概論				
担当教員名	小野寺 理佳				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職(高公)・社福士・精保士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. 現代社会の特性を理解する。 2. 生活の多様性について理解する。 3. 人と社会の関係について理解する。 4. 社会問題とその背景について理解する。				
授業の概要	本講義では、現代社会の成り立ちと特徴、そこにおいて人々が展開する多様なライフスタイルをとらえながら、人々が社会を変え、社会が人々を規定するありようを学び、現代社会が生み出した様々な社会問題とそれがもつ意味について考える。				
授業の計画	1 社会学の視点～社会学の歴史と対象 2 社会構造と変動 (1) 社会システム 3 社会構造と変動 (2) 組織と集団 4 社会構造と変動 (3) 人口とグローバリゼーション 5 社会構造と変動 (4) 社会変動 6 社会構造と変動 (5) 地域 7 社会構造と変動 (6) 環境 8 市民社会と公共性 (1) 社会的格差と社会政策・社会問題 9 市民社会と公共性 (2) 差別と偏見 10 市民社会と公共性 (3) 災害と復興 11 生活と人生 (1) 家族とジェンダー 12 生活と人生 (2) 健康と労働 13 生活と人生 (3) 世代 14 自己と他者 (1) 自己と他者 15 自己と他者 (2) 社会化と相互行為				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの該当箇所、関連箇所を予習・復習として読むこと。</li> <li>・受講者の関心動向によって、順序を入れ替える場合がある。</li> <li>・リアクションペーパーの提出を求めることがある。</li> </ul>				
学生に対する評価	レポート 20 点 試験 80 点 合計 100 点				
教科書 (購入必須)	テキストについては別途周知する。				
参考書 (購入任意)					



科目名	家族社会学				
担当教員名	小野寺 理佳				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	教職(高公):必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. 現代家族の成立の歴史についての基本的知識を得る。 2. 家族とは何かを考え、自分の家族観を相対化することができる。 3. 将来の実践者として、家族の多様化をふまえて人々の生活を考えることができる。				
授業の概要	家族社会学は、直面する家族問題を深く理解し実践に活かすために参照される学問である。社会そして家族集団において人々は多様な立場におかれ、立場によって家族の見え方も家族に求めるものも異なる。本講義では、身近で具体的な事柄を取り上げながら、愛情、自由、選択、責任、血縁、法律、人権、福祉、倫理など様々な視角から家族事象を考えていく。				
授業の計画	1 家族ってなに？家族って誰？(1) あなたの家族は誰ですか 2 家族ってなに？家族って誰？(2) 誰が家族を決めるのか 3 近代家族の誕生(1) 近代家族の特徴 4 近代家族の誕生(2) 近代家族を支える思想 5 近代家族の揺らぎ(1) 家族の変容 6 近代家族の揺らぎ(2) 家族を選択する時代 7 家族の現在(1) 家族に何を求めるか 8 家族の現在(2) 自由と選択 9 恋愛結婚と近代家族(1) 恋愛の定義 10 恋愛結婚と近代家族(2) 近代家族における恋愛の意味 11 生殖補助医療における親子関係(1) 生殖補助医療とは何か 12 生殖補助医療における親子関係(2) 父は誰か、母は誰か 13 生殖技術と市場(1) 自由を制限するもの 14 生殖技術と市場(2) 自由と自己責任 15 コ・ハウジング				
授業の留意点	・テキストの該当箇所、関連箇所を予習・復習として読むこと。 ・受講者の関心動向によって、内容構成や順序を調整する場合がある。 ・リアクションペーパーの提出を求めることがある。				
学生に対する評価	レポートにより評価する(100点)。				
教科書(購入必須)	神原文子・杉井潤子・竹田美和 編著 やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ 『よくわかる現代家族』[第2版] ミネルヴァ書房 2016年				
参考書(購入任意)					
参考書(購入任意)					

科目名	経済学概論				
担当教員名	今野 聖士				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	教職(高公)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	①経済学という学問の世界観・ものごとの捉え方を理解できる、②資本主義経済の段階的発展および各段階における特徴を理解できる、③社会人として最低限身につけておくべき経済学の知識(明治以降の経済史を含む)を習得する、以上の3つの能力を育成する。				
授業の概要	<p>経済学は、「資本主義」という仕組みによって成立している人間社会の仕組みを理解しようとする学問である。モノの〈生産・流通・分配〉のしくみや、貨幣(お金)・金融システム、市場原理主義と格差社会等のテーマについて解説する。また、日本経済を事例として、資本主義経済の歴史を取り上げる。経済学の初心者でも理解できるよう、できるだけ例をあげて説明する。</p> <p>スライドを使用した1回完結型の講義をおこなう。資料を毎回配布する。</p> <p>履修人数の多い本講義は、COVID-19の状況が改善しないかぎりオンライン講義もしくはハイフレックス講義(人数制限をした対面講義+配信)となる可能性が高い。オンライン講義に対応できる視聴機材を準備しておくこと。形式はオンデマンド講義(解説動画配信)+手元資料への書き込みを予定している。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスー経済学とは何かー</li> <li>2 分業の利益</li> <li>3 需要と供給・価格メカニズム</li> <li>4 市場の効率性</li> <li>5 市場の限界①(情報の非対称性・モラルハザード・逆選択)</li> <li>6 市場の限界②(所得分配の不公平・貧困問題)</li> <li>7 労働市場の機能と限界</li> <li>8 GDP</li> <li>9 貨幣と中央銀行</li> <li>10 政府の役割</li> <li>11 外国為替市場の仕組み</li> <li>12 株式市場の仕組み</li> <li>13 日本経済のあゆみ①(明治期からWW1まで)</li> <li>14 日本経済のあゆみ②(WW1からWW2まで)</li> <li>15 日本経済のあゆみ③(戦後について)</li> </ol>				
授業の留意点	<p>講義の最後10分程度を使ってその講義に関する質問を書き、提出を求める(必須・評価対象)。受講人数によっては全てに答えられませんが、基本的には次の講義の冒頭で回答し、双方向の講義展開を行います。</p> <p>新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックする習慣を身につけること。</p> <p>特に図書館に配架されている「東洋経済」「日経ビジネス」等の経済雑誌は興味がある号で構わないので目を通しておくとより理解が深まる。</p>				
学生に対する評価	毎回の質問票で30点、期末課題(レポートとミニテスト)70点の合計100点で評価する。				
教科書(購入必須)	使用しない。毎回資料を配付する。期末レポートの際に必要なので無くさずに保存しておくこと。専用のファイル等を用意することが望ましい。				
参考書(購入任意)	指定しない。必要があれば講義中に随時紹介する。				

科目名	現代経済論（国際経済を含む）				
担当教員名	今野 聖士				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	教職(高公)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①現代日本の経済システムと経済問題を理解して説明できる          ②社会で生じているさまざまな問題を、経済学の視点から論じることができる          ③グローバル化しつつある世界経済のしくみを理解して説明できる          以上の3つの能力を育成する。</p>				
授業の概要	<p>現代経済論では、グローバル化する世界経済の下で、戦後70年を迎えた日本経済が今どうなっているのか。また、どのようにここまで歩んできたのか。そしてどのような理論でそれを説明することが出来るのか。と言った視点を持ちながら、現代日本の経済と関連する国際経済について解説していく。</p> <p>講義の形式としてはスライドを使用した1回完結型の講義をおこなう。資料を毎回配布する。履修人数の多い本講義は、COVID-19の状況が改善しないかぎりオンライン講義もしくはハイフレックス講義（人数制限をした対面講義＋配信）となる可能性が高い。オンライン講義に対応できる視聴機材を準備しておくこと。形式はオンデマンド講義（解説動画配信）＋手元資料への書き込みを予定している。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス日本経済のいま—戦後70年の日本経済—</li> <li>2 日本経済のいま—戦後70年の日本経済—</li> <li>3 日本経済の今②</li> <li>4 経済の成長と循環</li> <li>5 望ましい物価とは</li> <li>6 財政は再建できるのか①（高齢化と財政負担・財政改革・年金改革）</li> <li>7 財政は再建できるのか②（財政の仕組み・財政の理論）</li> <li>8 日本の貿易はどう変わったのか</li> <li>9 変わる産業構造と雇用</li> <li>10 変わる産業構造と雇用②</li> <li>11 地球環境とエネルギー問題①</li> <li>12 地球環境とエネルギー問題②</li> <li>13 地球環境とエネルギー問題③</li> <li>14 日本の選択—未来世代に豊かな成熟社会を①</li> <li>15 日本の選択—未来世代に豊かな成熟社会を②</li> </ol>				
授業の留意点	<p>講義の最後10分程度を使ってその講義に関する質問を書き、提出を求める（必須・評価対象）。受講人数によっては全てに答えられませんが、基本的には次の講義の冒頭で回答し、双方向の講義展開を行います。</p> <p>新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックする習慣を身につけること。特に図書館に配架されている「東洋経済」「日経ビジネス」等の経済雑誌は興味がある号で構わないので目を通しておくとより理解が深まる。</p>				
学生に対する評価	毎回の質問票（30点）、期末課題（レポートとミニテスト）70点の合計100点で評価する。				
教科書（購入必須）	使用しない。毎回資料を配付する。期末レポートの際に必要なもので無くさずに保存しておくこと。専用のファイル等を用意することが望ましい。				
参考書（購入任意）	指定しない。必要があれば講義中に随時紹介する。				

科目名	哲学				
担当教員名	古牧 徳生				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	教職(高公)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>まずは童心に返って自然を観察しよう。何か規則的なものがあることが分かるだろう。それは目を凝らしても見えないし、耳を澄ましても聞こえない。となると考えるしかない。そこで古代人は理屈に理屈を重ねていくうちに、自然を超えたものを想定するに至った。しかし感覚できないものがどうして分かるのか。こうして彼らは懐疑に陥った。それを乗り越えるため、人類に恩寵を約束するキリスト教の神を前提にしたことで哲学は中世においては神学になった。だが神学の言うところは哲学以上に曖昧であるから、やがて懐疑が復活した。神学が駄目となると後は感覚に頼るしかないから、感覚できる現象を繰り返し観察していくうちに中世の自然学者たちは実験という手法を生み出した。その結果を数字で表現することを思いついたとき、科学が誕生した。もうお分かりだろう。哲学とはすべての学問の根幹であり、すべての学問は哲学の一部なのだ。だから哲学の歩んだ道を知ると、学問のあるべき姿を知る助けになる。つまりどんな学問も、豊富なデータを土台に論理的思考を重ねていかねばならないのである。そのことを知るまでの先人の苦闘を辿っていこう。</p>				
授業の概要	<p>いかなる学問も確実な認識ができなければ成立しない。ではその確実な認識はいかにすれば可能なか。いや、その前に確実な認識は可能なのだろうか。いや、そもそも確実なものなどあるのだろうか。古代ギリシア以来、人類を悩まし続けてきた難問とそれへの先人たちの苦闘を見ていくことで、人間の能力には絶望的困難があることを理解し、これから大学で学んでいくうえで必要な知識に対する謙虚な態度を涵養してもらいたい。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本真に在るものの探求</li> <li>2 ソクラテスの問いかけ</li> <li>3 プラトンのイデア論</li> <li>4 アリストテレスの超自然</li> <li>5 懐疑主義と神秘主義</li> <li>6 アウグスチヌスの方法的信仰</li> <li>7 初期中世哲学</li> <li>8 大学の発生とアリストテレスの流入</li> <li>9 神学者たちの対立</li> <li>10 後期中世哲学と懐疑の復活</li> <li>11 デカルトの方法的懐疑</li> <li>12 理性主義の世界観</li> <li>13 イギリスの経験主義</li> <li>14 カントの批判哲学</li> <li>15 人格的神の退場</li> </ol>				
授業の留意点	<p>板書が多少あるが、写す必要はない。とにかく落語と思って聞きなさい。それから私語は絶対にしないこと。 それから新型コロナウイルス感染症の感染状況によってはオンデマンドになる可能性もある。</p>				
学生に対する評価	<p>期末試験（100点満点）で評価する。出席は参考程度。オンデマンドの授業の場合は出席と簡単なアンケートのみ。</p>				
教科書（購入必須）	<p>プリントを配布する。</p>				
参考書（購入任意）	<p>『哲学のアポリア』（J.&amp;S. Rachels 著 晃洋書房）</p>				

科目名	倫理学				
担当教員名	古牧 徳生				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	教職(高公):必修	資格要件	教職(高公):必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	主要な倫理説の趣旨を、現実の次元に即して、自分なりに、自分の言葉で説明できること。				
授業の概要	<p>今はむかし、昭和天皇は「雑草という草はありません」と言われたそうだ。まことに名言である。日本人にはレンコンとかゴボウとかワラビとかゼンマイは野菜だが、西洋人にとってはまったくの雑草にすぎない。昔の日本人なら食べなかったマグロのトロは今では高級食材である。ということは自然の世界にもともと価値などないのに、人間が自分の都合に合わせて野菜とか雑草とか言っているわけである。さらに道徳とは「善い」とか「立派」といった高い価値を追求して生きることであるから、道徳についても自然法則のような客観的な基準などないことになる。しかし我々は現実に道徳を云々して生活をしているのだから、ここで一度くらいは価値とか道徳とか考えてみてもいいだろう。本授業では西洋の哲学者たちの倫理思想を見ていくことで、時代や地域の制約を越えて人間のあるべき姿がはたしてあるのか考えてみたい。</p> <p>内容は大きく分けて四つに分けられる。時代順にまず(1)古代の徳の倫理説を見たあと、(2)功利主義へと至る近世イギリスの一連の道徳感覚説を一つずつ見ていこう。次にそれと対比する形で(3)カントの倫理説を見てみよう。それから(4)進化倫理の主張を見ていこう。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ピュシスとノモス</li> <li>2 アリストテレスと徳の倫理</li> <li>3 エピクロスとストア派</li> <li>4 キリスト教倫理</li> <li>5 ホッブズの性悪説の社会契約論</li> <li>6 ロックの性善説の社会契約論</li> <li>7 シャフツベリとマンデビル</li> <li>8 ハチソンとアダム・スミス</li> <li>9 ヒューム</li> <li>10 功利主義 1</li> <li>11 功利主義 2</li> <li>12 カントの倫理説 1</li> <li>13 カントの倫理説 2</li> <li>14 進化倫理 1</li> <li>15 進化倫理 2</li> </ol>				
授業の留意点	<p>とにかく道徳とか倫理と聞くと非常に堅苦しい響きがあるため、一般の受けは哲学以上に芳しくない。だが本当は哲学の中では一番わかりやすい分野であるし、哲学の諸分野の中でこれからも残るのは第一に倫理学だと思うから、とにかく聞いてもらいたい。なお板書が非常に多いが、無理に写す必要はない。</p>				
学生に対する評価	試験がすべて。受講者が数人程度なら 30 分程度の口頭試問をする。				
教科書(購入必須)	特になし。				
参考書(購入任意)	<p>一応、参考書として図書館にあるのを訳書をあげておく。『現実をみつめる道徳哲学』『ダーウィンと道徳的個体主義』 『倫理学に答えはあるか』『卓越の倫理』『哲学のアポリア』</p>				

科目名	心理学				
担当教員名	糸田 尚史				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	栄養：選択 社福：必修	資格要件	教職(高公)・社福士・精保士：必修
実務経験及び授業内容	児童相談所と児童家庭支援センターにおいて心理臨床の実務経験を有する教員が、人間の心と行動に関する科学的理解と心理的支援の方法について指導する科目				
学習到達目標	①人間の心の基本的なしくみとはたらき、環境との相互作用によって生じる心理と行動について理解する。②人間の発達段階に応じた心理的課題について理解する。③日常生活と心の健康との関係性について理解する。④心理学的なものの見方や考え方に基づいたアセスメントの方法と支援について理解する。				
授業の概要	人間(動物)の心と行動を客観的・科学的に研究する学問としての「心理学」について、日常生活にひそむ心理学的な現象を実際に体験していただきながら進める。脳にハッキングをかけたり、心理系の映画や映像などを視聴したりして、体系的かつ実践的に学習する。また、多数の写真・イラスト・マンガなどのビジュアル・プラクティスも活用し、人間の認知、子どもから大人までの生涯発達、心理的支援などについて考えていく。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 心理学の歴史・対象・方法：心理学史、哲学的心理学、要素構成主義、機能主義、精神分析、行動主義、ゲシュタルト心理学、認知心理学、生態学的心理学、進化心理学、行動科学、履修上の注意事項、成績評価の方法</li> <li>2 感覚・知覚①：脳、神経システム、感覚遮断(SD)、順応、闕(いき)、サブリミナル効果、プライミング効果、文脈効果、知覚的セット(構え)、選択的注意、非注意による見落とし、目、盲点の実験、視覚</li> <li>3 感覚・知覚②：色彩視、色覚多様性、図と地、ルビンの盃、多義図形(曖昧図形)、ゲシュタルト知覚、両眼視差、立体視、奥行知覚、エイムズの部屋</li> <li>4 感覚・知覚③：錯視、錯覚、ミュラー＝リヤー錯視、サッチャー(トンブソン)錯視、シェパード錯視、カフェウォール錯視、恒常性、共感覚(異感性間協応)、擬態</li> <li>5 感覚・知覚④：耳、聴覚、音源定位、腹話術効果、錯聴、マガーク効果、鼻、嗅覚、舌、味覚、umami(うまみ)、味覚嫌悪学習(条件づけられた味覚忌避)</li> <li>6 感覚・知覚⑤：触覚、ホムンクルス、アリストテレスの錯覚、バクシオン(視覚誘導性自己運動感覚)、アフオーダンス、応用心理学、認識(認知)と文化</li> <li>7 記憶：多重(二重)記憶モデル、系列内位置効果、H・M氏、感覚記憶、残像、残効、ワーキングメモリー(短期記憶)、長期記憶、記憶術、忘却、虚偽記憶、ツァイガルニク効果</li> <li>8 思考・言語・知能：思考、概念、推論、問題解決、ウェイソン選択課題、演繹、帰納、ヒューリスティックス、認知バイアス、言語発達、言語相対性仮説、言語獲得、失語症、言語検査、知能理論、知能検査、IQ(知能指数)、知的能力障害(知的発達症)</li> <li>9 学習：慣れ(馴化)・感作(鋭敏化)、古典的条件づけ、強化、消去、般化、弁別、生物学的制約、オペラント条件づけ、問題箱、動因低減説、洞察学習、潜在学習、社会的認知(社会的学習)理論、学習転移</li> <li>10 感情と動機づけ：誘導運動、感情生起のメカニズム、動機づけ(モチベーション)、内発的動機づけ、欲求階層説、葛藤、欲求不満、原因帰属理論、自己効力感、学習性無力感</li> <li>11 性格とパーソナリティ：類型(タイプ)論、特性論、ビッグ・ファイブ、力動論、状況論、相互作用論、心理検査法、人格検査、ロールシャッハ検査、TAT(主題統覚検査)、P-Fスタディ(絵画欲求不満検査)、Y-G性格検査、Baumtest(樹木画検査)</li> <li>12 社会と集団：社会的促進、社会的抑制、社会的手抜き、援助行動、社会的比較過程理論、自己開示、対人魅力、リーダーシップ、集団浅慮、態度、バランス理論、同調、服従、偏見・差別、流言、説得、認知的不協和</li> <li>13 発達：生涯発達、発達段階、発達課題、遺伝・環境、輻輳説、相互作用説、行動遺伝学、エソロジー(動物行動学)、アタッチメント(愛着)、発生的認識論(認知発達理論)、道徳性の発達、アイデンティティ(自我同一性)、中年期の危機、結晶性知能・流動性知能、認知症</li> <li>14 心理臨床①：ストレス理論、汎適応症候群、タイプA、嗜癖、依存症、トラウマ、心的外傷後ストレス症(PTSD)、サバイバーズ・ギルト、臨床心理アセスメント、ケース・フォーミュレーション(事例定式化)、公認心理師</li> <li>15 心理臨床②：心理的障害、サイコセラピー(心理療法/精神療法)、精神分析、応用行動分析療法、認知行動療法、ソーシャル・スキル・トレーニング(SST)、カウンセリング、家族療法、解決志向アプローチ(SFA)、ナラティブ・セラピー、社会構成主義、ソーシャルワーク</li> </ol>				
授業の留意点	スライドを用いた心理学実験も時々行うので、楽しみながらもアクティブに(主体的・対話的に深く)学修していただきたい。配布資料は順番に綴り、遺漏のないように管理してほしい。				
学生に対する評価	(1) レポート形式による期末試験：50点 (2) 授業毎の小レポート：30点 (3) 学修態度：20点				
教科書(購入必須)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編 『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 2 心理学と心理的支援』 2021年				
参考書(購入任意)	心理学専門校ファイブアカデミー著 『心理学 キーワード&キーパーソン事典』 ナツメ社 2020年 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 編 『心理学：第5版補訂版』 東京大学出版会 2020年 坂口典弘・相馬花恵 編 『ステップアップ心理学シリーズ「心理学入門」：こころを科学する10のアプローチ』 講談社 2018年 山村豊・高橋一公 著 『心理学 [カレッジ版]』 医学書院 2017年 長田久雄 編 『看護学生のための心理学：第2版』 医学書院 2016年 下山晴彦 編 『誠信 心理学事典(新版)』 誠信書房				

科目名	生命倫理				
担当教員名	古牧 徳生				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	教職(高公)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>20世紀半ば、医療技術の進歩により植物状態や臓器移植、さらには経口避妊薬が現れたことは医療の現場のみならず社会全体にも大きな影響を与えた。従来の医療倫理が現実によって乗り越えられてゆく有様をみて、医療関係者たちは個々の例に即応した状況主義的解決を模索するようになった。それが生命倫理という20世紀の決議論 Casuistry である。本授業の到達目標は次の二つである。</p> <p>(1) 生命倫理において議論されている主要な問題点を理解する。</p> <p>(2) それらの問題の背後にはいかなる思想があるのか洞察する。</p>				
授業の概要	<p>生命倫理が登場した60年代の時代背景からまずパーソン論を説明し、そこから第Ⅰ部として安楽死・尊厳死、脳死と臓器移植、脳死体利用とアニマリズムを、第Ⅱ部として中絶、人工授精、体外受精、遺伝子治療、遺伝管理社会を、第Ⅲ部として万能細胞やクローン人間、遺伝子改良など遺伝子医療の近未来を見ていきたい。全体を通せば「権利主体をどう確定するか」(パーソン論)が第Ⅰ部と第Ⅱ部の問題であり、それはつまり人間観の問題であって究極的には世界観にまで行きつく。つまり社会の宗教離れにより、それまでの規範が力を失ったため、行為の是非は個人の欲望で判断する以外になくなってしまったのである。つまり快樂主義だ。では個人の欲望がすべてとなると将来はどうなるか。それが第Ⅲ部の問題である。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生命倫理の登場</li> <li>2 新しい医療</li> <li>3 安楽死</li> <li>4 安楽死から尊厳死へ</li> <li>5 脳死と臓器移植</li> <li>6 脳死者と動物</li> <li>7 出生回避</li> <li>8 出生回避は悪いか</li> <li>9 生殖補助(1)</li> <li>10 生殖補助(2)</li> <li>11 出生操作</li> <li>12 優生思想</li> <li>13 遺伝子医療</li> <li>14 再生医療</li> <li>15 クローン人間</li> </ol>				
授業の留意点	<p>板書があっても無理に写す必要はない。真面目に聞いてくれれば結構。医学の進歩が皆さん一人一人にとって切実な問題であること、人類全体としても大変な曲がり角にあること、さらには従来の倫理観がもはや曲がり角に来ていることが理解できることだろう。なお新型コロナウイルス感染症の感染状況によってはオンデマンドになる可能性もある。</p>				
学生に対する評価	<p>期末試験(100点満点)で評価する。</p>				
教科書(購入必須)	<p>なし。</p>				
参考書(購入任意)	<p>『基礎から学ぶ生命倫理学』村上喜良(勁草書房)  『生命倫理の教科書』黒崎剛/野村俊明(ミネルヴァ書房)  『神と生命倫理』古牧徳生編(晃洋書房)</p>				

科 目 名	公民科指導法 I				
担当教員名	三戸 尚史				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(高公)：必修	資 格 要 件	教職(高公)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>&lt;到達目標&gt; 「良識ある公民としての資質」をはぐくむために必要となる見方・考え方、意識、行動、生き方・あり方を学び、それに対して適切な学習指導法を探究し、自らが社会の一員としての自覚と責任を身につける。</p> <p>&lt;授業目標&gt; 日本国憲法・教育基本法の理想とする平和で民主的な国家社会の形成者を育成する教科であるということをしっかり認識し、授業実践などを具体的に学びながら、社会科授業の理論と実際を習得させることを目標とする。</p>				
授業の概要	生徒が能動的に学ぶ意欲を引き出すための授業のあり方(年間計画内容、教材、方法など)について、学生の理解を促したい。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 社会科教師に求められるもの</li> <li>3 社会科成立の歴史(戦前の社会科、戦後の社会科)</li> <li>4 学習指導要領の変化と社会科教育</li> <li>5 公民科の目標と公民科の学力</li> <li>6 公民科授業づくりの可能性と課題</li> <li>7 「社会科」と「公民科」という教科について</li> <li>8 公民科教育の現状と課題</li> <li>9 「公民科」の内容分析と指導方法</li> <li>10 学習指導案の作成について</li> <li>11 学習指導案の実践事例分析と作成実践</li> <li>12 模擬授業の実施と分析①</li> <li>13 模擬授業の実施と分析②</li> <li>14 模擬授業の総括(意見交換・レポート)</li> <li>15 前期のまとめ</li> </ol>				
授業の留意点	事前に配布する資料に基づいて、受講者への予習・復習の内容等について、その都度指示する。学習指導案づくり、模擬授業のための知識・理論など総合的力量を身につけさせたい。学生が自主的、意欲的に講義に参加することを期待する。				
学生に対する評価	授業参加態度、試験、レポート、模擬授業等により総合的に評価する。 100点満点(授業参加態度20点、試験・レポート60点、模擬授業20点)				
教科書(購入必須)	高等学校教科用図書(『現代政治・経済』:清水書院) ※但し、高校時代に使用していた教科書が手元にある場合は、購入の必要なし 『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版 2018年(平成30年)				
参考書(購入任意)	佐藤功著『憲法と君たち』(時事通信社) 木村草太著『憲法という希望』(講談社現代新書)				



科 目 名	公民科指導法Ⅱ				
担当教員名	三戸 尚史				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(高公):必修	資 格 要 件	教職(高公):必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>&lt;到達目標&gt; 「良識ある公民としての資質」をはぐくむために必要となる見方・考え方、意識、行動、生き方・あり方を学び、それに対して適切な学習指導法を探究し、自らが社会の一員としての自覚と責任を身につける。</p> <p>&lt;授業目標&gt; 日本国憲法・教育基本法の理想とする平和で民主的な国家社会の形成者を育成する教科であるということをしっかり認識し、授業実践などを具体的に学びながら、社会科授業の理論と実際を習得させることを目標とする。</p>				
授業の概要	生徒が能動的に学ぶ意欲を引き出すための授業のあり方(年間計画内容、教材、方法など)について、学生の理解を促したい。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 「現代社会」「政治・経済」「倫理」の内容分析と指導方法①</li> <li>3 「現代社会」「政治・経済」「倫理」の内容分析と指導方法②</li> <li>4 創造的な授業実践から学ぶもの</li> <li>5 新聞記事を生かした授業(情報機器の活用を含む)</li> <li>6 討論授業の工夫</li> <li>7 時事問題について分析と研究協議①(情報機器の活用を含む)</li> <li>8 時事問題について分析と研究協議②(情報機器の活用を含む)</li> <li>9 学習指導案の作成と検討</li> <li>10 模擬授業の実施と分析①</li> <li>11 模擬授業の実施と分析②</li> <li>12 模擬授業の実施と分析③</li> <li>13 模擬授業の実施と分析④</li> <li>14 模擬授業の総括(意見交換・レポート)</li> <li>15 後期のまとめ</li> </ol>				
授業の留意点	事前に配布する資料に基づいて、受講者への予習・復習の内容等について、その都度指示する。学習指導案づくり、模擬授業のための知識・理論など総合的力量を身につけさせたい。学生が自主的、意欲的に講義に参加することを期待する。				
学生に対する評価	授業参加態度、試験、レポート、模擬授業等により総合的に評価する。 100点満点(授業参加態度20点、試験・レポート60点、模擬授業20点)				
教科書(購入必須)	高等学校教科用図書(『現代政治・経済』:清水書院) ※但し、高校時代に使用していた教科書が手元にある場合は、購入の必要なし 『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版 2018年(平成30年)				
参考書(購入任意)	佐藤功著『憲法と君たち』(時事通信社) 木村草太著『憲法という希望』(講談社現代新書)				

科目名	社会福祉原論 I				
担当教員名	高阪 悌雄				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	教職(高福)・社福士・精保士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。</p> <p>②社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。</p> <p>③社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。</p> <p>④福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。</p>				
授業の概要	<p>テキストに沿って基本事項の理解と暗記に努め、前期の終わりには以下の項目の把握を目指す。</p> <p>①社会福祉の原理、②社会福祉の歴史、③社会福祉の思想・哲学、理論、④社会問題と社会構造、④福祉政策の基本的な視点</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会福祉の原理を学ぶ視点</li> <li>2 社会福祉の歴史を学ぶ視点①－歴史観、政策史、実践史、発達史、時代区分</li> <li>3 社会福祉の歴史を学ぶ視点②－日本と欧米の社会福祉の比較史の視点</li> <li>4 日本の社会福祉の歴史的展開</li> <li>5 欧米の社会福祉の歴史的展開</li> <li>6 社会福祉の思想・哲学①－社会福祉の思想・哲学の考え方、人間の尊厳</li> <li>7 社会福祉の思想・哲学②－社会正義、平和主義</li> <li>8 社会福祉の理論①－社会福祉の理論の基本的な考え方、戦後社会福祉の展開と社会福祉理論</li> <li>9 社会福祉の理論②－社会福祉の理論(政策論、技術論、固有論、統合論、運動論、経営論)、欧米の社会福祉の理論</li> <li>10 社会福祉の論点</li> <li>11 社会福祉の対象とニーズ</li> <li>12 現代における社会問題</li> <li>13 社会問題の構造的背景</li> <li>14 福祉政策の概念・理念</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本事項を理解して憶えてもらう。教科書を予習の段階で読み込み、復習の段階で授業内で指示をした基本項目の暗記に努める。</li> <li>・教科書に沿って進めていくので、毎回教科書を持参すること。</li> </ul>				
学生に対する評価	<p>毎回小テストを実施する。小テストは1回10点とし、15回分の総得点で成績を評価する。授業を欠席した場合は0点となるので注意すること。また私語や遅刻等、明らかに授業の進行の妨げとなる行為は減点する。</p>				
教科書(購入必須)	「現代社会と福祉 第2版」大橋謙策、白澤政和編著 ミネルヴァ書房				
参考書(購入任意)	なし				

科目名	社会福祉原論Ⅱ				
担当教員名	高阪 悌雄				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	教職（高福）・社福士・精保士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。</p> <p>②福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。</p> <p>③福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。</p> <p>④福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。</p>				
授業の概要	<p>テキストに沿って基本事項の理解と暗記に努め、1年生の終わりには以下の項目の把握を目指す。</p> <p>①福祉政策におけるニーズと資源、②福祉政策の構成要素と過程、③福祉政策の動向と課題、④福祉政策と関連施策、⑤福祉サービスの供給と利用過程、⑥福祉政策の国際比較</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 福祉政策におけるニーズ－種類と内容・把握方法</li> <li>2 福祉政策における資源－種類と内容・把握方法・開発方法</li> <li>3 福祉政策の構成要素①－福祉政策の構成要素とその役割・機能・政府、市場（経済市場、準市場、社会市場）、事業者、国民（利用者を含む）</li> <li>4 福祉政策の構成要素②－措置制度・多元化する福祉サービス提供方式</li> <li>5 福祉政策の過程①－政策決定、実施、評価・福祉政策の方法・手段</li> <li>6 福祉政策の過程②－福祉政策の政策評価・行政評価・福祉政策と福祉計画</li> <li>7 福祉政策と包括的支援①－社会福祉法・地域包括ケアシステム・地域共生社会</li> <li>8 福祉政策と包括的支援②－多文化共生・持続可能性（SDGs等）</li> <li>9 福祉政策と関連施策①－保健医療政策、教育政策、住宅政策</li> <li>10 福祉政策と関連施策②－労働政策、経済政策</li> <li>11 福祉サービスの供給と利用過程①－福祉供給部門</li> <li>12 福祉サービスの供給と利用過程②－福祉供給過程</li> <li>13 福祉サービスの供給と利用過程③－福祉利用過程</li> <li>14 福祉政策の国際比較</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本事項を理解して憶えてもらう。教科書を予習の段階で読み込み、復習の段階で授業内で指示をした基本項目の暗記に努める。</li> <li>・教科書に沿って進めていくので、毎回教科書を持参すること。</li> </ul>				
学生に対する評価	<p>毎回小テストを実施する。小テストは1回10点とし、15回分の総得点で成績を評価する。授業を欠席した場合は0点となるので注意すること。また私語や遅刻等、明らかに授業の進行の妨げとなる行為は減点する。</p>				
教科書（購入必須）	「現代社会と福祉 第2版」大橋謙策、白澤政和編著 ミネルヴァ書房				
参考書（購入任意）	なし				

科 目 名	社会保障論 I				
担 当 教 員 名	永嶋 信二郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. 社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の歴史も含めて理解する。 2. 社会保障制度の財政について理解する。 3. 社会保障制度の体系と概要について理解する。				
授業の概要	<p>社会保障は人々の生活において直面する社会的リスクに対応することによって人々の社会生活を保障する政策であり、セーフティ・ネットの役割を果たしている制度である。そこで、本講義では、社会保障の仕組みと歴史的展開を明らかにすることによって、社会保障が社会に対して果たしている役割を学ぶ。</p> <p>そのために、社会保障論 I では、社会保障の理論と歴史、社会保障の財政、社会保険と社会扶助、医療保険、介護保険、そして年金保険について講義を行う。</p>				
授業の計画	1 社会保障の概念・対象・理念 2 社会保障制度の歴史 3 社会保険と社会扶助 4 社会保障と財政 (1) 社会保障の費用と財源 5 社会保障と財政 (2) 社会保障と経済 6 医療保険制度 (1) 医療保険の仕組み 7 医療保険制度 (2) 健康保険と国民健康保険 8 医療保険制度 (3) 高齢者医療制度と公費負担医療 9 医療保険制度 (4) 国民医療費と医療における最近の動向 10 介護保険制度 (1) 介護保険の目的、保険者と被保険者 11 介護保険制度 (2) 介護保険の保険給付と財源 12 介護保険制度 (3) 介護保険制度における最近の動向 13 年金保険制度 (1) 年金保険の仕組み 14 年金保険制度 (2) 国民年金と厚生年金 15 年金保険制度 (3) 年金における最近の動向				
授業の留意点	<p>社会保障は、国民の関心が高い分野であることから、様々なメディアでもよく取り上げられている。よって、日頃から社会保障に関心を持ち、様々なメディアを通して、社会保障の情報に触れておくことで授業の内容も理解しやすくなると思われる。ただメディアの情報を鵜呑みにせず、自分で考えて理解するようにしてほしい。</p>				
学生に対する評価	宿題として配布するプリント (30点) と期末試験 (70点) で評価する。				
教科書 (購入必須)	テキストについては別途周知する。				
参考書 (購入任意)	椋野美智子・田中耕太郎編著『はじめての社会保障 (最新版)』有斐閣				

科 目 名	社会保障論Ⅱ				
担 当 教 員 名	永嶋 信二郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. 社会保障制度の体系と概要について理解する。 2. 公的保険制度と民間保険制度について理解する。 3. 現代社会における社会保障制度の役割と意義、そして課題について理解する。 4. 諸外国における社会保障制度について理解する。				
授業の概要	<p>社会保障は人々の生活において直面する社会的リスクに対応することによって人々の社会生活を保障する政策であり、セーフティ・ネットの役割を果たしている制度である。そこで、本講義では、社会保障の仕組みと歴史的展開を明らかにすることによって、社会保障が社会に対して果たしている役割を学ぶ。</p> <p>そのために、社会保障論Ⅱでは、労災保険、雇用保険、生活保護、社会手当、社会福祉、公的保険と民間保険、社会保障制度の現状と課題、そして諸外国における社会保障制度について講義を行う。</p>				
授業の計画	1 労災保険制度 2 雇用保険制度 3 生活保護制度 (1) 生活保護制度の目的・基本原理・基本原則 4 生活保護制度 (2) 生活保護制度の給付・実施・財政・動向 5 社会手当制度 (1) 社会手当と児童手当 6 社会手当制度 (2) 児童扶養手当、特別児童扶養手当、障害児・者に対する社会手当 7 社会福祉制度 (1) 社会福祉制度の体系と基本法・対象・給付・財政、児童福祉・子育て支援・ひとり親家庭の支援における目的・対象・給付 8 社会福祉制度 (2) 高齢者福祉と障害者福祉における目的・対象・給付・財源 9 公的保険と民間保険 (1) 社会保険と民間保険 10 公的保険と民間保険 (2) 民間保険 11 社会保障制度の現状と課題 (1) 少子高齢化 12 社会保障制度の現状と課題 (2) 経済の低成長 13 社会保障制度の現状と課題 (2) 労働市場の変化 14 諸外国における社会保障制度 (1) 諸外国における社会保障制度の概要 15 諸外国における社会保障制度 (2) 社会保障制度の国際比較				
授業の留意点	<p>社会保障は、国民の関心が高い分野であることから、様々なメディアでもよく取り上げられている。よって、日頃から社会保障に関心を持ち、様々なメディアを通して、社会保障の情報に触れておくことで授業の内容も理解しやすくなると思われる。ただメディアの情報を鵜呑みにせず、自分で考えて理解するようにしてほしい。</p>				
学生に対する評価	宿題として配布するプリント (30点) と期末試験 (70点) で評価する。				
教科書 (購入必須)	テキストについては別途周知する。				
参考書 (購入任意)	棕野美智子・田中耕太郎編著『はじめての社会保障 (最新版)』有斐閣				

科 目 名	社会福祉教育論				
担 当 教 員 名	大坂 祐二				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(高福)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	児童・生徒や成人一般が、国民の権利としての社会福祉に対する関心と理解を深め、地域福祉における参加・参画と協働をすすめるための教育活動について、具体的・実践的な活動を組織するための視点と方法を学ぶ。				
授業の概要	学校教育などにおいて教育活動として行われる福祉教育だけでなく、地域福祉活動に参加することを通して人々が互助・共助の意義を理解し、サービス利用者として、また地域福祉の担い手として主体形成してゆく過程も視野に入れて、内容を構成する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 福祉教育の概念</li> <li>2 現代の福祉課題と福祉教育</li> <li>3 学校教育における福祉教育の展開（1）「福祉のこころ」から人権教育へ</li> <li>4 学校教育における福祉教育の展開（2）体験学習をどうすすめるか</li> <li>5 学校教育における福祉教育の展開（3）ボランティア活動と福祉教育</li> <li>6 学校教育における福祉教育の展開（4）高等学校における移行支援と教育福祉</li> <li>7 生涯学習としての福祉教育（1）地域福祉活動における住民の学び</li> <li>8 生涯学習としての福祉教育（2）地域で考える認知症</li> <li>9 生涯学習としての福祉教育（3）高齢者にとっての学びと文化</li> <li>10 生涯学習としての福祉教育（4）障害者の学習権保障と社会参加</li> <li>11 生涯学習としての福祉教育（5）「助ける—助けられる」を学ぶ</li> <li>12 生涯学習としての福祉教育（6）地域共生社会の実現と福祉教育</li> <li>13 職業教育としての社会福祉教育（1）職業指導・職業教育と専門職養成</li> <li>14 職業教育としての社会福祉教育（2）援助技術教育と社会認識の形成</li> <li>15 職業教育としての社会福祉教育（3）社会福祉従事者としての職業観・倫理観の指導</li> </ol>				
授業の留意点	高等学校（福祉）の教員免許を取得しようとするものは必修となるので注意すること。				
学生に対する評価	期末のレポートで評価を行う。				
教科書（購入必須）	指定のテキストは使用しない。毎時、プリントを配布する。				
参考書（購入任意）	<p>村上尚三郎・阪野貢・原田正樹編著『福祉教育論』北大路書房、1998年</p> <p>辻 浩『住民参加型福祉と生涯学習』ミネルヴァ書房、2004年</p> <p>原田正樹『地域福祉の基盤づくり—推進主体の形成』中央法規、2014年</p>				

科 目 名	高齢者福祉論 I				
担当教員名	黄 京性				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	社会福祉士・教職（高福）：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。</p> <p>②高齢者福祉の歴史と高齢者間の変遷、制度の発展過程について理解する。</p> <p>③高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。</p> <p>④高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士として適切な支援の在り方を理解する。</p>				
授業の概要	<p>高齢者・高齢期の身体的・精神的・社会的な特徴やそれに関連する諸要因を自ら考えた上、さらに学術的及び科学的な根拠をもとに学習する。その上、現行の高齢者の健康や生活を支える諸制度・施策を体系的に学ぶ。特に、介護保険制度に関する詳細な知識習得のための構成にする。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 高齢者の定義と特性</li> <li>2 高齢者・高齢期の特徴（心理・社会的特性を中心に）</li> <li>3 高齢者を取り巻く社会環境</li> <li>4 高齢者福祉の歴史（高齢者福祉の理念、高齢者間の変遷、高齢者福祉制度の発展過程）</li> <li>5 老人福祉法の成立と法改正の特徴について</li> <li>6 老人医療費支給制度及び高齢者医療の確保に関する法律（後期高齢者医療制度）</li> <li>7 高齢者対策基本法のと高齢者対策大綱及び主な改正</li> <li>8 介護保険法及び介護保険制度 1</li> <li>9 介護保険法及び介護保険制度 2</li> <li>10 介護保険法及び介護保険制度 3</li> <li>11 高齢者虐待の現状と関連法制度</li> <li>12 高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割</li> <li>13 現代日本における認知症高齢者の現状と認知症対策（オレンジプラン）</li> <li>14 高齢者と家族等に対する支援の実際（社会福祉士の役割と多職種連携など）</li> <li>15 高齢者福祉の総括</li> </ol>				
授業の留意点	<p>加齢、高齢者、高齢期、高齢社会、介護及び年金など、全てが身近な問題であることの認識をもって授業に望んでほしい。そのためには授業前後における予習及び復習を徹底すると同時に、日頃マスコミなどの高齢者関連情報に常に興味を持つことが本科目に大いに役立つことを忘れずに。</p>				
学生に対する評価	<p>テスト(80点)とレポートなど課題への取り組み(10点)や授業態度(10点)(授業妨害行為は減点の対象)</p>				
教科書 (購入必須)	<p>高齢者に対する支援と介護保険制度 第6版(中央法規)</p>				
参考書 (購入任意)	<p>高齢社会白書、介護保険六法</p>				

科 目 名	障害者福祉論 I				
担 当 教 員 名	堀 智久				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	障害者福祉とは、障害者の社会生活上の問題を社会福祉サービスや社会福祉の援助方法を用いて解決しようとする施策と実践の総称をいう。本講義では、第一に、障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。第二に、障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。第三に、障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。第四に、障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解することをねらいとする。				
授業の概要	授業の計画にあるように、実態、歴史、障害(者)の概念等について学び、また障害者総合支援法をはじめとする障害者福祉に関する法制度について学習する。福祉サービスとその実施体制、専門職の役割や実際等について学ぶとともに、他職種連携、ネットワーキング等の望ましいあり方についても取り上げたい。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害概念と特性(1) 国際生活機能分類 (ICF)</li> <li>2 障害概念と特性(2) 障害者の定義と特性</li> <li>3 障害者の生活実態と障害者を取り巻く社会環境</li> <li>4 障害者福祉の歴史(1) 障害者福祉の理念、障害者の権利条約と障害者基本法</li> <li>5 障害者福祉の歴史(2) 障害観の変遷、障害者処遇の変遷、障害者福祉制度の発展過程</li> <li>6 障害者に対する法制度(1) 障害者総合支援法の概要</li> <li>7 障害者に対する法制度(2) 障害者総合支援法における障害福祉サービス及び相談支援</li> <li>8 障害者に対する法制度(3) 障害者総合支援法における障害支援区分及び支給決定</li> <li>9 障害者に対する法制度(4) 障害者総合支援法における自立支援医療費、補装具、地域生活支援事業、障害福祉計画</li> <li>10 障害者に対する法制度(5) 児童福祉法、身体障害者福祉法</li> <li>11 障害者に対する法制度(6) 知的障害者福祉法、精神保健福祉法、発達障害者支援法</li> <li>12 障害者に対する法制度(7) 障害者差別解消法、障害者雇用促進法</li> <li>13 障害者に対する法制度(8) 障害者虐待防止法、バリアフリー法、障害者優先調達推進法</li> <li>14 障害者と家族等の支援における関係機関と専門職等の役割</li> <li>15 障害者と家族等に対する支援における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割と支援の実際</li> </ol>				
授業の留意点	配布資料の自己管理をしっかりと行うこと。必ず復習しましょう。				
学生に対する評価	リアクションペーパー・宿題 (40点)、レポート課題 (30点)、期末試験 (30点)				
教科書 (購入必須)	テキストについては別途周知する。また、毎回、関連する資料を配布する。				
参考書 (購入任意)					



科 目 名	子ども家庭福祉論				
担 当 教 員 名	江連 崇				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社会福祉士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①子どもが権利の主体であることを踏まえ、子ども・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。</p> <p>②子ども福祉の歴史と子ども観の変遷や制度の発展過程について理解する。</p> <p>③子どもや家庭福祉に係る法制度について理解する。</p> <p>④子どもや家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解する。</p> <p>⑤子ども・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。</p>				
授業の概要	<p>上記の学習到達目標を達成するために、1. 現代社会における子どもと家族、妊産婦の生活実態とこれを取り巻く社会状況、必要とされる福祉（子育て、貧困、ひとり親、非行、児童虐待）について理解する。2. 子ども観の変遷と子ども家庭福祉制度の歴史を理解する。3. 子どもの権利について理解する。4. 子ども家庭福祉に係わる法制度および具体的課題と施策について理解する。5. 子ども家庭福祉を担う専門職のあり方について理解する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 子ども・家庭の定義と権利</li> <li>3 子ども・家庭福祉の歴史（1）</li> <li>4 子ども・家庭福祉の歴史（2）</li> <li>5 現代社会における子ども・家庭の生活実態や社会環境（1）</li> <li>6 現代社会における子ども・家庭の生活実態や社会環境（2）</li> <li>7 子ども・家庭に対する法制度（1）</li> <li>8 子ども・家庭に対する法制度（2）</li> <li>9 子ども・家庭に対する法制度（3）</li> <li>10 子ども・家庭に対する法制度（4）</li> <li>11 子ども・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割（1）</li> <li>12 子ども・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割（2）</li> <li>13 子ども・家庭に対する支援の実際（1）</li> <li>14 子ども・家庭に対する支援の実際（2）</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの該当箇所、関連個別を授業の前後に読むこと。</li> <li>・授業の展開、受講者の関心动向によって、順序を変更する場合がある。</li> <li>・リアクションペーパーの提出を求める。</li> </ul>				
学生に対する評価	レポート20点・定期試験80点 合計100点				
教科書（購入必須）	テキストについては別途周知する。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅲ				
担 当 教 員 名	嘉村 藍				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	①人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 ②ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。				
授業の概要					
授業の計画	1 オリエンテーション：人と環境の交互作用 2 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：システム理論① 3 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：システム理論② 4 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：生態学理論 5 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：バイオ・サイコ・ソーシャルモデル 6 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 7 ソーシャルワークの過程：概要とケースの発見、インテーク 8 ソーシャルワークの過程：アセスメント 9 ソーシャルワークの過程：プランニング 10 ソーシャルワークの過程：支援の実施、モニタリング 11 ソーシャルワークの過程：支援の終結と事後評価 12 ソーシャルワークの記録 13 ケアマネジメント① 14 ケアマネジメント② 15 集団を活用した支援				
授業の留意点	ソーシャルワーク論Ⅰ、ソーシャルワーク論Ⅱの内容をキチンと復習したうえで、授業に臨むこと				
学生に対する評価	レポート2回(各10点) 定期テスト：80点				
教科書(購入必須)	社会福祉士の指定科目に関するテキストを購入していただきます。追って指示します。				
参考書(購入任意)					

科 目 名	ソーシャルワーク論V				
担当教員名	小泉 隆文				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	社会福祉士・精神保健福祉士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	①ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 ②コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 ③ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。				
授業の概要	本講義では、ソーシャルワーク実践理論（practice theory）のうちジェネラリスト・ソーシャルワークにおける代表的なものを学ぶ。加えて、コミュニティワークの意義と目的および展開過程を概観する。さらに、スーパービジョンとコンサルテーションの意義・目的・方法について理解を深める。これらの学びを通して、社会福祉士あるいは精神保健福祉士として実践するにあたって必要なソーシャルワークの理論と方法を修得する。				
授業の計画	1 治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル 2 心理社会的アプローチ 3 機能的アプローチ 4 問題解決アプローチ 5 課題中心アプローチ 6 危機介入アプローチ 7 行動変容アプローチ 8 エンパワメントアプローチ 9 ナラティブアプローチ 10 解決志向アプローチ 11 コミュニティワークの意義と目的 12 コミュニティワークの展開①：地域アセスメント、地域課題の発見・認識、 13 コミュニティワークの展開②：実施計画とモニタリング、組織化、社会資源の開発 14 スーパービジョンの意義、目的、方法 15 コンサルテーションの意義、目的、方法				
授業の留意点	ソーシャルワーク論I～Vで学んだことを十分に理解していることを前提に展開するので、よく復習をしておくこと。 本講義の履修にあたっては、講義と同等時間の予習と復習を求める。その内容については各回で指示する。 講義・演習・実習は連続したものであることを意識して学ぶこと。				
学生に対する評価	各回のリアクションペーパー：30点 学期末試験：70点				
教科書（購入必須）	テキストについては別途指示する。				
参考書（購入任意）	<ul style="list-style-type: none"> <li>久保絃章・副田あけみ編著（2005）『ソーシャルワークの実践モデル—心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店</li> <li>デビッド・ハウ（2011）『ソーシャルワーク理論入門』みらい</li> <li>フランシス・J. ターナー（1999）『ソーシャルワーク・トリートメント：相互連結理論アプローチ〈上〉〈下〉』中央法規</li> </ul>				

科 目 名	地域福祉論 I				
担 当 教 員 名	小泉 隆文				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。 2. 地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 3. 地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。				
授業の概要	今日の社会福祉における取組は、地域を実践単位として行われることが多くなっている。地域とは地域住民の生活の場であり、住民を主体として具体的に実践・展開していく必要があるからであり、その実践の中で福祉サービスを必要とする人の生活課題へ介入し支援していくことが、社会福祉実践には求められる。 そこで、地域福祉を考えていくためには、「何のための地域福祉なのか」「誰のための地域福祉なのか」を理解していく必要がある。 本科目では、地域福祉理論の歴史的発展過程を踏まえ、今日の社会において地域福祉実践がどのような役割を担うのか、また地域住民の福祉意識の醸成方法と各専門機関の連携方法等について、具体的な事例を元に考察を深めていく。				
授業の計画	1 オリエンテーション 地域福祉の基本的な考え方①—地域福祉の概念と理論 2 地域福祉の基本的な考え方②—地域福祉の歴史 3 地域福祉の基本的な考え方③—地域福祉の動向 4 地域福祉の基本的な考え方④—地域福祉の推進主体 5 地域福祉の基本的な考え方⑤—地域福祉の主体と形成 6 福祉行財政システム①—国の役割 7 福祉行財政システム②—都道府県の役割 8 福祉行財政システム③—市町村の役割 9 福祉行財政システム④—国と地方の関係 10 福祉行財政システム⑤—福祉行財政の組織及び専門職の役割 11 福祉行財政システム⑥—福祉における財源 12 福祉計画の意義と種類、策定と運用①—福祉計画の意義・目的と展開 13 福祉計画の意義と種類、策定と運用②—市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容 14 福祉計画の意義と種類、策定と運用③—福祉計画の策定過程と方法 15 福祉計画の意義と種類、策定と運用④—福祉計画の実施と評価				
授業の留意点	テキストと講義資料を中心に授業を進める。テキストの該当箇所・関連箇所を事前事後に読み、予習復習に努めること。				
学生に対する評価	試験 60 点、レポート 30 点、授業態度 10 点とし、総合的に評価する				
教科書 (購入必須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座 社会福祉士精神保健福祉士共通科目⑥、 地域福祉と包括的支援体制』(中央法規)				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	地域福祉論Ⅱ				
担 当 教 員 名	小泉 隆文				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士:必修
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	<p>①地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。</p> <p>②包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。</p> <p>③地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>今日の社会福祉における取組は、地域を実践単位として行われることが多くなっている。地域とは地域住民の生活の場であり、住民を主体として具体的に実践・展開していく必要があるからであり、その実践の中で福祉サービスを必要とする人の生活課題へ介入し支援していくことが、社会福祉実践には求められる。</p> <p>そこで、地域福祉を考えていくためには、「何のための地域福祉なのか」「誰のための地域福祉なのか」を理解していく必要がある。</p> <p>本科目では、地域福祉実践における社会資源(ヒト・モノ)の活用方法、災害支援および復興支援における地域福祉実践の役割について、具体的なコミュニティワークの展開方法について、それぞれ具体的な事例を踏まえて考察を深めていく。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域における社会資源の活用・調整・開発① ニーズに対応するための資源開発、行政施策との関係</li> <li>2 地域における社会資源の活用・調整・開発② ソーシャルアクションとの関係性</li> <li>3 地域における福祉ニーズの把握方法と実際</li> <li>4 災害支援と地域福祉① 地域福祉と災害ソーシャルワークの関係</li> <li>5 災害支援と地域福祉② 事例検討</li> <li>6 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方① イギリス</li> <li>7 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方② アメリカ</li> <li>8 コミュニティソーシャルワークと専門職の役割① 基本的な考え方とその展開</li> <li>9 コミュニティソーシャルワークと専門職の役割② 具体的な方法と多職種連携</li> <li>10 住民の参加と方法① 住民参加の意義</li> <li>11 住民の参加と方法② 福祉行政への住民参加</li> <li>12 コミュニティワーク事例検討① 個別ニーズから地域ニーズへ</li> <li>13 コミュニティワーク事例検討② 地域ニーズに対応した社会資源の開発・改良</li> <li>14 コミュニティワーク事例検討③ 多文化社会における地域福祉実践</li> <li>15 地域共生社会における地域福祉のあり方</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	テキストと講義資料を中心に授業を進める。テキストの該当箇所・関連箇所を事前事後に読み、予習復習に努めること。				
学 生 に 対 す る 評 価	試験 60 点、レポート 30 点、授業態度 10 点とし、総合的に評価する				
教 科 書 (購入必須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座 社会福祉士精神保健福祉士共通科目⑥、地域福祉と包括的支援体制』(中央法規)				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	介護概論				
担 当 教 員 名	綱島 弘泰				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	1. 介護の現場や対象について具体的にイメージし専門職の役割について述べることができる。 2. 介護に対しての基礎理論、介護技術の概要を学び理解することができる。				
授 業 の 概 要	介護の現場や対象の理解を深め、QOL を高めるための生活支援の方法を理解し、介護を展開するための基礎知識、生活支援技術を養う。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 高齢者支援の方法と実際 3 高齢者を支援する専門職の役割と実際 4 介護の概念と範囲、介護の理念 5 介護の対象、介護予防の概念 6 介護過程の概要 7 介護過程の展開方法 8 自立に向けた介護、家事における自立支援 9 生活支援技術（身じたく、移動、睡眠の介護） 10 生活支援技術（食事、口腔衛生の介護、入浴・清潔・排泄の介護） 11 認知症の理解 12 認知症の諸症状とその家族への支援の実際 13 認知症ケアの実際 14 終末期ケア 15 高齢者の住環境				
授 業 の 留 意 点	各講に該当する部分を読んで授業に臨んでください。積極的に意見、質問を述べることを求めます。				
学 生 対 する 評 価	定期試験にて行います。（試験 80 点、課題 20 点）				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	新・社会福祉士養成講座 13 「高齢者に対する支援と介護保険制度」：中央法規出版				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	必要な資料は講義で配布します。				

科 目 名	基本介護技術				
担 当 教 員 名	川田 哲也				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開講形態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資格要件	教職(高福)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①体の仕組みを知ることにより、エビデンスに基づいた基本的な介護技術を習得することができる。</p> <p>②「自立」を目的とした介護技術を学ぶことにより、アセスメント能力の向上と介護のポイントを習得することができる。</p>				
授業の概要	<p>専門職として、介護の基礎知識を学んだ上で、本人の状態を把握し適切な方法で介助、支援できるポイントを学ぶ。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 なぜ、人は寝たきりになるのか？</li> <li>2 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは1（覚醒と座位の重要性）</li> <li>3 移動、移乗介助1（寝返り～起き上がり）</li> <li>4 移動、移乗介助2（立ち上がり～移動）</li> <li>5 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは2（食事の基礎知識と介助のポイント）</li> <li>6 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは3（排泄の基礎知識と介助のポイント）</li> <li>7 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは4（入浴の基礎知識と介助のポイント）</li> <li>8 コミュニケーション技法と現場でのポイント</li> <li>9 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは5（認知症の基礎知識と対応方法）</li> <li>10 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは6（アセスメントの基本とICFの視点①）</li> <li>11 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは7（アセスメントの基本とICFの視点②）</li> <li>12 演習1（事例をとおしての介護実技）</li> <li>13 演習2（事例をとおしての介護実技）</li> <li>14 演習3（事例をとおしての介護実技）</li> <li>15 講義のまとめ（現場で求められる社会福祉士の介護技術の視点）</li> </ol>				
授業の留意点	動きやすい服装				
学生に対する評価	(自己評価 25点満点) + (テスト 35点満点) + (レポート 40点満点) = 100点				
教科書 (購入必須)	介護基礎学 竹内孝仁 医歯薬出版				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	介護現場実習				
担 当 教 員 名	大坂 祐二				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職(高福)：必修
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	<p>介護サービス利用者に対して、授業で学んだ介護知識・技術を踏まえた介護支援の方法を体験的に習得する。</p> <p>(1)利用者に対して、その状況に適したコミュニケーションの方法を習得する。</p> <p>(2)利用者のアセスメントを通して、必要なサービス支援の意義と効果を適切に把握する方法を習得する。</p> <p>(3)利用者との人間的なかかわりを体験し、利用者が求めている介護ニーズに関する理解力、判断力を養う。</p> <p>(4)指導者のスーパービジョンを受けながら、介護職務についての理解を深める。</p>				
授 業 の 概 要	<p>介護サービス利用者個々における援助の必要性を客観的かつ具体的に考察し、理論的根拠に基づく思考と実践を行う。</p> <p>事前学内授業（オリエンテーション含む）、現場実習5日、事後学習（レポート）を予定している。実習施設は履修人数に応じて、市内のデイケアセンター、デイサービスセンター、介護老人福祉施設のいずれかを予定している。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(実習に向けての事前学習について)</li> <li>2 事前学習(1)介護技術の振り返りと実習課題の検討</li> <li>3 事前学習(2)実習課題の作成と実習に向けての諸注意</li> </ol> <p>実習 計4日間の施設実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4 事後学習(1)実習の振り返りの実習課題の考察</li> <li>5 事後学習(2)実習成果報告書の作成</li> <li>6 事後学習(3)実習成果報告</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	<p>現場実習に対する明確な目的意識をもって、自主的かつ積極的な姿勢で取り組むこと。</p> <p>なお、実習先の受け入れ状況等によって開講時期を変更することがある。</p>				
学 生 に 対 す る 価 値	<p>実習日誌：20点</p> <p>実習課題の考察：30点</p> <p>実習成果報告書：30点</p> <p>事前・事後学習の状況：20点</p>				
教 科 書 (購入必須)	<p>使用しない。</p> <p>授業中にレジュメ、資料等を適宜配布する。</p>				
参 考 書 (購入任意)					



科 目 名	ソーシャルワーク演習 I				
担 当 教 員 名	佐藤(み)・高阪・堀・永嶋・江連・小泉・嘉村				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開講形態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資格要件	社福士・精保士・教職(高福)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。</p> <p>②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。</p> <p>③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。</p> <p>④ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。</p>				
授業の概要	<p>ソーシャルワークの知識と技術に関する他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士及び精神保健福祉士に求められているソーシャルワーク実践に関する知識と技術について、実践的に習得していきます。ソーシャルワークにおける価値や倫理を踏まえ、コミュニケーション技術と方法の理解を通して、基本的な実践技法の習得ができるように学んでいきます。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自己覚知の理解①(自己理解)</li> <li>2 自己覚知の理解②(他者理解)</li> <li>3 基本的なコミュニケーション技術の理解①(言語的技術)</li> <li>4 基本的なコミュニケーション技術の理解②(非言語的技術)</li> <li>5 基本的な面接技術の理解(空間・距離のとり方・ツールの活用等)</li> <li>6 ソーシャルワークの展開過程の理解①(ケースの発見・インテーク)</li> <li>7 ソーシャルワークの展開過程の理解②(アセスメント)</li> <li>8 ソーシャルワークの展開過程の理解③(プランニング・支援の実施)</li> <li>9 ソーシャルワークの展開過程の理解④(モニタリング・カンファレンス)</li> <li>10 ソーシャルワークの展開過程の理解⑤(支援の終結・事後評価・アフターケア)</li> <li>11 ソーシャルワークの記録の理解</li> <li>12 グループダイナミクスの活用理解①(グループワークの構成)</li> <li>13 グループダイナミクスの活用理解②(グループワークの展開)</li> <li>14 プレゼンテーション技術の理解①(個人プレゼンテーション)</li> <li>15 プレゼンテーション技術の理解②(グループプレゼンテーション)</li> </ol>				
授業の留意点	<p>20名以下のクラス編成での実施となります。ソーシャルワーク実践の実際をより具体的、実践的に学ぶことができるように、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心に展開されます。学生個々の主体的参加や積極的発言を強く望んでいます。</p>				
学生に対する評価	<p>単元レポート：50点          期末レポート：50点</p>				
教科書(購入必須)	<p>必要に応じて資料等を配布します。</p>				
参考書(購入任意)	<p>なし</p>				

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅱ				
担 当 教 員 名	佐藤(み)・高阪・永嶋・堀・江連・小泉・嘉村				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開講形態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資格要件	社会福祉士・教職(高福)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。</p> <p>②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。</p>				
授業の概要	<p>本演習では、個別指導並びに集団指導を通して、具体的なソーシャルワークの場面及び過程(「ケースの発見」「インテーク」「アセスメント」「プランニング」「支援の実施」「モニタリング」「支援の集結と事後評価」「アフターケア)を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。それによって、具体的なケースの中で社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を修得する。なお、実技指導に当たっては、各ケースの中でアウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなどの内容を含める。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ソーシャルワーカーに求められる倫理</li> <li>2 多様性の理解</li> <li>3 人権と人間の尊厳・集団的責任</li> <li>4 社会正義</li> <li>5 感情の理解</li> <li>6 個人の理解</li> <li>7 家族の理解</li> <li>8 グループの理解</li> <li>9 知的障害者分野における演習</li> <li>10 身体障害者分野における演習</li> <li>11 児童分野における演習</li> <li>12 医療分野における演習</li> <li>13 高齢者分野における演習</li> <li>14 地域包括支援センターにおける演習</li> <li>15 社会福祉協議会における演習</li> </ol>				
授業の留意点	<p>学生には、積極的な参加を求める。 講義・演習・実習は連続したものであることを意識して学ぶこと。</p>				
学生に対する評価	<p>各回の成果物と発表：60点 学期末レポート課題：40点</p>				
教科書(購入必須)	<p>テキストは使用しない。各回において適宜資料を配布する。</p>				
参考書(購入任意)	<p>参考書については別途指示する。</p>				

科 目 名	ソーシャルワーク実習 I				
担 当 教 員 名	社会福祉学科教員				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	社会福祉士・教職（高福）：必修
実務経験及び 授 業 内 容	社会福祉領域の実践現場において実践経験を有する実習指導者（社会福祉士）がソーシャルワーク実践について指導を行う。また、社会福祉領域の実践現場における実践経験を有する教員が、週 1 回巡回指導もしくは帰校日指導を行う。				
学 習 到 達 目 標	<p>①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための基本的な実践能力を養う。</p> <p>②支援を必要とする人や地域の状況を理解するための具体的な関わり技法を習得する。</p> <p>③施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。</p> <p>④施設・機関等の管理運営の実際を理解する。</p>				
授 業 の 概 要	ソーシャルワーカーとしての基本的な実践能力を養うため、これまで学んできたソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を、実習現場を通して行います。実習時間は 60 時間以上(8 日程度)を基本として実施します。ソーシャルワーク実習 I での学びや課題を踏まえ、次年度以降のソーシャルワーク実習 II に臨んでいきます。				
授 業 の 計 画	<p>1 オリエンテーション(実習目的と今後の予定について)</p> <p>2 社会福祉機関・施設実習(60 時間以上・8 日間程度)において、主に以下のことを習得していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成</li> <li>・利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成</li> <li>・当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ</li> <li>・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際</li> </ul>				
授 業 の 留 意 点	<p>これまで学んだ専門的知識や技術等を実際に活用・実践し、ソーシャルワーク実践に必要な基本的な資質や能力を習得します。これまでの理論を体系化していくための実習体験や、実習担当教員や実習指導者とのスーパービジョンでは、積極的な参加が求められます。</p> <p>なお、ソーシャルワーク実習 II およびソーシャルワーク実習指導 II を履修するためには、ソーシャルワーク実習 I およびソーシャルワーク実習指導 I の前年度までの単位修得が必要となります。ソーシャルワーク実習 I の履修要件は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として 2 年次の前期終了時点において、当該年度の進級判定時における進級の要件を満たす可能性が十分に見込まれること。</li> </ul>				
学 生 対 する 評 価	実習指導者の評価を参考に、実習担当教員が総合的に判断し評価します。詳細はソーシャルワーク実習指導 I 内で提示します。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	「ソーシャルワーク実習ハンドブック」(本学科実習委員会作成)を中心に使用します。その他、必要に応じて資料を配布します。				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	なし				

科 目 名	医学概論				
担 当 教 員 名	塚原 高広				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>福祉、保育、幼児教育の現場で専門職として役割を果たすために必要な医学的知識を習得しておく必要がある。本講義では、以下の目的で、医学的知識について解説する。</p> <p>①人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。  ②人の身体構造と心身機能について理解する。  ③健康・疾病の捉え方について理解する。  ④疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。  ⑤公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。</p>				
授業の概要	人のライフステージ、人体の構造・機能、疾病・障害および、公衆衛生施策について解説する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 人の成長・発達と老化、ライフステージ別の健康課題</li> <li>2 健康及び疾病のとらえ方</li> <li>3 身体構造と心身の機能（1）：細胞、体液、免疫</li> <li>4 身体構造と心身の機能（2）：神経、感覚器、筋肉</li> <li>5 身体構造と心身の機能（3）：循環器</li> <li>6 身体構造と心身の機能（4）：消化器、呼吸器、体温</li> <li>7 身体構造と心身の機能（5）：泌尿器、内分泌</li> <li>8 疾病の概要（1）：生活習慣と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患、高血圧</li> <li>9 疾病の概要（2）：糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、血液疾患と膠原病</li> <li>10 疾病の概要（3）：肝臓疾患、泌尿器系疾患、骨関節疾患、目・耳の疾患、感染症、神経疾患と難病、先天性疾患、その他の高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケア</li> <li>11 障害の概要（1）：ICF、視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、高次機能障害</li> <li>12 障害の概要（2）：DMS、発達障害、認知症、精神障害</li> <li>13 リハビリテーションの概要と範囲</li> <li>14 疾病・障害と予防・治療・リハビリテーション</li> <li>15 公衆衛生の概要と保健医療対策</li> </ol>				
授業の留意点	教科書、講義資料を中心に授業を進める。				
学生に対する評価	定期試験により評価する。				
教科書（購入必須）	<p>社会福祉士養成講座編集委員会編集『医学概論』中央法規出版（予定）  厚生労働統計協会編『厚生指針・国民衛生の動向』厚生労働統計協会</p>				
参考書（購入任意）	<p>吉岡利忠、内田勝雄編『生体機能学テキスト 第2版』中央法規出版、2007年  田中明、宮坂京子、藤岡由夫編『臨床医学 疾病の成り立ち 改訂第2版』羊土社、2015年  清水忠彦、佐藤拓代編『わかりやすい公衆衛生学 第4版』ヌーヴェルヒロカワ、2015年</p>				

科 目 名	介護福祉論				
担当教員名	川田 哲也				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(高福)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. 介護福祉の概念について理解する。 2. 介護福祉の今日的状況について理解し、介護を取り巻く課題を検討できる視座を獲得する。 3. 介護過程の展開を理解し、利用者の状況にあった支援環境を考察できるようになる。				
授業の概要	今日の介護福祉の位置づけを把握し、海外と日本における介護福祉の沿革と課題について理解する。そのうえで、在宅介護・施設介護の意義と沿革を学び、人権尊重を基盤とした介護に関する基礎的な知識を習得する。				
授業の計画	1 オリエンテーション、社会福祉士が知らなければならない介護福祉の概念を理解する 2 介護の基本的な考え方 理論と法的根拠に基づく介護 3 介護サービスの理解 4 介護職という労働環境を理解する 5 介護の基礎知識とアセスメントの関係性1 6 介護の基礎知識とアセスメントの関係性2 7 基本的な介護過程の展開を理解する 8 高齢者のこころとからだのしくみを理解する 9 認知症による生活への影響と介護者支援についての理解する 10 高齢者の人権と関連する問題について理解する①(高齢者虐待・成年後見制度) 11 高齢者の人権と関連する問題について理解する②(介護殺人、認知症による事件など) 12 障がい者サービス内容とこれからの課題について理解する 13 地域住民に対する介護の理解を得るには1 14 地域住民に対する介護の理解を得るには2 15 まとめ				
授業の留意点	毎回、講義と演習を使用して展開していく。演習では各自の積極的な取り組みが必要となる。				
学生に対する評価	小テスト：30点 レポート：70点				
教科書 (購入必須)	関係資料等は当日などに配布します。				
参考書 (購入任意)	① 介護職員初任者研修課程テキスト1「介護・福祉サービスの理解」 ② 介護職員初任者研修課程テキスト3「こころとからだのしくみと生活援助技術」 出版社 日本医療企画				

科 目 名	障害者福祉論Ⅱ				
担当教員名	堀 智久				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職（高福）：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	障害者福祉論Ⅰの内容を受け、より発展的かつ実践的な講義をおこなう。また、障害者福祉論Ⅱでは、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・ソーシャルワーク実習Ⅱとの関連性も考慮し、今日の障害者福祉に関する法制度のあり方や専門職のケアマネジメントなどについて学習を展開する。そのなかで、障害の社会モデルの考え方や自己決定支援、家族支援、今日の障害者福祉法制度の変化・改正の流れなどを学び、今日何が課題となっているかについて学びを深めていく。				
授業の概要	本講義では、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・ソーシャルワーク実習Ⅱとの関連性も考慮し、今日の障害福祉現場の課題を取り上げる。また、今日的なテーマを意図的に取り上げることで、多くの学生が障害者福祉を身近に感じてもらえるように配慮するとともに、障害者福祉論Ⅰと障害者福祉論Ⅱの講義が相まって学習効果をあげるように進行する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害者権利条約はどのようにして生まれたか</li> <li>2 障害の概念、障害観の変遷</li> <li>3 社会モデルとは、障害者差別とは</li> <li>4 障害者の法的定義</li> <li>5 日本の障害者団体の取り組み、障害者運動の歴史</li> <li>6 海外の障害者団体の取り組み、障害者運動の歴史</li> <li>7 地域での自立生活、介助者の関係性</li> <li>8 知的障害についての事例：知的障害者に対する就労支援</li> <li>9 身体障害についての事例：在宅療養するALS患者を支える</li> <li>10 精神障害についての事例：精神科病院からの退院支援</li> <li>11 障害福祉現場における相談支援の実際：インテーク場面での実践と書類作成</li> <li>12 障害福祉現場における相談支援の実際：アセスメント場面での実践と書類作成</li> <li>13 障害福祉現場における相談支援の実際：プランニング場面での実践と書類作成</li> <li>14 障害福祉現場におけるケアマネジメント</li> <li>15 高齢障害者の問題、総合支援法と介護保険法の関係性</li> </ol>				
授業の留意点	講義のなかで、随時発言を求めながら進めていく。				
学生に対する評価	レスポンスペーパー（30点）、レポート（30点）、期末試験（40点）				
教科書（購入必須）	講義ごとにプリントを配布する。				
参考書（購入任意）	講義ごとにプリントを配布する。				

科 目 名	福祉科教育法 I				
担 当 教 員 名	大坂 祐二				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職(高福)：必修	資 格 要 件	教職(高福)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	高等学校における福祉教育や教科「福祉」の意義と目標・内容を理解する。国民的課題としての社会福祉を青年期に学ぶ意義について考察し、授業設計に活用することができる。				
授業の概要	高等学校の新しい学習指導要領は 2022 年度から年次進行で実施されます。授業では現行の学習指導要領、介護福祉士養成カリキュラムも踏まえながら、新しい指導要領のポイントについて学びます。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科「福祉」創設の意義と福祉教育の役割</li> <li>2 福祉人材問題と高校福祉科 ー士・士法改正と学習指導要領改訂の経過</li> <li>3 青年期における「福祉の学び」 ー私の福祉学習体験をふりかえる</li> <li>4 高等学校における福祉教育の全体像</li> <li>5 福祉科の目標と内容① 社会福祉基礎（1）社会福祉の理念と意義</li> <li>6 福祉科の目標と内容① 社会福祉基礎（2）私たちの生活と福祉の関わり</li> <li>7 福祉科の目標と内容② 介護福祉基礎</li> <li>8 福祉科の目標と内容③ コミュニケーション技術</li> <li>9 福祉科の目標と内容④ 介護過程</li> <li>10 授業の展開と構成を考える（1）指導案に何を書くか</li> <li>11 授業の展開と構成を考える（2）指導案の発表と検討</li> <li>12 福祉科の目標と内容⑤ 生活支援技術（1）生活の理解と支援技術・医療的ケア</li> <li>13 福祉科の目標と内容⑤ 生活支援技術（2）生活支援技術の指導</li> <li>14 福祉科の目標と内容⑥ こころとからだの理解</li> <li>15 福祉科の目標と内容⑦ 福祉情報</li> </ol>				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校福祉の教員採用は、例年 30 ほどの府県で行われています。道内でも福祉のコース等をおく総合学科の高校が増えてきました。北海道・札幌市では採用試験は行われていませんが、高校福祉免許を活かす道はあります。「社会福祉学科で学んだ教員」の強みを生かせる免許ととらえてほしいものです。</li> </ul>				
学生に対する評価	レポート試験（70 点）および指導案等の提出物（30 点）				
教科書（購入必須）	文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 福祉編』海文堂出版、2019 年				
参考書（購入任意）	保住芳美編著『高等学校 新学習指導要領の展開 福祉科編』明治図書、2010 年 大橋謙策編『福祉科指導法入門』中央法規、2002 年				

科 目 名	福祉科教育法Ⅱ				
担 当 教 員 名	大坂 祐二				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	教 職 (高 福) : 必 修	資 格 要 件	教 職 (高 福) : 必 修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	福祉科教育法Ⅰをふまえて社会福祉の理念、制度、支援技術等の効果的な指導方法について考察する。模擬授業やグループワークを通して具体的な授業を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。				
授 業 の 概 要	教科「福祉」は、介護実習をはじめとする体験的な学習など多様な方法で展開される。それらの方法について理解を深める。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 福祉科の目標と内容⑧ 介護実習</li> <li>2 福祉科の目標と内容⑨ 介護総合演習</li> <li>3 福祉科・福祉教育における教育方法</li> <li>4 教科「福祉」における「授業」をどうつくるか</li> <li>5 教材研究と指導案（1）学習の内容と教材</li> <li>6 教材研究と指導案（2）教材から学習活動への展開</li> <li>7 福祉教育における評価</li> <li>8 指導案の検討と模擬授業（1）指導案の検討</li> <li>9 指導案の検討と模擬授業（2）模擬授業</li> <li>10 指導案の検討と模擬授業（3）ふりかえり</li> <li>11 授業における ICT と福祉機器の活用</li> <li>12 体験学習の指導</li> <li>13 ボランティア学習の指導</li> <li>14 訪問・交流・行事の指導</li> <li>15 まとめ 教科「福祉」から福祉教育へ</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	グループワークや模擬授業を取り入れて行うので、受講生の積極的な参加を求める。履修者数や模擬授業を行う人数によって授業の計画を変更することがある。				
学 生 に 対 する 評 価	模擬授業の発表内容と提出課題（60 点）およびレポート試験（40 点）				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	文部科学省『高等学校指導要領（平成 30 年告示）解説 福祉編』海文堂出版、2019 年				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	保住芳美編著『高等学校 新学習指導要領の展開 福祉科編』明治図書、2010 年 大橋謙策編『福祉科指導法入門』中央法規、2002 年				



科 目 名	教育学				
担 当 教 員 名	小西 二郎				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職(高公・高福)：選 択
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	受講生の皆さんが学校教育を日本社会の変容との関わりでとらえる視点を獲得し、その視点から教育について考察を深めるようになることです。				
授業の概要	<p>(1) テーマ：〈子ども・青年のライフコース変容と学校〉の視点から考える教育の意義 消費社会化・情報社会化によって消費文化世界が1970年代後半以降、子ども・青年の生活の中で大きな位置を占めるようになりました。1990年代後半以降はそれに加えて、企業の変容(ダウンサイジングと二極化)と学校教育の二極化が進行し、子ども・青年のライフコースは不安定化してきました。こうした一連の変化にともなって学校の社会的位置・役割が変化し、その正当性・権威・目的が大きく揺らいでいます。 本科目では以上のような歴史的变化を取り押さえた上で学校教育の現局面について考察することを通して教育の今日的意義について考えます。</p> <p>(2) 授業の形式 応答的な授業を心がけます。例えば、毎回、授業の冒頭、前回のミニレポートに対する応答を口頭でないしはリアクションペーパーを用いて行います。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 序章 本科目の概要・ねらいについて</li> <li>2 第1章 消費社会化・情報社会化による子ども・青年のライフコース変容と学校(1970年代後半～) <ol style="list-style-type: none"> <li>第1節 1970年代後半以降の子ども・青年の成長パターンの変化</li> <li>第2節 家族(及び地域)、学校の正当性・権威・目的の揺らぎ</li> <li>第3節 企業社会による、学校の正当性・権威・目的の揺らぎの食い止め</li> </ol> </li> <li>3 補論 〈高度消費社会化・情報社会化、青年文化〉と戦後日本を取り巻く国際関係</li> <li>4 第2章 日本社会の大転換にともなう子ども・青年のライフコース変容と学校(1990年代後半～) <ol style="list-style-type: none"> <li>第1節 グローバリゼーション・新自由主義的改革下での企業社会の変容 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 グローバリゼーションとは</li> <li>2 企業の縮小・二極化</li> <li>3 企業における人事・労務管理方式の転換</li> </ol> </li> <li>第2節 学校教育の変化</li> <li>第3節 青年雇用の変化</li> <li>第4節 子ども・青年のライフコースの不安定化</li> </ol> </li> <li>5 第3章 〈日本社会と子ども・青年のライフコース〉の今後と学校 <ol style="list-style-type: none"> <li>第1節 子ども・青年のライフコースの不安定化の深化</li> <li>第2節 地方ではドラスティックな展開に？</li> <li>第3節 学校教育の今後</li> </ol> </li> <li>6 第4章 まとめ——教育の今日的意義について考えよう <ol style="list-style-type: none"> <li>第1節 コロナ禍以降の安全・健康・「新しい生活様式」と地域社会・学校</li> <li>第2節 地域社会の維持・活性化と学校教育——地方における巻き返しに向けて</li> </ol> </li> </ol>				
授業の留意点	<p>○新聞を読み、テレビのニュースをみることをお忘れなく ○毎回、ミニレポートを書いて頂きます。講義の中で取り上げることがあります(お楽しみに)</p>				
学生に対する評価	毎回、書いて頂くミニレポートと試験の結果をもとに総合的に評価します。				
教科書(購入必須)	使用しません。プリントを配布します。				
参考書(購入任意)	<p>乾 彰夫(2010)『〈学校から仕事へ〉の変容と若者たち』青木書店。 中西新太郎(2004)『若者たちに何が起きているのか』花伝社。</p>				

科 目 名	生涯学習論				
担 当 教 員 名	大坂 祐二				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職(高公・高福)選択
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	日本の生涯学習・社会教育実践の蓄積に学び、人々の「学ぶ権利」の保障について、また、問題への気づきから解決に向かう過程とそれに対する支援について理解を深める。身近な生涯学習の機会に関心を持ち、その意義について考えることができる。				
授業の概要	生涯学習や社会教育は、単なる生きがいづくりやキャリア・アップの手段ではない。生活の困難に立ち向かい、主体的力量を形成する(=エンパワーメント)学びであり、人々の学ぶ権利は「人間の生存にとって不可欠な手段」(ユネスコ「学習権宣言」)である。こうした視点から本講義では、保健・医療・福祉・保育との関連も念頭に、生涯学習・社会教育の本質と構造、実践について概説する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生涯学習とは何か —保健・医療・福祉・保育との関連にもふれて</li> <li>2 成人にとっての「学び」 —自主夜間中学を例に</li> <li>3 生涯学習の国際的な動向と「学習権」の発展</li> <li>4 家庭・学校・地域の連携と社会教育の役割</li> <li>5 生涯学習・社会教育の法と行政 —学びの自主性をめぐって</li> <li>6 生涯学習・社会教育を支える施設と職員</li> <li>7 自己教育活動と仲間づくり・集団づくり</li> <li>8 北海道の地域づくりと生涯学習・社会教育</li> <li>9 子育て仲間づくりにみる学習の組織化</li> <li>10 誰が学習要求を組織するのか</li> <li>11 学習過程とその支援(1)健康学習を例に</li> <li>12 学習の構造化 —青年・若者をめぐる社会教育実践①</li> <li>13 自分さがしと居場所づくり —青年・若者をめぐる社会教育実践②</li> <li>14 学習過程とその支援(2)子育て支援と親の学び</li> <li>15 若者自立支援と社会教育 —青年・若者をめぐる社会教育実践③</li> </ol>				
授業の留意点	教育実習にともなう欠席状況等によって授業の順番を変更することがある。				
学生に対する評価	期末レポート(70点)のほか、小レポートやグループワークの参加状況等(計30点)で評価を行う。				
教科書(購入必須)	指定のテキストは使用しない。毎時、プリントを配布する。				
参考書(購入任意)	小林文人・伊藤長和・李正連 編著『日本の社会教育・生涯学習』大学教育出版、2013年 鈴木敏正『[増補改訂版]生涯学習の教育学』北樹出版、2014年 社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』エイデル研究所、2017年				

科 目 名	ジェンダー論				
担 当 教 員 名	小野寺 理佳				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(高公)：選択
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. ジェンダーの概念について説明できる。 2. 職場、家庭、教育、地域など多くの場面に潜むジェンダー問題について具体的な知識を獲得する。 3. それらの問題を生み出す社会的な構造を理解し、ジェンダー平等社会について自分の意見を述べるができる。 4. ダイバーシティについて理解する。				
授業の概要	本講義は社会学の一領域という位置づけであり、様々な社会事象をジェンダーの視点で分析する力をつけることを目的とする。女性・男性を取り巻く社会的現実および最近の変化の様相を取り上げ、考察する。セクシャル・マイノリティについても理解を深める。				
授業の計画	1 はじめに～ジェンダーについて考えることの意味 2 ジェンダーとはなにか (1)「ジェンダー」のとらえ方 3 ジェンダーとはなにか (2) ジェンダー概念の変容 4 恋愛とはなにか (なんだったのか) (1) 恋愛への関心が示すこと 5 恋愛とはなにか (なんだったのか) (2) 現代社会における恋愛 6 非法律婚のライフスタイル (1) 非法律婚とはなにか 7 非法律婚のライフスタイル (2) 非法律婚が意味するもの 8 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (1) 生殖への4つの視点 9 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (2) 自己決定権について考える 10 学校文化とジェンダー (1) 学校という場所とジェンダー 11 学校文化とジェンダー (2) 顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム 12 メディアの性役割表現 (1) マスメディアのもつ影響力 13 メディアの性役割表現 (2) メッセージ伝達のメカニズム 14 介護とジェンダー (1) 介護は誰の責任か 15 介護とジェンダー (2) 家族とは誰のことか				
授業の留意点	・テキストの該当箇所、関連箇所を予習・復習として読むこと。 ・受講者の関心动向によって、内容構成や順序を調整する場合がある。 ・リアクションペーパーの提出を求めることがある。				
学生に対する評価	レポートにより評価する (100点)。				
教科書 (購入必須)	伊藤公雄・牟田和恵 (編) 『ジェンダーで学ぶ社会学』 [全訂新版] 世界思想社 2017年				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	文化人類学				
担当教員名	渡部 裕				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(高公)：選択
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	本講義の主要な目標は、文化人類学の根幹である民族学を学ぶことによって、人類の文化や社会のあり方の多様性を理解するとともに、他者の文化・社会に対する自己の認識・価値観を見つめ直すための視点を養うことです。また、寒冷な北方地域に暮らしてきたアイヌを含む北方諸民族の文化を知ることで、さまざまな工夫や英知が込められた北方の文化の特徴を学びます。				
授業の概要	文化人類学（民族学）の歴史や学説の概要、『遠野物語』をはじめ具体的な資料・研究事例からさまざまな文化や社会のあり方、歴史的な変化や文化の相互作用、また北方諸民族の文化的特徴などを学びます。さらに、他者の文化を理解する方法を考えます。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 文化人類学とは ー人類学・文化人類学の研究分野と基本概念ー</li> <li>2 人類の進化と移動・拡散 ーわれわれはどこから来たかー</li> <li>3 日本の人類学・文化人類学の始まり ー柳田国男、宮本常一、鳥居龍蔵の調査研究ー</li> <li>4 参与観察に基づく民族調査 ーブロスニワフ・マリノフスキー、原ひろ子の調査からー</li> <li>5 アメリカの文化人類学 ーフランツ・ボアズの功績と後継者たちー</li> <li>6 寒冷環境における人類の適応 ー北方諸民族の文化的特徴ー</li> <li>7 アイヌの歴史と文化 ー北太平洋沿岸における位置づけー</li> <li>8 記録されたアイヌ文化 ー文書と絵画にみるアイヌ文化ー</li> <li>9 毛皮交易と北方諸民族の経済活動 ー毛布交易がもたらしたものー</li> <li>10 文化接触① ー北洋漁業の日本漁民とカムチャツカ先住民との事例ー</li> <li>11 文化接触② ーイヌイト（エスキモー）の事例ー</li> <li>12 近代国家における先住民経済と社会 ー先住民政策と政治・経済体制ー</li> <li>13 現代の先住民社会 ーロシア・カムチャツカにおける現状ー</li> <li>14 バナナ、ナマコ、エビをめぐる文化人類学 ー生産する側と消費する側ー</li> <li>15 文化の多様性と文化相対主義</li> </ol>				
授業の留意点	本講義では各受講者が積極的に文化人類学（民族学）を学ぶ姿勢が重要であり、授業のなかで適宜、質問や小レポートによって受講者の理解度や意見・感想を確認します。				
学生に対する評価	講義終了後のレポート（50点）と、随時行う小レポート（50点）によって評価します。また、授業態度も加味します。				
教科書（購入必須）	適宜、プリントを配布します。				
参考書（購入任意）	参考図書については、講義の際に指示する予定。				

科 目 名	地域社会論				
担 当 教 員 名	大坂 祐二				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(高公・高福)：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<p>1. 地域社会をめぐる様々な問題について理解を深める。</p> <p>2. 現代社会における地域問題について分析する視角を身につける。</p> <p>以上2点を到達目標とする。</p>				
授 業 の 概 要	<p>専門職者として地域社会のなかで仕事をする際には、その地域のありようを理解し、そこに生きる人々との関係性を育て、必要に応じて適切な対応ができる力が必要である。本講義では、地域が抱える様々な問題を取り上げながら、地域社会とはなにか、地域における生活課題としてどのような問題があるのかを考える。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに ー人口減少社会とは</li> <li>2 都市と農村 ー私の地元は田舎か否か</li> <li>3 高齢化と地域社会</li> <li>4 少子化と地域社会</li> <li>5 地域社会とコミュニティ</li> <li>6 まちづくりとその担い手</li> <li>7 地域住民とは誰か</li> <li>8 子ども・若者の居場所と地元志向</li> <li>9 移住とネットワーク</li> <li>10 祭り・イベントと地域社会</li> <li>11 子育てを支える社会</li> <li>12 誰が医療・介護を支えるのか</li> <li>13 グローバル化と地域社会 ー介護人材問題を中心に</li> <li>14 「持続可能な福祉社会」とは</li> <li>15 おわりに</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	遠隔授業で行うが、一部対面授業の場合がある。				
学 生 に 対 す る 評 価	小テスト (40点) およびレポート (60点) で評価を行う。				
教 科 書 (購入必須)	指定のテキストはない。適宜、レジュメや資料を配布する。				
参 考 書 (購入任意)	<p>広井良典『人口減少社会のデザイン』東洋経済新報社、2019</p> <p>森岡清志 (編)『地域の社会学』有斐閣アルマ、2008</p>				

科 目 名	道徳教育論				
担 当 教 員 名	担当者未定				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職(栄養)：必修 教職(高公・福)：選択	資 格 要 件	教職(栄養)：必修 教職(高公・福)：選択
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心の成長の基本と学校課題(いじめや人間関係の希薄さ)を理解し、その上で子どもの道徳性の発達を考察する。</li> <li>・道徳の本質や道徳教育の歴史を概観し、今日の道徳教育を複眼的に捉える。</li> <li>・道徳の学習指導案の作成及び実践交流を通じて、よりよい授業方法や教材の用い方、或いは、望ましい評価の在り方を学ぶ。</li> </ul>				
授 業 の 概 要	<p>前半では、日常生活や倫理思想を土台にして道徳の本質を考え、お互いに意見交流をする。また、道徳教育の歴史について西洋と日本に分けてその特徴な道徳教育の捉え方を学び、それを受けて、我が国の学習指導要領に示された道徳教育の流れや目標・内容を理解する。</p> <p>後半は実践交流に重点を置き、学生による道徳学習指導案の作成と発表を通じて指導方法や教材の用い方の改善、或いは、評価の視点を学ぶ。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義全体のガイダンス：15回の授業展開とねらいについて説明する。</li> <li>2 道徳とは何か I：モラルやマナーと関連させながら倫理や道徳について考え、お互いの問題意識について意見交流を行う。</li> <li>3 道徳とは何か II：近代ヨーロッパの倫理思想や東洋の倫理思想と対比させながら、日本の道徳思想の特徴について理解する。</li> <li>4 道徳教育の歴史 I：日本における修身科と道徳教育の関係、教育勅語と戦後教育の関係について理解を深める。</li> <li>5 道徳教育の歴史 II：学習指導要領の変遷と道徳教育の流れについて理解する。</li> <li>6 学習指導要領にみる道徳教育 I：道徳教育の基本的な構成について学び、その目標と内容について理解する。</li> <li>7 学習指導要領にみる道徳教育 II：道徳教育の基本的な構成について学び、その指導計画作成と、内容の取り扱いについて理解する。</li> <li>8 道徳教育の授業方法：道徳性の発達段階に応じた資料活用のポイントや「心のノート」の活用について理解する。</li> <li>9 学習指導案の作成 I：指導事例に基づき、指導の基本について理解する。</li> <li>10 学習指導案の作成 II：指導事例に基づき、資料の選択について理解する。</li> <li>11 学習指導案の作成 III：実際に指導案を作成し、お互いに発表し、検討を行う。</li> <li>12 学習指導案の作成 IV：作成した指導案を全体の中で交流し、改善的な視点から修正などを行う。</li> <li>13 学習指導案の作成 V：作成した指導案を全体の中で交流し、改善的な視点から修正などを行う。</li> <li>14 世界の道徳教育を学ぶ：欧米を中心とした道徳教育を紹介し、その成果と課題について理解を深める。</li> <li>15 まとめと小論文作成：14回の授業を振り返り、道徳教育の課題と可能性について討論する。また、その後小論文を書く。</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	道徳的課題解決に向けてペア・グループ学習で解決の一般化を図るため、論理的に自分の考えを表現できるよう努力すること。新聞や本などを参考にして道徳教育の教材を発掘し、教壇に立つ意識を持って講義に参加すること。				
学 生 に 対 す る 評 価	複数のレポート50点、課題提出(指導案の提出を含む)50点を総合的に評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	特になし。必要な資料などは教師が用意します。				
参 考 書 (購 入 任 意)	講義の中で紹介します。				

目 名	教育原理				
担当教員名	小西 二郎				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	教職：必修	資格要件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	受講生の皆さんが「理論—実践」関係について自覚的に考えるようになり、かつそのことが教員の職務上、どれだけ必要かについて考えるようになることです。				
授業の概要	<p>(1) テーマ：「教育現場・実践と理論は相互に支え合う、鍛え合う」について考える  ○教育とはどういう営みか。その歴史的背景や哲学・思想的思索について考えます  ○そのことを通して教育哲学・思想・歴史的考察の「有用性」について考えます</p> <p>(2) 授業の形式  応答的な授業展開を心がけます。例えば、毎回、授業の冒頭、前回のミニレポートに対する応答を口頭でないしはリアクションペーパーを用いて行います。</p>				
授業の計画	1 第1章 本科目の位置づけとねらい 2 第2章 教育をどうとらえるか 3 第3章 教育の哲学・思想・歴史を学ぶことの意味について考える 4 第4章 西洋における学校教育の歴史 第1節 産業革命と近代学校 5 第2節 国家と近代学校 6 第3節 新教育運動について 7 第5章 近代教育の思想 第1節 J.ロックの教育思想 8 第2節 ルソーの教育思想 9 第3節 ペスタロッチの教育思想 10 第4節 デューイの教育思想 11 第6章 日本における学校教育の歴史 第1節 近代学校制度の出発と展開 12 第2節 大正期の学校教育 13 第3節 戦時下の学校教育 14 第4節 戦後の学校教育 15 第7章 教育という経験と子どもと向き合うこと				
授業の留意点	○授業のリアルな現実をとらえることを通して、なかなか言葉にできない教育の難しさや魅力の本質について考えてみてください ○新聞を読み、テレビのニュースをみることをお忘れなく ○毎回、ミニレポートを書いて頂きます。講義の中で取り上げることがあります（お楽しみに）				
学生に対する評価	毎回、書いて頂くミニレポートと試験の結果をもとに総合的に評価します。				
教科書（購入必須）	使用しません。プリントを配布します。				
参考書（購入任意）	木村元編著（2020）『アクティベート教育学01 教育原理』ミネルヴァ書房 山内清郎・原 清治・春日井敏之編著（2020）『新しい教職教育講座 教職教育編① 教育原論』ミネルヴァ書房 貝塚茂樹・広岡義之編著（2020）『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房				

科 目 名	教職概論				
担 当 教 員 名	佐藤 憲夫				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職：必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>(到達目標) 教職を目指す学生のための入門授業として、教職への理解を深めるとともに、自らが目指す教師の姿を具体的に描けること、教師の立場から保護者への対応を考える視点を持つことを到達目標とする。</p> <p>(テーマ) 教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む)</p>				
授業の概要	<p>教育の今日的課題と現状を学び、教職者としてのあるべき姿と社会的要請として求められる姿を学ぶ。さらに、現実の職務内容の広さと多忙煩雑さ、そこから得られる達成感など、多角度から「教職」についての理解を深める授業とする。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに 本講義の概要とオリエンテーション なぜ教師を目指すのか</li> <li>2 教職の意義</li> <li>3 教職観と理想の教師像</li> <li>4 教師と教員養成の歴史</li> <li>5 教員の任用とサービス1-配置・身分・サービス</li> <li>6 教員の任用とサービス2-分限・懲戒・勤務条件</li> <li>7 教師の役割と仕事</li> <li>8 校長・副校長・教頭の役割 「チーム学校運営」への対応を含む</li> <li>9 ミドルリーダーの役割 「チーム学校運営」への対応を含む</li> <li>10 教師の職場環境 「チーム学校運営」への対応を含む</li> <li>11 教師の資質向上と研修</li> <li>12 教師に必要な資質と力量形成</li> <li>13 教師の資格と採用試験</li> <li>14 教育現場を知る (ケーススタディ) 「チーム学校運営」への対応を含む</li> <li>15 「生きぬく力」を育てる教師 講義のまとめ</li> </ol>				
授業の留意点	<p>教職への希望と夢を大切に持つことができる授業にしたいと考えています。皆さんの考えや思いを交流できる機会を、ケーススタディなどを通じて持ちたいと考えています。</p>				
学生に対する評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リアクションペーパー 30点 (授業の感想、課題提出など)</li> <li>2. 課題レポート 70点</li> <li>3. 授業態度を加味する</li> </ol>				
教科書 (購入必須)	<p>「教職概論 第5次改訂版 ー教師を目指す人のためにー」佐藤晴雄 学陽書房</p>				
参考書 (購入任意)	<p>講義の中で適宜紹介する</p>				



科 目 名	教育法概論				
担 当 教 員 名	栢山 茂樹				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職：必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	教育法の主要事項・論点について専門的に理解し、論じられるようになる。				
授 業 の 概 要	<p>教育法とは、憲法・教育基本法・学校教育法等をはじめとする、教育に関する法の総体をいう。この法分野は戦後、新憲法と教育基本法のもとで出発し、国の教育政策に対する抵抗運動のもとで発展を遂げた。その過程で、教科書裁判など多くの重大な事件・争点が生み出されてきた。この授業では教育法の主要事項と、その代表的な論点について解説する。</p> <p>本講義で学んだ人々が、法を順守して職務に臨む、良識ある教師となることを心から願う。その他の進路にすすむ人々にとっても、学校教育の諸問題について見識を深める機会となろう。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義ガイダンス、教育法とはどんな法分野か</li> <li>2 教育法の歴史：新憲法と教基法、教育法学の展開</li> <li>3 日本国憲法の教育規定：教育を受ける権利、義務教育など</li> <li>4 教育基本法：1947年教基法の理念、2006年改正法</li> <li>5 学校制度</li> <li>6 教育委員会制度</li> <li>7 教職員の地位</li> <li>8 学校安全</li> <li>9 国際教育法と日本</li> <li>10 教育法の争点①：教育権論争</li> <li>11 教育法の争点②：教科書検定制度</li> <li>12 教育法の争点③：体罰、いじめ、不登校など</li> <li>13 教育法の事例①：校則裁判</li> <li>14 教育法の事例②：日の丸・君が代訴訟</li> <li>15 教育法の事例③：公立学校と政教分離</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	<p>私の他の担当講義「法学(国際法を含む)」「人権と法」「子どもの権利」「日本国憲法」のいずれとも関連がある。特に「子どもの権利」は併せて履修することを強く望む。</p> <p>授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	期末試験(100%)。加点措置としてリアクションペーパー、小テスト等実施する場合もある。				
教 科 書 (購 入 必 須)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法(新訂版)』(三省堂、2015)</li> <li>そのほか追加資料を配布する。</li> </ul>				
参 考 書 (購 入 任 意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本弁護士連合会子どもの権利委員会編著『子どもの権利ガイドブック【第2版】』(明石書店、2017)</li> <li>そのほか参考文献を適宜紹介する。</li> </ul>				

科目名	教育心理学				
担当教員名	糸田 尚史				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職：必修	資格要件	教職：必修
実務経験及び授業内容	児童相談所と児童家庭支援センターにおいて心理臨床の実務経験を有する教員が、「教育」という営為に有効とされる心理学的な知見について指導する科目				
学習到達目標	<p>テーマ：教育にかかわる心理学の理論や実践について学び、知識や応用力を修得する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育にかかわる心理学についての知識や理論を学び、理解する</li> <li>・教育にかかわる心理学についての知見を教育現場に活用できる力を身につける</li> <li>・教師としての自覚と責任をもつ</li> </ul>				
授業の概要	<p>学習、神経発達症（知的能力障害・発達障害）、モチベーション、記憶、パーソナリティなど教育と関連の深い心理学的な領域について解説する。実際の教育相談事例などにもふれる。写真や図が主体のスライドと共に映画などの視聴覚教材や教育にかかわる優れた絵本なども織り交ぜながら講義を進める。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 記憶①：感覚記憶</li> <li>2 記憶②：ワーキングメモリー（短期記憶） 長期記憶</li> <li>3 記憶③：忘却 健忘 記憶術</li> <li>4 学習①：古典的条件づけ オペラント条件づけ 確証バイアス 間歇強化</li> <li>5 学習②：社会的学習（社会的認知）理論 正統的周辺参加 発達の最近接領域</li> <li>6 モチベーション①：進化心理学 動因低減説 動機づけ 統制の所在</li> <li>7 モチベーション②：学習性無力感 自己効力 原因帰属理論 アクティブラーニング</li> <li>8 発達：発達理論 発生的認識論 漸成説</li> <li>9 知能①：知能理論 ビネー法知能検査</li> <li>10 知能②：ウェクスラー法知能検査法 適性処遇交互作用（ATI）</li> <li>11 パーソナリティ①：類型論 特性論 Y-G性格検査</li> <li>12 パーソナリティ②：力動論（精神分析理論） エゴグラム検査</li> <li>13 神経発達症（発達障害）と特別支援教育①：知的能力障害/知的発達症 自閉スペクトラム症（ASD）</li> <li>14 神経発達症（発達障害）と特別支援教育②：限局性学習症（SLD） 注意欠如多動症（ADHD） 子ども虐待</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	<p>心理学的実験・演習も行うので積極的に参加してほしい。 配布資料は順番に綴り、遺漏のないように管理していただきたい。</p>				
学生に対する評価	<p>試験（60点）・提出物（20点）・受講態度（20点）の合計点で評価する。提出物（20点）は毎時の「気づき・学び」にかかわるリアクションペーパーの作成・提出である。</p>				
教科書（購入必須）	<p>鎌原雅彦・竹網誠一郎 著 『やさしい教育心理学（第5版）』 有斐閣 2019年</p>				
参考書（購入任意）	<p>N・C・ベンソン 著（清水・大前 訳） 『マンガ 心理学入門：現代心理学の全体像が見える』 講談社（ブルーバックス） 2001年          教員採用試験情報研究会 著 『教職教養 これだけはやっとうこう（教員採用試験シリーズ）』 一ツ橋書店 2018年          東京アカデミー 著 『教員採用試験対策 参考書 教職教養Ⅱ（教育心理・教育法規）』 東京アカデミー七賢出版 2020年</p>				

科 目 名	特別支援教育の基礎				
担 当 教 員 名	矢口 明				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職：必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	教育職員免許法の改正に伴って、本講義が設定された経緯について理解する。インクルーシブ教育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害等のある子どもの教育の在り方について理解する。障害についての基本的な理解や具体的な支援の方法について学ぶ。障害等のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。感覚過敏などによって障害等のある子どもが感じている生きづらさ（偏食など）について理解する。				
授業の概要	(1) インクルーシブ教育を支える理念、(2) 障害等の理解と支援 (3) 家庭及び関係機関との連携、(4) 障害等のある子どもにかかわる教育や福祉の現状と課題 (5) 感覚過敏や感覚鈍磨、(6) 発達障害児の偏食、などについて学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 特殊教育から特別支援教育へ転換の経緯</li> <li>2 特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システムが目指すもの</li> <li>3 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(1) LD、ADHDの児童生徒</li> <li>4 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(2) 自閉スペクトラムの児童生徒</li> <li>5 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(3) 診断のない児童生徒</li> <li>6 児童生徒の行動の理解と対応(1) コミュニケーション</li> <li>7 児童生徒の行動の理解と対応(2) 不適切な行動</li> <li>8 特別支援学級、通級指導教室の教育課程と個別の教育支援計画</li> <li>9 特別支援学校の教育課程と自立活動の指導</li> <li>10 就学に向けた相談支援体制と福祉制度</li> <li>11 特別支援教育コーディネーターの役割と校内支援体制</li> <li>12 家庭や地域と連携した支援体制の構築</li> <li>13 関係機関と連携した支援体制の構築</li> <li>14 発達障害児の偏食の原因とその理解</li> <li>15 発達障害児の偏食への対応</li> </ol>				
授業の留意点	授業終了後の感想等の記述内容と試験によって、授業の理解度を把握する。				
学生に対する評価	毎回の授業中の議論や質問などの様子（40点）と最終試験の結果（60点）により評価する。				
教科書（購入必須）	なし				
参考書（購入任意）	発達障害とはなにか（古荘純一著） 発達障害児の偏食改善マニュアル（山根希代子監修）				

科目名	教育課程論				
担当教員名	河合 宜孝				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職：必修	資格要件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>① 教育課程に関する基本的事項やカリキュラム研究成果(理論)の学びを通して、教育課程・カリキュラムに関する知識を理解し、説明することができる。</p> <p>② 学習指導要領の変遷とその主な特徴を把握し、わが国の教育課程行政の仕組みを理解し、説明することができる。</p> <p>③ 新しい学習指導要領の理念や改訂内容を把握し、これから学校に求められるカリキュラム・マネジメントについて論考し、自分の考えを述べるることができる。</p>				
授業の概要	<p>わが国の学校教育の教育課程は、時代や社会の変化に対応すべく、様々な変化を遂げてきた。本授業では、教育課程・カリキュラムに関する諸理論を概観するとともに、学校の教育課程の基準としての学習指導要領の基本的な性格やその変遷、さらには現行の学習指導要領の主な特徴や新しい学習指導要領の理念や改訂内容を踏まえ、これからの学校教育の展開とその課題を考察する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 教育課程の意義</li> <li>2 教育課程編成の思想と構造</li> <li>3 近代・現代日本の教育課程の歩み</li> <li>4 教育課程の編成と諸要因</li> <li>5 学習指導要領と教育課程編成の実際</li> <li>6 学校経営・学級経営・生徒指導と教育課程との関連</li> <li>7 各教科と道徳・特別活動・総合的な学習の時間の関連</li> <li>8 教育課程と評価</li> <li>9 カリキュラム開発と学力向上策</li> <li>10 国際学力調査の教育課程改革への影響</li> <li>11 様々な教育課程の改革</li> <li>12 新しい学習指導要領の検討(1) 理念・キーワード</li> <li>13 新しい学習指導要領の検討(2) 改訂内容など</li> <li>14 教育課程の現代的課題(カリキュラム・マネジメント等について)</li> <li>15 講義のまとめ・総括課題の実施</li> </ol>				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育をめぐる動向や社会の動きに関心を持ち、教育課題解明のために教育課程をどのように編成・実施すべきか、つねに問題意識を持ちながら受講すること。</li> <li>・教科書を輪番で解説する演習を設けるので、その役割を果たすこと(割り当てやレポート作成方法などは最初の講義にて指示する)。</li> <li>・教科書の該当頁を読んで予習してくること。(2日目以降の各講2時間)</li> <li>・講義後に授業ノートや配布資料等を見直し、復習すること。(各講2時間)</li> </ul>				
学生に対する評価	<p>■レポートや小テストなどの講義上の課題演習(30点) ■総括課題(30点) ■グループワークを含む授業への参加状況や輪読の発表成果(40点)</p>				
教科書(購入必須)	古川治ほか編(2019)「改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論」北大路書房				
参考書(購入任意)	<p>文部科学省(2018)「高等学校学習指導要領」(平成30年3月告示)</p> <p>田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵(2018)「新しい時代の教育課程[第4版]」有斐閣</p> <p>国立教育政策研究所編(2016)「国研ライブラリー 資質・能力[理論編]」東洋館出版社</p> <p>松岡亮二(2019)「教育格差—階層・地域・学歴」筑摩書房</p>				

科 目 名	総合的な学習の時間の指導法				
担当教員名	松田 剛史				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職：必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間の意義と目標を理解することができる。</li> <li>・教育活動としての効果的な総合的な学習の時間のあり方を主体的かつ協働的に考えることができる。</li> </ul>				
授業の概要	総合的な学習の時間の意義とねらいを理解し、各教科や領域で培った知識や経験を活用することを通して養う実際的かつ探究的な学びの在り方について共に考え、指導に必要な知識・技能や素養を身につける授業である。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション ～総合的な学習の時間とは何か～</li> <li>2 総合的な学習の時間の教育的意義と目標</li> <li>3 総合的な学習の時間の実践の実際と留意点</li> <li>4 教育活動の評価とカリキュラム・マネジメント</li> <li>5 演習①～フィールドワークを準備する～</li> <li>6 演習②～フィールドワークを経験する～</li> <li>7 演習③～主体的で体験的な学習の指導を計画する～</li> <li>8 総合的な学習の時間という教育活動は何だったか</li> </ol>				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義の意味をしっかりと意識した者が授業すること。</li> <li>・授業に主体的かつ能動的に参加できる者の受講を基本とする。</li> <li>・授業準備がなされていることを前提とした授業時間であることを十分留意して授業に臨むこと。</li> <li>・授業計画は学習状況等によって講義回が前後することがある。</li> <li>・講義日時以外（土日休含む）でのフィールドワークや学校訪問などの学外活動がある。日程については事前に履修生と調整する。（基本的に現地集合・解散）</li> </ul>				
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動へ取り組むパフォーマンス (60点)</li> <li>・レポートや各種学習成果に関する提出物 (40点)</li> </ul>				
教科書 (購入必須)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関川悦雄、今泉朝雄 編『特別活動・総合的な学習の理論と指導法』弘文堂 2019年</li> <li>2. 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』東山書房 2018年</li> </ol>				
参考書 (購入任意)	適宜情報を提供する				

科 目 名	特別活動論				
担 当 教 員 名	松田 剛史				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職：必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動の意義と目標を理解することができる。</li> <li>・教育活動としての効果的な特別活動のあり方を主体的かつ協働的に考えることができる。</li> </ul>				
授業の概要	特別活動の意義とねらいを理解し、各教科や領域で培った知識や経験を活用することを通して養う実際的かつ探究的な学びの在り方について共に考え、指導に必要な知識・技能や素養を身につける授業である。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション ～特別活動とは何か～</li> <li>2 特別活動の歴史の変遷</li> <li>3 特別活動の教育的意義と目標</li> <li>4 学級活動・ホームルーム活動の実践</li> <li>5 児童会・生徒会活動／クラブ活動／学校行事の実践</li> <li>6 演習①～指導計画を構想する～</li> <li>7 演習②～指導計画を作成する～</li> <li>8 特別活動という教育活動は何だったか</li> </ol>				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義の意味をしっかりと意識した者が授業すること。</li> <li>・授業に主体的かつ能動的に参加できる者の受講を基本とする。</li> <li>・授業準備がなされていることを前提とした授業時間であることを十分留意して授業に臨むこと。</li> <li>・授業計画は学習状況等によって講義回が前後することがある。</li> <li>・講義日時以外（土日休含む）でのフィールドワークや学校訪問などの学外活動がある。日程については事前に履修生と調整する。（基本的に現地集合・解散）</li> </ul>				
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動へ取り組むパフォーマンス (60点)</li> <li>・レポートや各種学習成果に関する提出物 (40点)</li> </ul>				
教科書 (購入必須)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関川悦雄、今泉朝雄 編『特別活動・総合的学習の理論と指導法』弘文堂 2019年</li> <li>2. 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』東山書房 2018年</li> </ol>				
参考書 (購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜情報を提供する</li> </ul>				

科 目 名	教育方法・技術論				
担 当 教 員 名	石川 貴彦				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職：必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	<p>事物・事象を教育内容として構成し、授業で展開するための方法・技術を習得する。併せて、ICTを活用した教材づくりや授業分析の方法を学ぶ。これらの教育方法・技術をマイクロティーチング（模擬授業）で実践し、相互評価による確認・内省を通じて、自身の教育方法を客観的に捉え高めていく力を養うことを到達目標とする。</p>				
授 業 の 概 要	<p>教材研究、授業設計、教育評価、教育技術といった一連のプロセスを、各要素から十分に検討しながら、授業実践の方法・技術を習得する。これらを踏まえて、実際にマイクロティーチングの相互評価を行い、授業評価・分析を通じて、自身の指導力向上の方法について検討する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育方法・技術を学ぶにあたって必要な基礎的要件</li> <li>2 行動主義、認知主義から教育方法と教材作りを考える</li> <li>3 教師主導から子ども主体の授業へ（構成主義、社会的構成主義アプローチ）</li> <li>4 学習目標と評価、観点別学習状況の評価に応じた授業設計</li> <li>5 教育技術、発問・板書の工夫、教材・教具の使い方</li> <li>6 情報活用能力育成のための指導法（ブレンディッドラーニング、タブレット活用）</li> <li>7 学習指導案の書き方</li> <li>8 学習指導案の作成</li> <li>9 パワーポイントを用いたスライド教材の作成</li> <li>10 食に関する指導（栄養教諭）を対象としたマイクロティーチングと相互評価</li> <li>11 公民科を対象としたマイクロティーチングと相互評価</li> <li>12 福祉科を対象としたマイクロティーチングと相互評価</li> <li>13 他者評価の量的・質的分析による授業の分析・省察</li> <li>14 他者への評価（評価履歴）を用いた客観的な授業評価視点の育成</li> <li>15 「学び続ける教員像」を目指して</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	<p>3年次の教科等指導法、4年次の教育実習を見据えて、受講者全員に1人8分程度の模擬授業を行ってもらおう。模擬授業の際は、指導案と教材の準備をしっかり行い実践に臨むこと。また、免許取得を安易に考えている学生は、この講義で教職課程を辞退する傾向にあるので、自分の進路にとって教職履修が必要かどうかをしっかりと考えて受講すること。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>マイクロティーチングの実践・相互評価（40%）、期末レポート（40%）、授業時に課した小課題（指導案作成、授業分析ワークシート）（20%）</p>				
教 科 書 （購入必須）	<p>使用しない。授業中に資料を配布する。</p>				
参 考 書 （購入任意）	<p>食に関する指導の手引（第二次改訂版）（平成31年3月 文部科学省）          高等学校学習指導要領解説 公民編（平成30年7月 文部科学省）          高等学校学習指導要領解説 福祉編（平成30年7月 文部科学省）          自分が小・中学校・高校時に使用していた教科書・資料を用意すること</p>				

科目名	生徒指導論				
担当教員名	佐藤 憲夫				
学年配当	3年	単位数	1単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職：必修	資格要件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>(到達目標) ①生徒指導の意義と役割について、基本的な概念を説明することができる。②生徒指導に係る教師のスタンスを理解し、場面に応じた自分の考えを持つことができる。③生徒理解の方法について、自分のアイデアを練り、工夫を凝らすことができる。④発達障害に関する知識と対応の方法について、理解をすることができる。</p> <p>(テーマ) 生徒指導の理論及び方法</p>				
授業の概要	<p>生き方指導、教育相談、進路指導、非・反社会的行為など幅広い生徒指導の実態を学ぶとともに、教育現場において生徒指導が機能するための教師のあり方について学習を深める。実際の教育現場の抱える課題について、ケーススタディを通して考察を行う。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 生徒指導とは何か 生徒指導の目的①-目標と課題</li> <li>2 生徒指導の目的②-発達観・指導観・新しい生徒指導の使命</li> <li>3 教育課程との関連 教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における生徒指導</li> <li>4 生徒指導の組織と計画</li> <li>5 生徒指導の意義と機能</li> <li>6 生徒理解の内容</li> <li>7 生徒指導の方法 個別指導と集団指導</li> <li>8 教育相談の理解と進め方</li> <li>9 適応と発達 防衛機制と適応障害</li> <li>10 問題行動①-様相</li> <li>11 問題行動②-種類と原因</li> <li>12 問題行動③-処遇</li> <li>13 進路指導の目的と内容</li> <li>14 教育現場の実際にふれる(ケーススタディ) グループ協議と発表</li> <li>15 子どもたちの「生き抜く力を育てる教師 講義のまとめ</li> </ol>				
授業の留意点	<p>教師を志す者としてのスタンスをしっかりと持つ。自分が教師となったときの場面を想定し、指導者としての立場でどう行動することが必要であるのか考えを深めてほしい。講義の内容を自分自身の中高時代の行動や思考にスライドさせることも、理解の深化に結びつく。また、常に社会の動向を注視し、教育に関する情報アンテナを高く持つことが必要である。</p>				
学生に対する評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リアクションペーパー 30点(授業の感想、課題提出など)</li> <li>2. 課題レポート 70点</li> <li>3. 授業態度を加味する</li> </ol>				
教科書(購入必須)	<p>「はじめて学ぶ生徒指導・進路指導-理論と実践」 広岡義之編著 ミネルヴァ書房</p>				
参考書(購入任意)	<p>文部科学省 2010『生徒指導提要』他、講義の中で適宜紹介する</p>				



科 目 名	学校カウンセリング				
担 当 教 員 名	大橋 毅士				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職：必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	生徒指導は学校のすべて教育活動を通しての行われる機能であり、教育相談はその中核をなすものである。計画組織的に児童生徒理解を図り、児童生徒の自己実現を図ることを理解する。また、暴力やいじめ、不登校、児童生徒の自殺などの問題や諸課題、発達障害や精神疾患・障害等についての理解を深めるとともに、心理療法(カウンセリングを含む)についての基礎的な知識と技能を学び、教育相談の進め方について理解する。				
授 業 の 概 要	生徒指導及び教育相談の意義や目的、教育相談の計画と組織的な取り組みなどについて知り、児童生徒の問題行動や生徒指導上の諸課題について考察する。さらに、発達障害、児童期・思春期の精神疾患・障害について理解するとともに、さまざまな心理療法(カウンセリング等)について知り、教育相談の進め方について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 児童生徒の問題行動・諸課題①(暴力、いじめ)</li> <li>3 児童生徒の問題行動・諸課題②(不登校)</li> <li>4 児童生徒の問題行動・諸課題③(高校中退・自殺)</li> <li>5 発達障害、児童期・思春期の精神疾患・障害①(知的障害・コミュニケーション障害)</li> <li>6 発達障害、児童期・思春期の精神疾患・障害②(自閉症スペクトラム障害・注意欠如多動性障害)</li> <li>7 発達障害、児童期・思春期の精神疾患・障害③(限局性学習障害・発達性運動障害)</li> <li>8 さまざまな心理療法①(精神分析・分析心理学)</li> <li>9 さまざまな心理療法②(行動療法・認知行動療法)</li> <li>10 さまざまな心理療法③(来談者中心療法)</li> <li>11 さまざまな心理療法③(解決志向アプローチ)</li> <li>12 さまざまな心理療法③(解決志向アプローチ)</li> <li>13 さまざまな心理療法③(解決志向アプローチ)</li> <li>14 教育相談の進め方(スクールカウンセリングとチーム援助)、学校の危機管理</li> <li>15 教育相談(学校、カウンセリングを含む)のまとめ</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	資料をもとに具体的な授業をめざす。カウンセリングの基礎的な知識や技能を身に付けるためのワークやロールプレイを行う。また、学生の感想(今までの教育相談等の体験を含む)を授業の中で取り上げていきたい。そのため、毎回短いレポートの提出を求める。				
学 生 対 する 評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への参加態度 (30点)</li> <li>・ ミニレポートの提出 (30点)</li> <li>・ まとめのレポートの内容 (40点)</li> </ul>				
教 科 書 (購入必須)	使用しない。必要な資料はその都度配布する。				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	進路指導及びキャリア教育				
担当教員名	椿 達				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職：必修	資 格 要 件	教職：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>①進路指導・キャリア教育の意義や原理、政策的な経緯と現状について理解する。</p> <p>②進路指導・キャリア教育の考え方や指導の在り方を理解する。</p> <p>③進路指導・キャリア教育の実践的課題は何であるか等の見通しをもち、将来の実践者としての教育への意欲を高めるとともに、指導の基盤をつくる。</p>				
授業の概要	<p>本授業では進路指導・キャリア教育について、歴史的政策的な経緯を踏まえ、基本的な事項を解説し、学校教育のなかで進路指導・キャリア教育がどのような役割を担い、どのような意義を持つ教育活動であるのか、さらにこれからどのような教育実践が求められていくのかについて学ぶ。授業の方法は、講義・演習・発表等、履修者の参加を重視した方法で行う。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 キャリア教育の意義</li> <li>2 キャリア教育の理論</li> <li>3 キャリア教育と進路指導</li> <li>4 学習指導要領とキャリア教育</li> <li>5 学びの意味</li> <li>6 キャリア教育の方法と技術、評価、学校組織</li> <li>7 教科を通じたキャリア教育の実践</li> <li>8 キャリア・パスポートの実践／最終レポート</li> </ol>				
授業の留意点	教科書の輪読を行います。講義の1か月前くらいに、分担を発表しますので、スライドやレポートを作成して授業に出席してください。				
学生に対する評価	■小テスト（10点） ■ レポート（25点） ■演習課題（40点） ■授業態度（25点）				
教科書（購入必須）	藤田晃之（2019）『キャリア教育フォー ビギナーズ「お花畑系キャリア教育」は言われるほど多いのか？』実業之日本社				
参考書（購入任意）	<p>文部科学省（2012）『高等学校 キャリア教育の手引き』教育出版</p> <p>日本キャリア教育学会（2020）『新版 キャリア教育概説』東洋館出版社</p> <p>児美川孝一郎（2013）『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書</p>				

科 目 名	教育実習事前事後指導				
担 当 教 員 名	大坂 祐二・石川 貴彦				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職(高公・高福)：必修	資 格 要 件	教職(高公・高福)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>教育実習は、これまでの教職課程での学びを学校現場で実践する唯一の科目である。実習でなるべく多くの経験を積むためには、事前に十分な準備を行い、さらには自己課題を明確にして、子どもや教師から様々なことを吸収できる体制を自ら構築しておかなければならない。そして、教育実習の経験を踏まえて自ら成長できる教師を目指さなければならない。</p> <p>本演習ではこれらのことを到達目標とし、教育実習に向かうための事前指導、および実習後の事後指導を実施する。</p>				
授業の概要	<p>事前指導では、教育実習において必要な事項を最終確認する。そして各自の実習課題を明確にし、それに向けて十分な準備を進める。</p> <p>事後指導では、各自の事後レポート報告を前提に、得られた経験や学び、自らの今後の課題についての意見交換を行う。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 教育実習の内容と準備</li> <li>3 実習日誌の書き方</li> <li>4-5 教育実習に向けての最終確認（模擬授業）</li> <li>6-7 教育実習に向けての最終確認（模擬授業）</li> <li>8 教育実習後の意見交流（実習報告会）</li> </ol>				
授業の留意点	<p>事前指導から教育実習は始まっていると認識してほしい。特に遅刻・欠席は実習中止の対象になり得る。また、教育実習前の4月に集中的に実施するので、就活等で長期間欠席するのは避けること。</p> <p>事後指導は教育実習報告会を兼ねて、3年生を交えながら12月下旬に実施する。</p>				
学生に対する評価	<p>実習前の取組状況（指導案・教材作成、模擬授業）（50%）、教育実習事後レポートおよび実習報告（50%）</p>				
教科書（購入必須）	<p>教育実習の手引き（第7版）、学術図書出版社、2019年 教育実習日誌（第4版）、学術図書出版社、2019年</p>				
参考書（購入任意）					

科 目 名	教育実習				
担 当 教 員 名	石川 貴彦・大坂 祐二・小西 二郎				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	実 習
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	教 職 (高 公 ・ 高 福) : 必 修	資 格 要 件	教 職 (高 公 ・ 高 福) : 必 修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	各学校での教育実習を通じて、現場の実習指導者の指導のもと、教育の実際を学び、確実な学級経営や授業などの教育実践ができる力を身につける。特に、観察実習を中心に、教科指導力の向上を図る。				
学 習 到 達 目 標	高等学校において、①大学で学んだ知識や理論、技術を具体的に展開できる、②授業や生徒指導の中に知識等を結びつけて、生き生きとした教育を展開できる、③教育実習を通じて、自己の教員としての適性や能力を発見したり、判断したりできることを、実習の到達目標とする。				
授 業 の 概 要	教育実習（高等学校） 高等学校の教員免許を取得する者は、高等学校において 2 週間の教育実習が必要である。教育実習事前指導を受けた後、教育現場での実習に臨む。また、研究授業については、道内の実習校に限り、教職担当教員が訪問し直接指導を行う。				
授 業 の 計 画	1 教育実習（第1週） 実習校のプログラムによるが、概ね以下のような内容になる。 着任式、講話、学級経営、教材研究、授業観察 等 2 教育実習（第2週） 学級経営、教材研究、授業実習、研究授業、離任式 等				
授 業 の 留 意 点	教育実習途中での履修放棄は絶対にしないこと。あらゆる場面に直面しても、最後まで責任を持って実習をやり通すこと。				
学 生 に 対 す る 評 価	各実習校において取組を総合的に評価し、その結果を踏まえて教職担当教員が最終的に評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	使用する教科書等については、実習校および実習教科により異なるので、事前訪問や連絡を通じて、各自準備しておくこと。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	教職実践演習（高）				
担 当 教 員 名	大坂 祐二・石川 貴彦・小西 二郎				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2年	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職(高公)：必修	資 格 要 件	教職(高公)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	教職課程の履修を通じて、教員として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身に付けさせるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認する。このような学びを通じて、受講生は自ら問題意識を明確にし、自分の言葉を用いて説得力ある考えをまとめたり、活動に取り組む力を育成する。				
授業の概要	「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」「生徒理解や学級経営に関する事項」「教科等の指導力に関する事項」の4項目で構成し、各項目について総合的に学習するとともに、教職課程の総まとめとして、自己の到達度や今後の課題について最終的な確認を行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教職論 教員の職務内容について振り返る</li> <li>2 教職論 授業技術と教員の姿勢</li> <li>3 教職論 生徒指導の現局面</li> <li>4 社会性・対人関係 子どもの人権、表現の自由</li> <li>5 学校経営 校務分掌と教職員の協働</li> <li>6 学級経営 学級づくりの実践</li> <li>7 教科指導 教材研究と指導案①</li> <li>8 教科指導 教材研究と指導案②</li> <li>9 教科指導 授業研究・模擬授業①</li> <li>10 教科指導 授業研究・模擬授業②</li> <li>11 生徒指導 ケーススタディ①</li> <li>12 生徒指導 ケーススタディ②</li> <li>13 生徒指導 ケーススタディ③</li> <li>14 社会性・対人関係 保護者・地域との連携</li> <li>15 教職論 教員の使命・責任——「教育における自由」に着目して考える</li> </ol>				
授業の留意点	教育実習などの振り返りを生かして進める。				
学生に対する評価	4つの項目について、実践およびレポート等の課題（20点×4項目）を課し、授業意欲（20点）と合わせて総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	特になし				
参考書（購入任意）	各項目に応じて、適宜指示する。				

科 目 名	障害児教育学				
担 当 教 員 名	矢口 明				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	障害者の権利に関する条約の批准に伴い、2016年4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、福祉や教育は、大きな転換点が訪れている。特別支援教育が本格的に始まってから14年が経過し、障害のある子どもへの教育に対する考え方も変化してきている。わが国が築きあげてきた障害児教育の歴史を概観し、先達の理念と努力を学ぶことを通して、その意義と継承すべき視点について深く理解する。併せて、障害児教育を学ぶスタートラインとして、特別支援教育に関わる教員としての職業的自覚や今後の学びの意味を理解し、高いキャリア意識を醸成する。				
授業の概要	特別支援教育が何を目指しているのかについて学び、これまで行われてきた障害児教育の歴史、特にわが国における歴史を、明治、大正、昭和にわたって学習するとともに、世界の動向について知る。また、わが国における優れた教育実践とその創意工夫から、現在の制度や教育実践を再評価する。 各障害の概要を知り、障害や特性に応じた根拠のある支援の基本の理解を目指す。障害児教育の担い手として必要な知識・技術の概要を知り、今後の学習計画の基盤とする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 特殊教育から特別支援教育への転換</li> <li>2 障害児教育の歴史(1) 欧米における障害児教育の成立と展開</li> <li>3 障害児教育の歴史(2) わが国における明治期の障害児教育に尽くした人々</li> <li>4 障害児教育の歴史(3) わが国における大正期・昭和前期の障害児教育</li> <li>5 障害児教育の歴史(4) わが国における戦後の障害児教育</li> <li>6 障害児教育実践－先達に学ぶ</li> <li>7 世界の動向とインクルーシブ教育システム</li> <li>8 障害のある子どもの教育制度と就学支援</li> <li>9 特別支援教育と特別支援学校、特別支援学級</li> <li>10 ライフステージと教育 (1) 出生から幼児期まで</li> <li>11 ライフステージと教育 (2) 学童期から青年期まで</li> <li>12 個別の教育支援計画と個別の指導計画</li> <li>13 卒業後の就労に向けた支援</li> <li>14 交流及び共同学習とインクルーシブ教育システム</li> <li>15 関係機関との連携と特別支援教育</li> </ol>				
授業の留意点	知識として吸収するだけでなく、積極的に議論に参加し、解の見つけにくい課題に対しても思考するプロセスを身につけていくことが求められる。				
学生に対する評価	議論や質問に応じていく機会の多い授業となるため、授業の参加態度や議論の質等について、日常的にフィードバックする(30点)。これらの評価と最終試験の結果(70点)と併せて、総合的に判断し、評価する。				
教科書(購入必須)	資料を配布する。				
参考書(購入任意)	橋場隆著「発達障がい幼児へのかかわり」小学館				

科目名	知的障害心理・生理・病理				
担当教員名	玉重 詠子 ・ 糸田 尚史				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	教職(特支)：必修	資格要件	教職(特支)：必修
実務経験及び授業内容	言語聴覚士として病院での臨床を経験し、児童相談所・特別支援教育センター・特別支援学校との連携を経験した教員が、知的障害の病理と心理アセスメントについて指導する科目かつ、心理検査の実際について、更生相談所および児童相談所にて知的障害児者の心理判定に携わった教員が担当する。				
学習到達目標	<p>本講義の学習到達目標を以下の3点とする。</p> <p>(1) 知的障害の目安の基準を説明できる。</p> <p>(2) 知的障害のアセスメントの方法を説明できる。</p> <p>(3) アセスメントに基づいた知的障害の特徴を理解し、知的障害教育の意義を考え、説明できる。</p>				
授業の概要	特別支援教育の対象である知的障害について学習する。知的障害教育の意義を考察した上で、知的障害の診断基準とアセスメント方法について学習する。特別支援学校での指導実践例に触れ、知的障害教育の意義を再考する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 知的障害とは</li> <li>2 知的障害の目安の基準 知的障害の原因</li> <li>3 発達の生理的基礎 (中枢神経系の構造と機能)</li> <li>4 ダウン症候群 知的障害教育の意義</li> <li>5 知的障害のアセスメント1 ビネー式知能検査 (田中ビネーV 改訂版鈴木ビネー) の復習</li> <li>6 知的障害のアセスメント2 ウェクスラー式知能検査 (WPPSI-III WISC-IV WAIS-IV) の復習</li> <li>7 知的障害のアセスメント3 カウフマン式認知検査 (K-ABC 心理・教育アセスメントバッテリー KABC-II)</li> <li>8 知的障害のアセスメント4 DN-CAS 認知評価システム</li> <li>9 知的障害のアセスメント5 改訂版 I T P A 言語学習能力診断検査</li> <li>10 知的障害のアセスメント6 発達検査 (遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査)</li> <li>11 知的障害のアセスメント7 発達検査 (新版 K 式発達検査 2001 新版 K 式発達検査 2020)</li> <li>12 知的障害のアセスメント8 適応能力の検査 (S-M 社会生活能力検査第3版)</li> <li>13 知的障害のアセスメント9 認知機能評価のまとめ</li> <li>14 知的障害児の言語発達と支援 特別支援学校での実践例</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	<p>特別支援学校教諭免許に関わる講義であるため、知的障害教育を念頭に置いて理解を深めることが望ましい。教育実習の準備として、学習する検査法それぞれについてまとめておくことが望ましい。</p> <p>受講者の関心や理解のようす、状況等の変化によって順番を変更することがある。</p> <p>遠隔授業での実施を予定しているが、状況によっては変更する可能性がある。</p>				
学生に対する評価	講義内課題 (30 点)、定期試験 (70 点) により評価する。 ※状況により、定期試験を成績評価レポートに変更する可能性がある。				
教科書 (購入必須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。				
参考書 (購入任意)	<p>向後利明 (監修) 『知的障害の子どものできることを伸ばそう!』 日東書院</p> <p>小山充道 (編)・糸田尚史ほか (著) 『必携 臨床心理アセスメント』 金剛出版</p>				

科 目 名	肢体不自由心理・生理・病理				
担 当 教 員 名	中澤 幸子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職(特支)：必修	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	特別支援学校での教諭としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肢体不自由による発達への影響について理解を図る。</li> <li>・ 肢体不自由者の心理・生理・病理に関連する障害特性を理解し、当事者や家族への支援方法について考えることができる。</li> </ul>				
授 業 の 概 要	人間の身体の仕組み、運動発達を理解したうえで、肢体不自由が発達に与える影響について学びます。また、肢体不自由教育で出会うことの多い疾患の特性について、解剖学的、生理学的、心理学的観点から学び、当事者及び家族への支援について学習します。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 肢体不自由とは</li> <li>2 人間の身体の仕組み</li> <li>3 運動の発達</li> <li>4 肢体不自由が発達に与える影響</li> <li>5 肢体不自由者の障害特性</li> <li>6 脳性まひの理解</li> <li>7 二分脊椎の理解</li> <li>8 筋ジストロフィーの理解</li> <li>9 ペルテス病・骨系統疾患の理解</li> <li>10 手足の先天奇形・関節拘縮症の理解</li> <li>11 ダウン症整形外科的合併症・先天性股関節脱臼の理解</li> <li>12 肢体不自由者のリハビリテーション</li> <li>13 肢体不自由者のスポーツ</li> <li>14 肢体不自由者と家族の支援</li> <li>15 まとめ / 肢体不自由者を支援する際に大切なこととは</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	特別支援学校教員免許にかかわる講義であり、免許取得希望者は履修すること。				
学 生 対 する 評 価	授業の振り返りシート及び課題の取組状況（50点）、レポート（50点）等で総合的に評価します。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	肢体不自由児の医療・療育・教育 金芳堂 ISBN 978-4-7653-1628-6 その他、適宜、資料・視聴覚教材を使用します。				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	講義内で紹介します。				



科 目 名	病弱心理・生理・病理				
担 当 教 員 名	中澤 幸子・下村 遼太郎				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職(特支)：必修	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	特別支援学校での教諭としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気の子どもの心理・生理・病理について理解する。</li> <li>・具体的な事象や事例から病弱者・障害者の心理特性・行動背景を理解し、当事者や家族への支援方法について考えることができる。</li> </ul>				
授 業 の 概 要	病弱教育が対象とする子どもに多くみられる疾患の生理・病理、病気の子どもや家族の心理的特性と求められる心理的支援・配慮等について学び、考察します。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 授業の進め方等</li> <li>2 健康、病気、障害の概念</li> <li>3 小児期の慢性疾患Ⅰ（ぜんそく・アレルギー等）</li> <li>4 小児期の慢性疾患Ⅱ（腎臓病・心臓病等）</li> <li>5 小児期の慢性疾患Ⅲ（糖尿病等）</li> <li>6 悪性腫瘍（小児ガン、脳腫瘍等）</li> <li>7 進行性筋ジストロフィー</li> <li>8 てんかん、血友病、その他の疾患</li> <li>9 心身症・精神疾患</li> <li>10 病気・障害の受容とセルフケア</li> <li>11 病弱者・障害者の心理的特性</li> <li>12 病弱者・障害者と家族の支援</li> <li>13 教育・医療・保健・福祉等多職種による連携</li> <li>14 病弱者の支援における今日的課題</li> <li>15 まとめ / 病弱者の支援で大切なこと</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	特別支援学校教員免許取得に関わる講義であることから、他の障害（知的障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、発達障害、等）についても理解を深めるておくことが望ましい。 3～9 下村遼太郎 担当授業 / 1～2, 10～15 中澤幸子 担当授業				
学 生 に 対 する 評 価	授業振り返りシート及び課題への取り組み状況（50点）、レポート（50点）。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定です。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	講義で紹介します。				

科 目 名	障害児教育課程論				
担当教員名	矢口 明				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(特支)：必修	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>知的障害を中心とする教育について、教育史、教育の目的及び教育形態の概要と、学校が教育的活動を計画し、実践する際のよりどころとなる教育課程の概要を理解する。</p> <p>改訂された特別支援学校学習指導要領のポイントについて理解する。</p> <p>あわせて、近年のインクルーシブ教育の潮流に基づいた、制度・教育的変遷の意義と課題を概観する。</p>				
授業の概要	<p>視覚障害教育や聴覚障害教育から始まった「特殊教育」の時代から、現在の「特別支援教育」に至る過程を理解しながら、今後の展望を見通すことを目的とする。</p> <p>特別支援教育の理念を十分に理解しながら、障害特性に応じた教育の計画と評価を可能とするために、改訂された学習指導要領に基づいて、各学校で編成される教育課程の意義と立案の際の留意点等について理解をしていく。特別支援教育の特徴である自立活動について、実態把握から指導計画の作成までの流れを学ぶ。特別支援学校の見学を通して、特別支援教育の現状を学ぶ。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 知的障害とは（イントロダクション）</li> <li>2 障害児教育の概要（1）北海道教育大学附属特別支援学校の教育の実際</li> <li>3 障害児教育の概要（2）北海道内の特別支援学校の教育の実際</li> <li>4 障害のある子どもの学ぶ場（特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室）</li> <li>5 教育課程の概念と原理（国による法令と基準）</li> <li>6 学習指導要領改訂の変遷と意義（1）養護・訓練から自立活動への変遷</li> <li>7 学習指導要領改訂の変遷と意義（2）交流及び共同学習の推進</li> <li>8 改訂学習指導要領のポイント（1）</li> <li>9 改訂学習指導要領のポイント（2）</li> <li>10 各教科等を合わせた指導と自立活動の指導</li> <li>11 医療や福祉との連携の課題（就学から入学まで）</li> <li>12 医療や福祉との連携の課題（卒業後の就労）</li> <li>13 重複障害児の指導</li> <li>14 特別支援学校教員に求められる専門性</li> <li>15 特別支援学校教員に求められる専門性と教師キャリア</li> </ol>				
授業の留意点	<p>特別支援学校教員免許に関わる講義であるため、知的障害以外の障害と教育の概要について、同時に理解を深めていくことが望ましい。改訂された学習指導要領のポイントについて理解を深めていくことが望ましい。</p>				
学生に対する評価	<p>講義への参加態度（10点）、議論参加や質問への対応などの自発的な学習の深化（20点）、レポート（70点）を総合的に判断して評価する。</p>				
教科書（購入必須）	特に指定しない。資料は適宜配布する。				
参考書（購入任意）	<p>文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編  文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編</p>				

科 目 名	障害児教育方法論				
担 当 教 員 名	矢口 明				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	知的障害児の発達の諸相と障害特性についての理解を深め、効果的な指導方法を導き、指導の効果を評価→改善していくプロセス(Plan-Do-Check-Action)の意義と具体的な指導について理解を深める。応用行動分析に基づいた指導プロセスについての基本を理解する。				
授業の概要	知的障害や発達障害、自閉症スペクトラム障害は、認知、コミュニケーション、社会性、行動の調整などの困難な状態が、継続しているものである。 したがって、その教育や対応は、それぞれの発達の背景と機序を理解することから、具体的な指導法を導くところにあるといえる。 障害の特性の評価を行うアセスメントから指導計画の作成、指導方法の検討と指導、評価を行っていく一連のプロセスについて、事例を交えながら学べるようにする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 知的障害教育がめざす自立とは(イントロダクション)</li> <li>2 行動観察とアセスメント</li> <li>3 支援ツールの開発と利用</li> <li>4 応用行動分析による行動の理解</li> <li>5 自発的行動を高めるための支援</li> <li>6 家庭や地域と連携した支援</li> <li>7 主体的活動を促す支援とツール</li> <li>8 コミュニケーションの発達と支援</li> <li>9 社会性の発達と支援</li> <li>10 知的障害と認知処理過程</li> <li>11 発達障害の理解</li> <li>12 発達障害児者への支援</li> <li>13 自閉症スペクトラム障害の理解</li> <li>14 自閉症スペクトラム障害児者への支援</li> <li>15 自発的な行動を育てるチームティーチング</li> </ol>				
授業の留意点	特別支援学校教員免許に関わる講義であるため、知的障害以外の障害と教育の概要について、同時に理解を深めていくことが望ましい。				
学生に対する評価	講義への参加態度(20点)、質問への対応、議論の質などの自発的な学習の深化(40点)、最終試験結果(40点)を総合的に判断して評価する。				
教科書(購入必須)	特に指定しない。資料は適宜配布する。				
参考書(購入任意)	古荘純一著「発達障害とは何か」朝日新聞出版				

科 目 名	肢体不自由者教育課程論				
担当教員名	中澤 幸子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(特支)：必修	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校での教諭としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由児教育の歴史の変遷を知る。</li> <li>・肢体不自由児教育の主な対象児の障害特性や配慮事項等を理解する。</li> <li>・肢体不自由教育の教育内容・方法を学び、教育課程の基本について理解する。</li> <li>・肢体不自由教育の授業づくりの基本的視点を理解する。</li> <li>・肢体不自由教育に必要な専門性について、自分なりの考えをまとめ、説明することができる</li> </ul>				
授業の概要	肢体不自由教育の歴史、肢体不自由教育の制度、教育的意義について理解を図ります。また、肢体不自由児教育の対象である障害の基礎的特性について学ぶとともに、肢体不自由教育の教育課程、指導方法、配慮事項等についても、実践例等を通して学びます。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 肢体不自由の定義</li> <li>2 肢体不自由教育の歴史と現状</li> <li>3 肢体不自由教育の制度と肢体不自由教育</li> <li>4 肢体不自由教育の教育課程（教育課程編成の特徴）</li> <li>5 肢体不自由教育におけるアセスメントと個別教育計画の作成</li> <li>6 肢体不自由教育の内容と指導法① 自立活動</li> <li>7 肢体不自由教育の内容と指導法② 身体の動き</li> <li>8 肢体不自由教育の内容と指導法③ コミュニケーションの指導</li> <li>9 肢体不自由教育の内容と指導法④ 各教科の指導</li> <li>10 肢体不自由教育の内容と指導法⑤ 体育等の指導</li> <li>11 肢体不自由教育の内容と指導法⑥ キャリア教育</li> <li>12 重度・重複障害児の理解と指導法① 特性と配慮</li> <li>13 重度・重複障害児の理解と指導法② 指導計画と実際の指導</li> <li>14 肢体不自由教育における今後の課題</li> <li>15 まとめ / 肢体不自由教育における専門性</li> </ol>				
授業の留意点	特別支援学校教員免許取得に関わる講義です。他の障害（知的障害、病弱、視覚障害、聴覚障害、軽度発達障害等）の教育課程、指導法等についても理解を深めておいてください。				
学生に対する評価	振り返りレポート及び課題の取組状況（50点）、レポート（50点）等で総合的に評価します。				
教科書（購入必須）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領</li> <li>・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）</li> <li>・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）</li> <li>・特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）</li> <li>・特別支援学校高等部学習指導要領</li> <li>・特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）</li> </ul> その他：適宜、資料及び視聴覚教材を提示します。				
参考書（購入任意）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・杉野学 特別支援教育概論 大学図書出版 9784909655080（ISBN）</li> </ul> その他、講義内で適宜紹介します。				

科 目 名	肢体不自由教育演習				
担 当 教 員 名	中澤 幸子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職(特支)：必修	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校での教諭としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肢体不自由教育の現状の課題について問題意識をもつことができる。</li> <li>・ 特別支援学校（肢体不自由）の学習指導要領や個別の教育支援計画・個別の指導計画について理解し、幼児児童生徒の実態に合わせた授業づくりができる。</li> <li>・ 肢体不自由の幼児児童生徒を想定し、学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。</li> </ul>				
授業の概要	<p>肢体不自由教育の現状について文献研究を行い、問題意識を高めます。そのうえで、学習指導要領とともに特別支援学校の授業づくりの根拠となる「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」について、さらに特別支援学校（肢体不自由）の教育課程の中核にある「自立活動」との関係を学びます。そして、学習指導案の作成方法を学び、模擬授業と授業研究について体験的に学びます。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 授業の進め方</li> <li>2 肢体不自由教育に関する文献検索の方法と実際</li> <li>3 肢体不自由教育に関する文献検索の報告</li> <li>4 肢体不自由教育に関する文献研究レポートのまとめ方及び課題設定</li> <li>5 肢体不自由教育に関する文献研究の実際① 文献検索及び文献研究課題レポートの作成</li> <li>6 肢体不自由教育に関する文献研究の実際② 発表資料の作成</li> <li>7 肢体不自由教育に関する文献研究の実際③ 文献研究課題レポートの報告</li> <li>8 学習指導要領の理解① 肢体不自由の教育課程について</li> <li>9 学習指導要領の理解② 自立活動の目標及び内容について</li> <li>10 学習指導要領の理解③ 個別の教育支援計画、個別の指導計画との関係</li> <li>11 学習指導案の作成方法</li> <li>12 学習指導案の作成と模擬授業の準備</li> <li>13 模擬授業演習①（振り返り、評価）</li> <li>14 模擬授業演習②（振り返り、評価）</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	特別支援学校教員免許に関わる講義です。他の障害（知的障害、病弱、聴覚障害、視覚障害、発達障害等）の教育課程・指導法についても理解を深めることが望ましい。				
学生に対する評価	課題への取り組み状況（40点）、課題発表・模擬授業（40点）、レポート（20点）等で、総合的に評価します。				
教科書（購入必須）	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定です。				
参考書（購入任意）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 杉野学 特別支援教育概論 大学図書出版 9784909655080 (ISBN)</li> <li>・ 特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領</li> <li>・ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）</li> <li>・ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）</li> <li>・ 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）</li> <li>・ 特別支援学校高等部学習指導要領</li> <li>・ 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）</li> </ul> <p>その他、講義内で紹介します。</p>				

科目名	病弱教育学				
担当教員名	中澤 幸子				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職(特支):必修	資格要件	教職(特支):必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校での教諭としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病弱教育の概要が説明できる。</li> <li>・病弱児の教育的ニーズを知る。</li> <li>・病弱教育対象児を指導する際に必要な配慮事項を理解する。</li> <li>・病弱児の指導・支援方法の基本的な考え方がわかる。</li> <li>・病弱教育に求められる専門性について、自分なりの考えをまとめ、説明することができる。</li> </ul>				
授業の概要	病弱教育の歴史から病弱教育が果たしてきた役割、病弱教育の意義と課題について学びます。さらに病弱教育の対象となっている主な疾患とその特徴について理解を図るとともに、教育における実際の支援内容や指導方法、配慮事項等についても学びます。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 病気とは</li> <li>2 病気の子どもの教育</li> <li>3 病気の子どもの多様な学び場と支援</li> <li>4 学習指導要領を踏まえた指導① 特別支援学校学習指導要領の概要</li> <li>5 学習指導要領を踏まえた指導② 病気の状態に応じた指導の工夫と合理的配慮</li> <li>6 各校における指導事例① 特別支援学校</li> <li>7 各校における指導事例② 小・中学校等</li> <li>8 各校における指導事例③ 特別支援学校等におけるセンター的機能</li> <li>9 病気等の必要に応じた配慮事項① ～悪性新生物、神経筋疾患、呼吸器疾患～</li> <li>10 病気等の必要に応じた配慮事項② ～骨・関節系疾患、内分泌疾患、アレルギー疾患～</li> <li>11 病気等の必要に応じた配慮事項③ ～腎疾患、循環器系疾患、てんかん～</li> <li>12 病気等の必要に応じた配慮事項④ ～心身症及び精神疾患～</li> <li>13 病気等の必要に応じた配慮事項⑤ ～重症心身障害、医療的ケアが必要な子ども～</li> <li>14 病気等の必要に応じた配慮事項⑥ ～ターミナル期にある子ども～</li> <li>15 まとめ / 病弱教育における専門性</li> </ol>				
授業の留意点	特別支援学校教員免許に関わる講義でもあり、他の障害(知的障害、肢体不自由、病弱、聴覚障害、軽度発達障害、等)の教育課程・指導法についても理解を深めることが望ましい。				
学生に対する評価	授業振り返りレポート及び課題への取り組み状況(50点)、レポート(50点)等で総合的に評価します。				
教科書(購入必須)	特別支援学校の学習指導要領を踏まえた病気の子どものための教育必携 ジアース教育新社 ISBN 978-4-86371-520-2 その他適宜、資料・視聴覚教材を使用します				
参考書(購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・杉野学 特別支援教育概論 大学図書出版 9784909655080 (ISBN)</li> <li>・特別支援学校幼稚園部教育要領小学部・中学部学習指導要領</li> <li>・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編(幼稚園部・小学部・中学部)</li> <li>・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚園部・小学部・中学部)</li> <li>・特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小学部・中学部)</li> <li>・特別支援学校高等部学習指導要領</li> <li>・特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部)</li> </ul>				

科目名	視覚障害教育総論				
担当教員名	外山 正一				
学年配当	3年	単位数	1単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職（特支）：必修	資格要件	教職（特支）：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>本講義では、視覚障害の概要、視覚障害教育の歴史・教育課程・指導内容・指導方法・評価法などについて学び、視覚障害教育に関する知識を習得するとともに、視覚に障害がある児童生徒の自立と社会参加に向け、特別支援教育に対する理解を深めることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 視覚障害の概要を視覚器の構造・視機能の観点から指摘できる。また、児童生徒の眼疾患に関する健康管理や教育的配慮について説明できる。</li> <li>2. 特別支援教育における視覚障害の状況を理解し、近代視覚障害教育の成立から現在までの視覚障害教育変遷の過程を説明できる。</li> <li>3. 特別支援教育の制度の概要を理解し、視覚障害教育の制度上の特徴について説明できる。</li> <li>4. 学習指導要領の概要を理解し、視覚障害教育における教育課程、指導計画、指導内容、指導方法、評価方法の特徴及び指導上の配慮事項について説明できる。</li> </ol>				
授業の概要	<p>本講義では、主として視覚障害教育に関する以下の内容について、テキスト、プリント資料、映像教材、実物教材等を使用しながら授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 視覚障害の概要及び視覚管理</li> <li>2. 視覚障害教育の歴史及び制度</li> <li>3. 視覚障害教育の教育課程及び指導計画</li> <li>4. 視覚障害教育の指導内容・指導方法及び評価法</li> </ol>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 特別支援教育における視覚障害教育 特別支援教育の概要 特別支援学校（視覚）及び特別支援学級の概要 通級による指導 重複障害教育 特別支援学校のセンター的役割 視覚障害児童生徒の就学と合理的配慮</li> <li>2 視覚障害教育の歴史 近代視覚障害教育の成立 日本訓盲点字の完成 盲学校及び聾学校 聾学校及び養護学校の義務制実施 特別支援教育への転換と北海道の特別支援教育</li> <li>3 視覚障害の概要と視覚管理 視覚障害の定義 視覚器の構造と視覚障害 視機能と視覚障害 眼疾患と教育的配慮</li> <li>4 視覚障害教育における教育課程と指導計画 教育課程の意義 教育課程の編成と指導計画の作成 特別支援学校（視覚）における教育課程の特徴 視覚障害教育における自立活動の内容 個別の指導計画と教育支援計画</li> <li>5 視覚障害教育における指導内容と指導方法Ⅰ（盲児の指導） 盲児の触知覚の特性 点字の読み書きの指導 空間概念の指導 言葉と事物・事象の対応の指導 歩行の指導 盲教育の教材教具 盲教育における指導上の配慮事項</li> <li>6 視覚障害教育における指導内容と指導方法Ⅱ（弱視児の指導） 弱視児の視知覚の特性 弱視教育の教材教具 弱視教育における指導上の配慮事項 使用文字と弱視レンズの選定</li> <li>7 視覚障害乳幼児の発達と支援及び視覚障害教育における評価法 視覚障害児の発達を規定する要因と発達の特徴 視覚障害児のアセスメントの基本 視覚障害児のアセスメントの方法及び記録</li> <li>8 視覚障害教育における自立活動 自立活動の本質と性格 養護・訓練から自立活動へ 自立活動の区分と指導内容 自立活動と歩行指導</li> </ol>				
授業の留意点	授業前にシラバスを参考にテキスト及び参考書の関係部分を学習し、課題意識を持って授業に臨むことを期待する。又、毎回授業後に当該授業に関する演習課題を提示するので、復習に活用し学習内容の定着を図ることを期待する。				
学生に対する評価	講義の態度、提示課題の取り組み状況、レポートの結果等を総合的に判断して評価する。レポート評価の基準は60点未満は不可、60点以上70点未満はC、70点以上80点未満はB、80点以上90点未満はA、90点以上はSとする。				
教科書（購入必須）	書名：「視覚障害教育入門」 青柳まゆみ 鳥山由子 編著（2018） 発行所：ジアース教育新社（本体1,800円）				
参考書（購入任意）	書名：「五訂版 視覚障害教育に携わる方のために」 香川邦生 編著 発行所：慶応義塾大学出版会（本体3,000円）				

科 目 名	聴覚障害教育総論				
担当教員名	玉重 詠子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(特支)：必修	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実務経験及び授業内容	聴覚領域担当の言語聴覚士として病院・更生相談所で20年以上臨床経験を持つ教員が、聴覚の病理・補聴・言語指導・福祉制度について指導する科目である。				
学習到達目標	聴覚障害児教育について、以下の3点を学習到達目標とする。 (1)聴覚の評価方法を説明できる。 (2)補聴について説明できる。 (3)聴覚障害領域における福祉制度を説明できる。				
授業の概要	特別支援教育の対象である聴覚障害に関連して学習する。聴覚の評価方法について学習し、障害程度と福祉制度について理解する。さらに補聴について理解し、聴覚障害児への支援について独自の工夫を考えられるようになる。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス きこえのしくみ</li> <li>2 聴覚障害の評価1 純音聴力検査</li> <li>3 聴覚障害の評価2 語音聴力検査</li> <li>4 難聴の種類 福祉制度</li> <li>5 補聴1 補聴器の種類 補聴器のしくみ</li> <li>6 補聴2 補聴器の調整</li> <li>7 補聴3 人工内耳のしくみ</li> <li>8 聴覚障害教育の歴史と指導法 聴覚障害児の言語指導</li> </ol>				
授業の留意点	耳の聴こえづらさが発達や日常生活に及ぼす影響について考えながら受講してほしい。純音聴力検査、語音聴力検査の復習をした上で、福祉制度や補聴の授業を受けてほしい。遠隔授業での実施を予定しているが、状況によっては変更する可能性がある。				
学生に対する評価	講義内課題30点、定期試験70点 ※状況により、定期試験を成績評価レポートに変更する可能性がある。				
教科書(購入必須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。				
参考書(購入任意)					



科 目 名	障害児の病理と心理 I				
担 当 教 員 名	玉重 詠子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	言語聴覚士として病院での臨床を経験し、児童相談所・特別支援教育センター・特別支援学校との連携を経験した教員が、様々な障害種別に共通して現れる言語障害を中心に言語病理学的視点から障害のアセスメントについて移動する科目である。				
学 習 到 達 目 標	<p>障害児に共通して現れる言語に関わる障害に関連して、本講義の学習到達目標を以下の3点とする。</p> <p>(1)言語発達の阻害要因を説明できる。</p> <p>(2)言語障害に関わる代表的な検査について説明できる。</p> <p>(3)障害種別による言語発達の支援目標の違いを説明できる。</p>				
授 業 の 概 要	特別支援教育の対象には、ことばの遅れや発音の不明瞭さのある児童・生徒が多くみられる。本講義では、構音障害と言語発達遅滞の評価と支援の基礎について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 言語にかかわる障害の種類</li> <li>2 音韻の産生</li> <li>3 構音の発達と構音障害</li> <li>4 構音検査1 検査の概要</li> <li>5 構音検査2 結果のまとめと解釈</li> <li>6 構音指導(事例)</li> <li>7 言語の発達 語彙・文法の獲得</li> <li>8 言語の発達 コミュニケーションの発達</li> <li>9 言語発達の阻害要因 言語発達評価の基本的な流れ</li> <li>10 語彙発達の評価 絵画語い発達検査(PVT-R)の概要</li> <li>11 語彙発達の評価 絵画語い発達検査(PVT-R)の結果の集計</li> <li>12 言語発達の評価 国リハ式&lt;S-S法&gt;言語発達遅滞検査の概要</li> <li>13 言語発達の評価 国リハ式&lt;S-S法&gt;言語発達遅滞検査の発達段階(段階1～2)</li> <li>14 言語発達の評価 国リハ式&lt;S-S法&gt;言語発達遅滞検査の発達段階(段階3～5)</li> <li>15 言語発達遅滞児の支援 国リハ式&lt;S-S法&gt;言語発達遅滞検査の結果の読み取りと支援計画の作成</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	<p>自らの構音の仕方を内省し、児童への構音指導をイメージすることが望ましい。また、語彙の獲得についての経験を思い出し、効率的な語彙獲得を考察してほしい。自分の考えを根拠をもって他者へ伝えられるように努力してほしい。</p> <p>本科目では、3つの検査法を提示しながら進めていく。それぞれの検査法について復習し、まとめておくことが望ましい。</p> <p>受講者の関心や理解のようす、状況等の変化によって順番を変更することがある。</p> <p>遠隔授業での実施を予定しているが、状況によっては変更する可能性がある。</p>				
学 生 対 する 評 価	授業内課題40点、定期試験60点により評価する。 ※状況により、定期試験を成績評価レポートに変更する可能性がある。				
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	障害児の病理と心理Ⅱ				
担 当 教 員 名	玉重詠子・糸田尚史				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	言語聴覚士として病院での臨床を経験し、児童相談所・特別支援教育センター・特別支援学校との連携を経験した教員が、障害児の支援法について指導する科目かつ、心理測定の活用は、児童相談所・更生相談所にて判定員として経験のある教員が担当する。				
学 習 到 達 目 標	<p>障害児に共通して現れる言語に関わる課題への支援について、以下の3点を学習する。</p> <p>(1)言語発達の阻害要因を理解し、支援に応用できる。</p> <p>(2)障害の特性(知的障害・自閉症スペクトラム)を理解し、説明できる。</p> <p>(3)知的障害の評価方法を説明できる。</p> <p>(4)言語発達検査の結果を解釈し、言語発達段階に応じた支援計画を作成できる。</p>				
授 業 の 概 要	特別支援教育の対象には、ことばの遅れや発音の不明瞭さのある児童・生徒が多くみられる。本講義では、個々の障害特性を理解した上での言語発達障害への具体的な支援方法について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 言語発達の阻害要因</li> <li>2 自閉症1 自閉症児の言語行動</li> <li>3 自閉症2 自閉症児の言語指導</li> <li>4 知能研究の歴史</li> <li>5 知的障害の評価1 京都式知能(発達)検査(新版K式発達検査2001 新版K式発達検査2020)</li> <li>6 知的障害の評価2 ビネー式知能検査(田中ビネー知能検査V 改訂版鈴木ビネー検査)</li> <li>7 知的障害の評価3 ウェクスラー式知能検査(WPPSI WPPSI-III WISC-III)</li> <li>8 知的障害の評価4 ウェクスラー式知能検査(WISC-IV WAIS-III WAIS-IV)</li> <li>9 知的障害の評価5 知能検査のまとめ</li> <li>10 国リハ式&lt;S-S法&gt;言語発達遅滞検査の復習</li> <li>11 言語発達遅滞児の支援1 指導事例を考える</li> <li>12 言語発達遅滞児の支援2 指導事例について検討する</li> <li>13 言語発達遅滞児の支援3 指導内容を考える</li> <li>14 言語発達遅滞児の支援4 文字の指導 語彙の拡大</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	<p>特別支援学校教諭免許に関わる講義であるため、障害児教育実習を念頭において理解を深めることが望ましい。「障害児の病理と心理Ⅰ」で学習した国リハ式&lt;S-S法&gt;言語発達遅滞検査を復習し、本講義で学習する認知機能検査の内容と関連付けた論理的な支援内容・方法を積極的に考えてほしい。</p> <p>受講者の関心や理解のようす、状況等の変化により順番を変更することがある。</p> <p>遠隔授業での実施を予定しているが、状況によっては変更する可能性がある。</p>				
学 生 対 する 評 価	講義内課題40点、定期試験60点 ※状況により、定期試験を成績評価レポートに変更する可能性がある。				
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配付する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	東田直樹(著)『自閉症の僕が跳びはねる理由』角川文庫 小山充道(編)・糸田尚史ほか(著)『必携 臨床心理アセスメント』金剛出版				

科 目 名	障害児教育実習事前事後指導				
担当教員名	矢口 明				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(特支)：必修	資 格 要 件	教職(特支)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	教育実習は、障害児の教育に関して具体的実践的に学ぶ重要な場となる。事前指導と事後指導を通じて、対象児の理解に基づいた指導を実践し、評価していくための手続きと方法を具体的に学ぶ。実習の反省を十分にいかして、特別支援教育の専門家としての自覚を持つことを目標とする。				
授業の概要	事前指導では、学校参観や模擬授業案の作成などを通じて、具体的・実践的な見通しを持つために、できるだけ協力校等をフィールドとした活動を通して、教育実習に対する事前準備を十分に行う。 事後指導では、実習の反省を具体的に報告することを通じて、児童・生徒の特性による課題、学校組織の課題、専門的知識や方法論による課題、チームティーチング等具体的なマネージメントなどを分析的に検討し、専門家として教育現場で活躍する基礎的態度を身につけるようにする。				
授業の計画	<p>〈事前指導〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 教育実習校の訪問参観</li> <li>3. 知的障害特別支援学校、肢体不自由特別支援学校、高等特別支援学校の現状と課題</li> <li>4. 実習計画の作成</li> </ol> <p>〈事後指導〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習反省報告</li> <li>2. 課題グループ討議</li> <li>3. 課題改善のための討議成果報告</li> <li>4. 教師としてのライフデザイン作成</li> <li>5. 教師教育と教師キャリア</li> </ol>				
授業の留意点	基礎免許の教育実習の成果と反省を十分に活用して、自らの課題意識と開発的な授業提案を持つことが望ましい。				
学生に対する評価	講義への参加態度 (20 点)、学習指導案の評価 (20 点)、実習報告会 (20 点)、学習支援や模擬授業等の実践活動 (40 点) を総合的に判断して評価する。				
教科書 (購入必須)	教育実習日誌 (第3版)、学術図書出版社、2011 年 教育実習日誌をもとに、資料、DVDなどの教材を活用する。				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	障害児教育実習				
担 当 教 員 名	矢口 明				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	実 習
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	教 職 (特 支) : 必 修	資 格 要 件	教 職 (特 支) : 必 修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	障がいをもつ子どもたちが在籍している特別支援学校において実習を行う。現場の実習指導者の指導のもと、特別支援学校の現状にふれることにより、特別支援学校教諭にとって必要不可欠な「子どもたちの障がい（特性）理解」「障がいに応じた適切な関わり」について学ぶ。				
学 習 到 達 目 標	教育においては、高い実践的指導力が求められている。教育実習では、幅広い知識と大学における経験とを十分に発揮し、具体的な経験を積む。職業としての魅力を十分に理解し、自らの課題を真摯に受け止めることを通じて、内省的実践者としての態度を育成することを目指す。				
授 業 の 概 要	教育実習は、北海道内の特別支援学校で行うこととし、教員として必要な知識・技能・態度に関する実践的能力を培う。 実習の成果を内省的にとらえることを通じて、自己の適性や職業に対する意欲を改めて把握し、進路選択や進路決定にいかす有用な機会ともなる。				
授 業 の 計 画	<p>各実習先の指導教員の監督・指導に基づいて、以下の内容を中心に実習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育講話の聴講</li> <li>2. 学習場面・生活場面の観察</li> <li>3. 学習場面・生活場面の部分的指導</li> <li>4. 授業計画の作成</li> <li>5. 教材研究</li> <li>6. 授業の実施</li> <li>7. 研究授業（指導案作成・教材研究・授業・反省会）</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	基礎免許の教育実習の成果と反省を十分に活用して、障害のある児童生徒への教育に関する専門的な知識を生かして、授業を計画・実践・評価を行うことが望ましい。				
学 生 対 する 評 価	実習先の特別支援学校の評価及び研究授業の評価を総合的に判断して評価する。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	教育実習日誌（第3版）、学術図書出版社、2011年				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科目名	栄養教諭論				
担当教員名	黒河 あおい				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職(栄養)：必修	資格要件	教職(栄養)：必修
実務経験及び授業内容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、栄養教諭の職務である「学校給食の管理」および「食に関する指導」について理解を深め、栄養教諭としての基礎的な知識を修得させる科目				
学習到達目標	栄養教諭の職務である学校給食の管理および食に関する指導について基礎的な知識を修得し、理解を深める。				
授業の概要	<p>①学校給食および食に関する指導の対象となる児童生徒の成長・発達、生活状況などについて確認する。</p> <p>②学校給食および食に関する指導にかかわる法制を理解する。</p> <p>③食に関する指導と各教科および給食業務のかかわりについて学ぶ。</p> <p>④教材となる献立作成が「食に関する指導の全体計画」に結びつき指導案の作成に繋がることを理解する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 栄養教諭の現状、児童生徒の成長、発達</li> <li>2 児童生徒の生活状況</li> <li>3 学校給食、食に関する指導の歴史</li> <li>4 学校給食、食に関する指導にかかわる法令</li> <li>5 「食に関する指導」(1)－全体計画 ①必要性 ②作成手順 ③留意点</li> <li>6 「食に関する指導」(2)－指導計画・成果・評価</li> <li>7 「食に関する指導」(3)－①給食の時間 ②発達段階に応じた内容</li> <li>8 「食に関する指導」(4)－教科「総合的な学習の時間」「特別活動」</li> <li>9 「食に関する指導」(5)－教科「家庭科、技術・家庭科」「体育科、保健体育科」</li> <li>10 「食に関する指導」(6)－教科「道徳」「生活科」</li> <li>11 「食に関する指導」(7)－個別栄養相談指導 家庭・地域との連携</li> <li>12 給食管理における栄養教諭の役割(1)献立作成、食品構成</li> <li>13 給食管理における栄養教諭の役割(2)学校給食摂取標準</li> <li>14 給食管理における栄養教諭の役割(3)衛生管理</li> <li>15 給食管理における栄養教諭の役割(4)施設設備</li> </ol>				
授業の留意点	栄養教諭は栄養士職と教育職を兼ね備える職種であり、全ての基本は「給食管理」であることを認識して授業に臨んでほしい。				
学生に対する評価	小テスト(20点)、レポート(20点)、試験(60点)により総合的に評価する。				
教科書(購入必須)	『栄養教諭論－理論と実際－4訂版』 金田雅代編著 建帛社 『食に関する指導の手引-第Ⅱ二次改訂版-i』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領(平成29年3月告示)』 文部科学省 東京書籍 『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月)』 文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 家庭編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説				
参考書(購入任意)					

科 目 名	食生活・食文化論				
担 当 教 員 名	黒河 あおい				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	教 職 ( 栄 養 ) : 必 修	資 格 要 件	教 職 ( 栄 養 ) : 必 修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、小中学生の生活環境に適した食教育の実践および学校給食の教育効果を引き出すために、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得させる科目				
学 習 到 達 目 標	小中学生の生活環境に適した食教育の実践および学校給食の教育的効果を引き出すために、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得する。				
授 業 の 概 要	前半は既存資料をもとに食生活の変遷と現状および児童生徒の栄養・食生活状況を把握し、家庭の食事や学校給食の変遷を確認する。後半は日本における食文化を概観し、地域の食文化の礎となる地場産物について演習を通して学習する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本における食生活の変遷</li> <li>2 日本における食生活の現状</li> <li>3 全国調査にみる児童生徒の栄養・食生活状況</li> <li>4 地域における児童生徒の栄養・食生活状況</li> <li>5 家庭食の変遷</li> <li>6 学校給食の変遷</li> <li>7 日本の食文化</li> <li>8 地域の食文化</li> <li>9 地場産物と食に関する指導</li> <li>10 地場産物と学校給食①北海道の地場産物</li> <li>11 地場産物と学校給食②出身地別の地場産物</li> <li>12 演習①関心のある地域の地場産物を調べる</li> <li>13 演習②給食における地場産物の活用を考える</li> <li>14 演習③食に関する指導における地場産物の活用を考える</li> <li>15 演習④地場産物についての発表、レポート提出</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	食および地域について広く関心をもって授業に臨んでほしい。				
学 生 に 対 する 評 価	発表内容 (30 点)、試験 (70 点) により総合的に評価する。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	金田雅代編著『栄養教諭論－理論と実際－3訂』建帛社、2009年 文部科学省『食に関する指導の手引－第二次改訂版－』東山書房、2019年 文部科学省『小学校学習指導要領〈平成20年3月告示〉』東京書籍、2008年 文部科学省『中学校学習指導要領〈平成20年3月告示〉』東京書籍、2008年				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科 目 名	食教育指導論				
担当教員名	黒河 あおい				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(栄養)：必修	資 格 要 件	教職(栄養)：必修
実務経験及び授業内容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、小中学生の生活環境に適した食教育の実践および学校給食の教育効果を引き出すために、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得させる科目				
学習到達目標	食に関する指導の目標および必要性を理解し、食に関する指導に係る全体計画の作成・教科等との関連および個別的な相談指導等、学校内における様々な場面での指導、さらに家庭・地域との連携、調整の重要性を広く横断的に見る力を養う。 学習指導案の作成・発表・模擬授業などの演習を通し、栄養教諭としての指導法・技法等を修得する。				
授業の概要	栄養教諭として各自のテーマをもつことができるように知識を凝集していき、各自のテーマに対して広い視野から問題を把握し、指導計画案を作成・実行・評価することを学ぶ。 学校給食を「生きた教材」として活用する食に関する指導についての理解を深めるために、現役栄養教諭に実際の職務についての講義をしていただき、栄養教育実習先を想定して学校給食を教材とした「食に関する指導」の指導案作成・模擬授業などを行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス：「食教育指導論」で何を学ぶか、学校における食育の推進の必要性、食に関する指導の目標・必要性</li> <li>2 食に関する指導に係る全体計画の作成、各教科等における食に関する指導の展開</li> <li>3 学校給食を生きた教材とした食育の推進、学校・家庭・地域が連携した食育の推進</li> <li>4 個別的な相談指導の進め方、学校における食育の推進の評価</li> <li>5 食に関する指導の教育理論と技術</li> <li>6 教材研究、指導案づくり</li> <li>7 食に関する指導と学校給食の管理を一体のもとして行う職務の実際</li> <li>8 給食時間における食に関する指導の指導案づくり</li> <li>9 給食における食に関する指導の模擬授業 (1) 発表会 (前半グループ)</li> <li>10 給食における食に関する指導の模擬授業 (2) 発表会 (後半グループ)</li> <li>11 栄養教諭の職務の実際 (1) 学校における職務内容</li> <li>12 栄養教諭の職務の実際 (2) 調理場における職務内容</li> <li>13 給食を教材として活用する授業の指導案作成 (1) 教科目標と会に関する指導</li> <li>14 給食を教材として活用する授業の指導案作成 (2)</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	栄養教育実習で実施する研究授業につながる科目であり課題が多い科目であるが積極的に取り組んでほしい。				
学生に対する評価	提出物提出状況 (30点)、試験 (70点) により総合的に行う。				
教科書 (購入必須)	文部科学省『食に関する指導の手引-第二次改訂版-』(東山書房) 文部科学省『小学校学習指導要領』(東京書籍)				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	栄養教育実習事前事後指導				
担当教員名	黒河 あおい				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(栄養)：必修	資 格 要 件	教職(栄養)：必修
実務経験及び授業内容	栄養教諭としての経験を持つ教員が、事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し実習に必要な知識や技術を確実なものにできるように指導し、事後指導では、自分の課題を明確化し、今後さらに修得する必要がある知識・技術、コミュニケーション能力などについて明らかにできるように指導する科目				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習に必要な知識や技術を確実なものにする。</li> <li>・事後指導では、自分の課題を明確化し、今後さらに修得する必要がある知識・技術、コミュニケーション能力などについて明らかにする。</li> </ul>				
授業の概要	<p>事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習心得を確認する。 また、児童・生徒についての食に関する課題を明確にし、実習日誌や実習報告書の作成方法等を通じ実習効果を高める方法を学ぶ。 実習校での研究授業の準備を行う。 事後指導では、実習の問題点を整理し、実習内容および研究課題などをまとめ、報告会で発表する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 栄養教育実習の意義、目的、内容</li> <li>2 栄養教育実習のための準備と心得</li> <li>3-6 模擬授業</li> <li>7-8 栄養教育実習報告会</li> </ol>				
授業の留意点	<p>栄養教諭の職務は、食に関する指導と学校給食の管理を一体的に展開することであるため、学校給食の管理についての復習をしてから授業に臨んでほしい。 また、栄養教育実習の意味を十分に理解し、その準備に真剣に取り組み、実習後には課題を明確化して将来につなげてほしい。</p>				
学生に対する評価	提出物（50点）、模擬授業（50点）の内容などから総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	<p>栄養教育実習日誌（担当教員作成） 教育実習の手引き（第6版）学術図書出版社 教職課程で使用したすべてのテキストを参考書として使用する。</p>				
参考書（購入任意）					



科 目 名	栄養教育実習				
担当教員名	黒河 あおい				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(栄養)：必修	資 格 要 件	教職(栄養)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>実習を通して学校教育に対する理解と認識を深め、栄養教諭の職務や役割について理解する。指導教諭と連携し「食に関する指導」等を行う。</p> <p>また、生きた教材としての「学校給食」と「食に関する指導」との一体化について理解する。</p>				
授業の概要	<p>実習では学校経営等について理解し、児童および生徒への個別的な相談・指導の参観・補助、教科・特別活動や給食時間等における指導の参観・補助および食に関する指導案の立案作成や教材研究を行う。</p> <p>また、校内の連携・調整の参観・補助や家庭・地域との連携・調整等の参観・補助を行う。</p>				
授業の計画	<p>1 週間の実習</p> <p>学校経営、校務分掌、食に関する指導および学校給食の学内での位置づけについての理解</p> <p>児童および生徒への個別的な相談、指導の実習</p> <p>児童および生徒への教科・特別活動等における指導の実習</p> <p>食に関する指導の連携・調整の実習</p>				
授業の留意点	<p>必要な準備を整えて実習に臨むこと。</p> <p>健康管理に十分に留意して実習に専念すること。</p> <p>実習生であっても学校の構成員の一員である教員としての自覚をもって行動すること。</p>				
学生に対する評価	実習内容（50点）、提出物（30点）、出席状況（20点）などから総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	<p>栄養教育実習日誌（担当教員作成）</p> <p>教育実習の手引き（第6版）学術図書出版社</p> <p>教育課程で使用したすべてのテキストを参考書として使用する。</p>				
参考書（購入任意）					

科 目 名	教職実践演習（栄養教諭）				
担当教員名	黒河 あおい・小西 二郎				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(栄養)：必修	資 格 要 件	教職(栄養)：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	教職課程の履修を通じて、教員として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身に付けさせるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認する。このような学びを通じて、受講生は自ら問題意識を明確にし、自分の言葉を用いて説得力ある考えをまとめたり、活動に取り組む力を育成する。				
授業の概要	「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」「生徒理解や学級経営に関する事項」「教科等（栄養教諭）の指導力に関する事項」の4項目で構成し、各項目について総合的に学習するとともに、教職課程の総まとめとして、自己の到達度や今後の課題について最終的な確認を行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教職論 教員の職務内容について振り返る</li> <li>2 教職論 授業技術と教員の姿勢</li> <li>3 教職論 生徒指導の現局面</li> <li>4 社会性・対人関係 子どもの人権、表現の自由</li> <li>5 学級経営 校務分掌と教職員の協働</li> <li>6 学級経営 学級づくりの実践</li> <li>7 学校給食管理 学校現場（共同調理場を含む）見学・調査</li> <li>8 学校給食管理 講義・グループ討論</li> <li>9 学習指導 食に関する指導の全体計画・年間指導計画</li> <li>10 学習指導 教材研究と指導案</li> <li>11 学習指導 授業研究・模擬授業</li> <li>12 児童・生徒指導 個別的な相談、指導・特別支援の食に関する指導</li> <li>13 生徒指導 ケーススタディ</li> <li>14 社会性・対人関係 保護者・地域との連携</li> <li>15 教職論 教員の使命・責任——「教育における自由」に着目して考える</li> </ol>				
授業の留意点	教育実習などの振り返りを生かして進める。				
学生に対する評価	4つの項目について、実践およびレポート等の課題（20点×4項目）を課し、授業意欲（20点）と合わせて総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	特になし				
参考書（購入任意）	領域に応じて、適宜指示する。				



科目名	国語				
担当教員名	石本 啓一郎				
学年配当	1年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	幼稚園：選択
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	(1) 人間の言葉が発達するとはどういうことかを考える。 (2) 子どもの言葉の発達を支える保育、教育を考える。 (3) 1、2に基づいて、保育、小学校国語科などの言葉に関わる多様な実践を捉え直せるようになる。				
授業の概要	前半は、言葉の発達にかかわる保育者に必要とされる知識を提供する。受講者はその知識をワークショップやディスカッションを通して獲得し、「言葉」について既に持っている常識を問い直す。それに基づいて後半は、保育をはじめとする言葉に関わる多様な実践を読み解き、言葉の発達における保育者の役割について理解を深める。				
授業の計画	1 オリエンテーション 2 言葉の進化① チンパンジーと人間の比較 3 言葉の進化② 意味世界をつくり出す 4 人間の言葉の発達① 音と言葉の比較 5 人間の言葉の発達② 他社との協働における言葉の役割 6 人間の言葉の発達③ 想像における言葉の役割 7 人間の言葉の発達④ ごっこ遊び、描画、書き言葉 8 言葉に関わる多様な実践① 夜間中学 9 言葉に関わる多様な実践② 精神障害者施設 10 言葉に関わる保育実践記録を読んでもみる① 0～2歳児の言葉遊び 11 言葉に関わる保育実践記録を読んでもみる② 3～5歳児の言葉遊び 12 言葉に関わる保育実践記録を読んでもみる③ 0～2歳児の描画と文字 13 言葉に関わる保育実践記録を読んでもみる④ 3～5歳児の描画と文字 14 保育と小学校国語科の関係 15 まとめ				
授業の留意点	さまざまなワークショップやディスカッションを行う。積極的に参加して欲しい。				
学生に対する評価	授業への参加を20点、課題提出を30点、期末レポートを50点として評価する。				
教科書 (購入必須)	講義時に資料を配布する。				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	生活				
担 当 教 員 名	前田 賢次				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	幼稚園：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科と幼児教育との教育内容の関わりを把握する。</li> <li>具体的な作業を通して、遊びや活動の意味づけを理解する。</li> </ul>				
授 業 の 概 要	幼稚園教育と生活科のつながりについて実践的な活動を通して理解する。さらに、我が国の自然観と生活科の関連、地域に根付いた文化、環境を知り教材に活用する手法を発掘する。授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていく。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス 講義計画、評価方法</li> <li>大学の自然環境① 身の回りの自然観察</li> <li>大学の自然環境② 身の回りの自然を教材にする</li> <li>大学の自然環境③ 教材発表</li> <li>生活科の歴史的实践的系譜と展開① 戦前の名著「自然の観察」</li> <li>生活科の歴史的实践的系譜と展開② アクティブラーニングと生活科</li> <li>生活科の「授業」にふれる</li> <li>生活科の教育内容論 (1) 生活科の目的</li> <li>生活科の教育内容論 (2) 幼稚園教育と生活科の関わり</li> <li>地域の歴史・文化・環境にふれる① 地域の中から教材となり得るテーマを発見する</li> <li>地域の歴史・文化・環境にふれる② 発見したテーマを探求する</li> <li>地域の歴史・文化・環境にふれる③ グループワーク・劇発表の手法と準備</li> <li>劇発表①</li> <li>劇発表②</li> <li>まとめ</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていくので、活発な論議を行う上で予習を行うこと。野外で観察を行う時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。				
学 生 対 する 評 価	授業の取り組み方・意欲 20 点、制作物 20 点、発表 20 点、定期試験 40 点				
教 科 書 (購入必須)	小学校学習指導要領生活				
参 考 書 (購入任意)	幼稚園教育要領、その都度紹介する。				

科目名	音楽 I				
担当教員名	三国 和子				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	演習
開講時期	通年	必修選択	必修	資格要件	保育士：必修・幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	保育者に求められる音楽理論に関する基礎的知識、歌唱や器楽、リズム運動等、幼児に指導するための基礎的技能を修得し、音楽に対して肯定的な態度を身につける。 子どもが他者と楽しさを共有できる音楽活動を構成し、実践できる。				
授業の概要	おとなとは異なる子どもの音楽表現の様態を理解し、保育者に求められる音楽の基礎的知識・技能を修得する。知識・理論とともに実技を行い、身体の動きと結びついた音楽表現や、幼児期に適した歌唱や器楽のあり方について学ぶ。さらには、音楽に対して肯定的な態度を身につけることをめざす。				
授業の計画	1 音名と階名、音部記号（理論と音楽あそびの演習）	16	歌唱の基礎		
	2 リズム(1)拍とテンポ（理論と音楽あそびの演習）	17	子どもの歌(1)	ピアノを用いて	
	3 リズム(2)拍子と音符の長さ（理論と音楽あそびの演習）	18	子どもの歌(2)	リコーダーを用いて	
	4 リズム(3)さまざまなパターン（理論と音楽あそびの演習）	19	子どもの歌(3)	替え歌	
	5 基本的な音楽記号－＃とbなど（理論と音楽あそびの演習）	20	音楽遊びをつくる		
	6 長調と短調、さまざまなモード（理論と音楽あそびの演習）	21	合唱		
	7 音を聴く（音楽あそびの演習）	22	楽器遊び(1)	幼児に適した楽器	
	8 楽譜のリテラシー（理論と音楽あそびの演習）	23	楽器遊び(2)	ミュージックベル	
	9 音楽と動き(1) リトミック(1) 基礎的な動きとソルフェージュ	24	楽器遊び(3)	合奏	
	10 音楽と動き(2) リトミック(2) 幼児への指導	25	子どもと楽しむ音楽会(1)	企画立案、役割分担	
	11 音楽と動き(3) わらべうた(1) 幼児の生活に即して	26	子どもと楽しむ音楽会(2)	グループごとの準備、プログラム決定	
	12 音楽と動き(4) わらべうた(2) 幼児の遊びとその発展	27	子どもと楽しむ音楽会(3)	グループごとの準備	
	13 音楽と動き(5) ダンス(1) 拍を意識したステップ	28	子どもと楽しむ音楽会(4)	グループごとの準備、手直し	
	14 音楽と動き(6) ダンス(2) 幼児に適した音楽と動き	29	子どもと楽しむ音楽会(5)	リハーサル	
	15 音楽と動き(7) 音楽遊び	30	子どもと楽しむ音楽会(6)	本番	
授業の留意点	場合によっては動きやすい服装が必要となる。				
学生に対する評価	ペーパーテスト（60点）、日常の課題・実技評価（40点）により評価する。				
教科書（購入必須）	小林美実『こどものうた200』チャイルド社、『たのしいドレミファランド』必要に応じてプリントを配付。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	音楽Ⅱ（ピアノ）				
担 当 教 員 名	会見泉・上田明美・尾崎美千代・鎌塚香代				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	音楽Ⅰでの学修を踏まえ、簡単な楽譜やコードネームを見て、子どもの歌のピアノ伴奏ができる能力を修得する。				
授業の概要	まず、子どもが歌唱する際に楽曲の習熟度に応じてピアノ伴奏ができるよう、コードネームによる伴奏付けを学ぶ。次に、他者のリズムに合わせて演奏できるよう連弾を行う。さらに、個々の演奏技術を高めるためにソロ曲の演奏も行う。				
授業の計画	1 コードネームの基礎(メジャーコード、マイナーコード、セブンス)	16	連弾(1)個人練習(1) 譜読み・補正		
	2 右手メロディーと左手和音(1)C、F、Gを中心に	17	連弾(2)個人練習(2) アゴーギグ、ダイナミクス		
	3 右手メロディーと左手和音(2)G、C、Dを中心に	18	連弾(3) 流れの確認		
	4 右手メロディーと左手和音(3)F、Bb、Cを中心に	19	連弾(4) 総合表現 ダイナミクス、バランス		
	5 右手メロディーと左手和音(4)Am、Dm、E、Em、B、を中心に	20	連弾(5) 総合表現 アゴーギグ、タイミング		
	6 右手メロディーと左手和音(5)Gm、Aを中心に	21	連弾(6) 仕上げ		
	7 右手和音と左手ベース音(1)メジャー	22	連弾発表会 (前半グループの演奏)		
	8 右手和音と左手ベース音(2)マイナー	23	連弾発表会 (後半グループの演奏)		
	9 右手和音と左手ベース音(3)ベース音の動き	24	ソロ曲練習(1) 譜読み		
	10 右手和音と左手ベース音(4)ディミニッシュ、オーギュメント	25	ソロ曲練習(2) 譜読みの補正		
	11 右手和音と左手ベース音(5)メジャーセブンス	26	ソロ曲練習(3) 譜読みの補正、ダイナミクス		
	12 右手和音と左手ベース音(6)サスペンデイド	27	ソロ曲練習(4) 譜読みの補正、アゴーギグ		
	13 右手和音と左手ベース音(7)歌唱伴奏	28	ソロ曲練習(5) 総合表現、暗譜		
	14 伴奏付け発表会 (前半グループの演奏)	29	ソロ曲練習(6) 総合表現、暗譜の補正		
	15 伴奏付け発表会 (後半グループの演奏)	30	ソロ曲練習(7) 仕上げ		
授業の留意点	グループ単位での個人レッスンを基本的な授業形態とするため、特に欠席・遅刻等についての連絡を怠らないこと。				
学生に対する評価	前期に行う伴奏付け発表会（20点）、後期に行う連弾発表会（20点）およびソロ発表会（20点）の演奏、および日常の課題への取り組み（40点）による。				
教科書（購入必須）	『新版 たのしいドレミファ・ランド』教育芸術社 大学音楽教育研究グループ編『歌唱教材伴奏法』教育芸術社				
参考書（購入任意）					

科目名	図画工作 I				
担当教員名	堀川 真				
学年配当	1年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	保育士：必修・幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目				
学習到達目標	造形あそびと絵画制作における基礎的な技法を身につけ、豊かな感性を持ち、多様な表現に共感し楽しむことができる。				
授業の概要	造形あそびと絵画指導上の留意点について実作を通して学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 保育における造形分野の役割とかんたん工作</li> <li>2 絵画制作 (1) 描画の発達と軟筆画 (フロッタージュ)</li> <li>3 絵画制作 (2) 描画の発達と水彩画 (デカルコマニー)</li> <li>4 工作 (1) お面、かぶりもの</li> <li>5 工作 (2) 子どもの日、ハロウィンの仮装</li> <li>6 工作 (3) ストロー人形</li> <li>7 工作 (4) 凧、飛行機凧、くるくるヘビ</li> <li>8 工作 (5) 折紙飛行機、折紙ロケット</li> <li>9 工作 (6) けん玉、わりばし鉄砲、びゅんびゅんゴマ</li> <li>10 工作 (7) 紙版画、ステンシル</li> <li>11 工作 (8) とびだすカード</li> <li>12 工作 (9) 折紙</li> <li>13 工作 (10) 音を出してみる</li> <li>14 工作 (11) 壁面構成</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	必要に応じて道具・材料を指示するので準備すること。				
学生に対する評価	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教科書 (購入必須)	特になし				
参考書 (購入任意)	『3・4・5歳児の保育に 作ってあそべる製作ずかん』(学研 今野道裕：著)				



科 目 名	図画工作Ⅱ				
担 当 教 員 名	堀川 真				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実務経験及び授業内容	児童相談所と児童家庭支援センターにおいて児童文化の実務経験を有する教員が、子どもの「造形想像」発展に有効とされる技能・知見について指導する科目				
学習到達目標	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図画工作Ⅰ」での学修を基礎とし、一般的な幼児のための造形技法のみならず、より高度な技法な制作活動を行う。</li> <li>・日本の昔話を題材にした人形劇、影絵劇の制作と上演を行い、舞台上における表現力、演出力の向上を目指す。</li> </ul>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション（木工・箸をつくる）</li> <li>2 窯芸（1） 成形</li> <li>3 窯芸（2） 焼成</li> <li>4 仮装（1） 構想と制作</li> <li>5 仮装（2） 制作と発表会</li> <li>6 紙版画（1） カレンダー制作・製版</li> <li>7 紙版画（2） カレンダー制作・印刷</li> <li>8 人形劇・影絵劇をつくる（1） 構想・脚本の制作</li> <li>9 人形劇・影絵劇をつくる（2） 役割の分担</li> <li>10 人形劇・影絵劇をつくる（3） 人形をつくる</li> <li>11 人形劇・影絵劇をつくる（4） 背景をつくる</li> <li>12 人形劇・影絵劇をつくる（5） 発表準備・人形操作および光の理解と工夫</li> <li>13 人形劇・影絵劇をつくる（6） 発表準備・人形操作および光の工夫と修正</li> <li>14 人形劇・影絵劇をつくる（7） 発表会</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	必要に応じて道具・材料を指示するので準備すること。				
学生に対する評価	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教科書 (購入必須)	必要に応じてその都度、プリントを配付する。				
参考書 (購入任意)	特になし。				

科目名	体育				
担当教員名	三井 登				
学年配当	1年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	通年	必修選択	必修	資格要件	保育士：必修・幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	体育に関する保育内容を理解し、子どもの運動遊びを豊かに展開するために必要な知識・技術を習得する。				
授業の概要	子どもの発達と運動機能の関係や身体に関する知識技術について学ぶ。地域の環境を生かした運動遊びの指導法、様々な遊具、用具、素材等の特性を生かした教材研究に基づく運動遊びの指導法を学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 子どもの発達と運動機能 運動機能の系統的発達 欲求と運動</li> <li>3 子どもの身体発達と食</li> <li>4 食育を通じた身体づくり実践の事例紹介</li> <li>5 生活リズムの構築と運動指導</li> <li>6 教材研究の視点 運動遊びの系統的指導 理論的根拠</li> <li>7 教材研究(1) 道具を使った運動遊び 伝承遊び</li> <li>8 教材研究(2) 道具を使った運動遊び ボールを使った遊びの指導法</li> <li>9 教材研究(3) 道具を使った運動遊び 縄跳び遊びの指導法</li> <li>10 模擬授業(1) 運動遊びの系統的指導 指導計画の作成</li> <li>11 模擬授業(2) 運動遊びの系統的指導 指導計画の実践</li> <li>12 環境設定と運動遊び</li> <li>13 環境に働きかける運動遊び</li> <li>14 運動遊びを導く環境の創造</li> <li>15 学習のまとめと振り返り</li> </ol>				
授業の留意点	模擬授業を含むため、動きやすい服装と靴を用意すること。既往症がある場合は、必ず事前に報告すること。				
学生に対する評価	提出物70点、実技への取り組み30点により評価する。				
教科書 (購入必須)	特になし。その都度、必要な資料を配付する。				
参考書 (購入任意)					

科目名	保育内容・人間関係Ⅰ				
担当教員名	糸田 尚史				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	保育士：必修・幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	児童相談所と児童家庭支援センターにおいて「遊び方教室」の開催などの実務経験を有する教員が、子どもの社会性や対人技能の発達を支援する方法などについて指導する科目				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの自立心を育て、子どもの対人関係力を涵養できる保育者をめざす。</li> <li>・領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。</li> <li>・幼児期の人間関係の発達を理解する。</li> <li>・教育実践における保育内容「人間関係」の支援法（指導法）について修得する。</li> </ul>				
授業の概要	子どもが人と親しみ、支えあって生活するための領域「人間関係」について、幼児期の人間関係の発達の特徴を学ぶ。子どもが自立心を持ち、人とかかわる力を涵養するために保育者が幼児期の教育において構成すべき保育内容の支援法（指導法）を種々の演習により実践的に理解する。具体的にはテキスト、映像、スライド、ホワイト・ボード、紐、紙、テープ、情報機器などのツールも活用して、模擬保育、集団遊び、集団ゲーム、ロールプレイ、即興劇（サイコドラマ）、集団討論、グループワークなどの方法も取り入れながら、演習する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 領域「人間関係」の内容とねらい（なんでもバスケット、自己開示）</li> <li>2 幼児期の人間関係の発達（1）子どもと養育者とのアタッチメントや信頼関係の発達（寄り道散歩①）</li> <li>3 幼児期の人間関係の発達（2）子どもどうしの仲間関係における情緒・社会性の発達（花一匁、王様・大臣・門番、じゃんけん）</li> <li>4 幼児期の人間関係の発達（3）子どもの人間関係をめぐる現代的課題（心理ゲーム①）</li> <li>5 学童期以降の人間関係の発達（心理ゲーム②）</li> <li>6 子どもと保育者とのアタッチメントや信頼関係の形成（手遊び歌①）</li> <li>7 子どもの社会的自我の発達と社会情動の自己コントロール（人間関係の絵本）</li> <li>8 子ども集団のなかでのトラブルへの介入・支援（即興劇）</li> <li>9 遊びにおける人間関係（1）遊びをとおして対人関係性の発達を促す支援（遊び方教室①）</li> <li>10 遊びにおける人間関係（2）周辺環境のアフォーダンスを活用した遊び（寄り道散歩②）</li> <li>11 遊びにおける人間関係（3）ICT（情報通信技術）を活用した遊び（手作りゲーム）</li> <li>12 遊びにおける人間関係（4）脳（前頭葉）の発達を促す社会情動的スキル遊び（手遊び歌②）</li> <li>13 幼児期の人間関係におけるつまずき（1）神経発達症（気になる子）への支援（遊び方教室②）</li> <li>14 幼児期の人間関係におけるつまずき（2）家庭との連携、専門職連携（遊び方教室③）</li> <li>15 子どもたちの社会的環境と領域「人間関係」（人間関係を語る）</li> </ol>				
授業の留意点	動きやすい服装での出席を指示することがある。 表現演習室での実践的な演習が基本となるが、ときに音楽室・児童文化演習室・屋外（大学周辺）などで行うこともある。 グループに分かれての討論や実技には積極的に参加していただきたい。				
学生に対する評価	中間レポート（20点）・試験（60点）・提出物（20点）の合計点で評価する。提出物は毎時の「気づきと学び」にかかわるリアクション・ペーパーの作成・提出である。				
教科書（購入必須）	陳省仁・古塚孝・中島常安 編 『子育ての発達心理学』 同文書院 2003年 幼少年教育研究所 編 『遊びの指導：乳・幼児編』 同文書院 2009年				
参考書（購入任意）	森口佑介 著 『自分をコントロールする力：非認知スキルの心理学』 講談社 2019年 文部科学省 著 『平成29年告示・幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』 チャイルド本社 2017年 無藤隆・古賀松香 編 『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知的能力とは』 北大路書房 2016年 無藤隆 監修・指導 『スキルあそび45：人とかかわり方を育てる』 日本標準 2010年				

科 目 名	保育内容・人間関係Ⅱ				
担 当 教 員 名	及川 智博				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	乳幼児が他者とのかかわり合い（相互作用）を通じて発達するプロセスについての理解を深めます。その上で、子どもたちの人間関係の形成に対して、保育者をはじめとする大人が果たす役割について、自ら考察できるようになることを目指します。				
授業の概要	乳幼児期の発達理論や対人理解のあり方に関する整理を基礎としつつ、子どもの人間関係の発達と援助のあり方を具体的に把握します。映像資料や文章事例の考察、そして受講生自らが問いを立て学生同士で意見を交わす「事例検討会」の開催を通じて、理論と実践の両面から、子どもの人間関係を育む保育者のあり方について理解を深めます。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション —子どもの人間関係における大人—</li> <li>2 人間関係の発達（1）—0～1歳児における他者の見え方・理解の仕方—</li> <li>3 人間関係の発達（2）—2歳児における他者の見え方・理解の仕方—</li> <li>4 人間関係の発達（3）—3歳児における他者の見え方・理解の仕方—</li> <li>5 人間関係の発達（4）—4歳児における他者の見え方・理解の仕方—</li> <li>6 人間関係の発達（5）—5歳児における他者の見え方・理解の仕方—</li> <li>7 演習へ向けた準備（1）—「事例検討会」の内容と目的—</li> <li>8 演習へ向けた準備（2）—グループによる提案事例の精選—</li> <li>9 演習Ⅰ —受講生提案による事例検討会 1日目—</li> <li>10 演習Ⅱ —受講生提案による事例検討会 2日目—</li> <li>11 演習Ⅰ・Ⅱの振り返り</li> <li>12 演習Ⅲ —受講生提案による事例検討会 3日目—</li> <li>13 演習Ⅳ —受講生提案による事例検討会 4日目—</li> <li>14 演習Ⅲ・Ⅳの振り返り</li> <li>15 講義のまとめ —乳幼児期の人間関係をめぐる援助を再考する—</li> </ol>				
授業の留意点	演習科目のため、グループでのディスカッションや演習を実施します。授業参加や演習のためには、予習が必要となることがあります。積極的な参加を期待します。				
学生に対する評価	講義時のリアクションペーパー（20点）、授業態度および演習の様子（30点）、最終レポート（50点）の結果をもとに総合的に評価します。				
教科書（購入必須）	指定しない				
参考書（購入任意）	指定しない（授業の進行やリアクションペーパーの内容に応じて適宜紹介します）				

科目名	保育内容・環境 I				
担当教員名	岡 健吾				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	演習
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「環境」のねらいと内容を理解する。</li> <li>・乳幼児期の子どもと環境とのかかわりについて学び、保育実践における保育内容「環境」の指導法を理解する。</li> </ul>				
授業の概要	<p>子どもは、人や社会、自然など、さまざまな環境に取り巻かれて育つ。この授業では、それらについて学び、保育内容「環境」に関する基礎的な理解をする。また、周囲の環境に対する子どもの好奇心・探究心を高め、子どもがそれらに積極的に関わっていくための保育方法について学ぶ。</p> <p>授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていく。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育内容・環境の全体構造</li> <li>2 領域「環境」のねらいと内容</li> <li>3 子どもを取り巻く環境</li> <li>4 乳幼児期の子どもと環境とのかかわりの特性</li> <li>5 子どもの好奇心と探求心の芽生え</li> <li>6 子どもと環境（1）自然環境とのかかわり</li> <li>7 子どもと環境（2）生き物とのかかわり</li> <li>8 子どもと環境（3）生活の中での文字・数・図形とのかかわり</li> <li>9 子どもと環境（4）身近なモノとのかかわり</li> <li>10 子どもと環境（5）生活にかかわる情報や施設への興味・関心、情報機器の活用法</li> <li>11 人的環境としての友だちや保護者</li> <li>12 子どもの好奇心と探求心を高める環境構成</li> <li>13 模擬保育（1）保育内容「環境」に関する指導案作成と評価方法</li> <li>14 模擬保育（2）指導案に基づく模擬保育と振り返り</li> <li>15 まとめ保育内容「環境」をめぐる保育者の役割と小学校との連携</li> </ol>				
授業の留意点	<p>授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていくので、活発な論議を行う上で予習を行うこと。野外で観察を行う時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。</p>				
学生に対する評価	<p>授業の取り組み方・意欲 20 点、制作物 20 点、発表 20 点、期末レポート 40 点</p>				
教科書（購入必須）	<p>幼稚園教育要領</p>				
参考書（購入任意）	<p>必要に応じて適宜指示する。</p>				

科 目 名	保育内容・環境Ⅱ				
担 当 教 員 名	担当者未定				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択・幼稚園：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	・「保育内容・環境Ⅰ」の指導法を実践的に学び、保育実践の在り方を考察する。				
授 業 の 概 要	「保育内容・環境Ⅰ」で学習したことを踏まえ、指導法について実践的に学ぶ。自然や社会など身近な環境に子どもがいかにかかわっていくか、積極的にかかわっていくにはどんな力が必要なのか、保育者も含めた人的環境の大きさについて考えると共にその指導法を実践的に学ぶ。授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていく。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 領域のねらい及び内容の理解、全体構造の理解他</li> <li>2 自然環境（１）身近な自然を観察する</li> <li>3 自然環境（２）自然のなかでの遊び</li> <li>4 植物（１）植物を観察する</li> <li>5 植物（２）植物栽培と保育実践</li> <li>6 動物（１）身近な生き物を探す</li> <li>7 動物（２）動物飼育と保育実践</li> <li>8 子どもの自然体験と保育方法（１）「森のようちえん」のカリキュラムと実践</li> <li>9 子どもの自然体験と保育方法（２）模擬保育①指導案の作成</li> <li>10 子どもの自然体験と保育方法（３）模擬保育②指導案に基づく模擬保育</li> <li>11 幼稚園・保育所における環境整備の在り方、情報機器の利用法</li> <li>12 身近な動植物とのふれあいができる園庭の整備</li> <li>13 子どもと文化的環境（１）北海道の環境と保育実践</li> <li>14 子どもと文化的環境（２）「森のようちえん」と保育実践</li> <li>15 まとめ 幼稚園教育の評価・小学校の教科等へのつながり</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていくので、活発な論議を行う上で予習を行うこと。野外で観察を行う時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。				
学 生 対 する 評 価	授業の取り組み方・意欲 20 点、制作物 20 点、発表 20 点、定期試験 40 点				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	必要に応じて適宜指示する。				

科 目 名	保育内容・健康 I				
担 当 教 員 名	三井 登				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「健康」のねらいと内容を理解し、その指導法を修得する。</li> <li>・子どもの発達を支える領域「健康」の役割と、その保育実践の在り方について理解する。</li> <li>・身体を使った遊びを実践的に学び、その知識・技術を習得する。</li> </ul>				
授 業 の 概 要	<p>領域「健康」の内容を実践動向などから理解し、自ら計画し実践する。また、子どもの発達を支える援助や指導の在り方について具体的な事例を紹介し、その実践的意味について理解する。「健康」に関わる保護者支援の場面などを想定し、保育者として必要な実践的知識と技術を身につける。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業のガイダンス 園の現状や諸課題について</li> <li>2 保育内容「健康」について 幼稚園教育要領・保育所保育指針が目指すもの</li> <li>3 子どもの心身の発育と発達 形態の発育、生理機能の発達などを学ぶ</li> <li>4 生活習慣の獲得と保育者の関わり 基本的な生活習慣や安全に関する指導・援助を学ぶ</li> <li>5 園生活のリズムと子どものリズム 家庭との連携を視野に（子育て支援の実際）</li> <li>6 子どもの心身の健康を保障する環境構成について</li> <li>7 子どもの心身の健康 園生活全体と長期的展望から捉える</li> <li>8 「健康」の具体的な内容と保育指導案 情報機器の活用法と教材研究の基本的な考え方</li> <li>9 教材研究1（運動遊び・体育遊びの展開1）運動機能の発達、心の発達などを学ぶ</li> <li>10 教材研究2（運動遊び・体育遊びの展開2）遊具・器具を使った運動遊びを学ぶ</li> <li>11 健康と食育 健康の指導、食育の指導における取り組みと指導案について考える</li> <li>12 模擬授業1（運動遊び・体育遊びの展開3）鬼ごっこなどの指導の実際を学ぶ</li> <li>13 模擬授業2（運動遊び・体育遊びの展開4）競い合う遊びの指導の実際を学ぶ</li> <li>14 模擬授業3（運動遊び・体育遊びの展開5）外遊びの実際と心身の発達との関係</li> <li>15 まとめと振り返り</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	参考文献・資料に目を通すこと。				
学 生 に 対 す る 評 価	意欲・態度20点、提出物80点				
教 科 書 (購入必須)	文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館				
参 考 書 (購入任意)	授業の中で適宜紹介する。				

科 目 名	保育内容・健康Ⅱ				
担 当 教 員 名	三井 登				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<p>「保育内容・健康Ⅰ」での学修をふまえ、以下の点を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「健康」の観点から子どもの発達を保障する実践的課題と方法について学ぶ。</li> <li>・領域「健康」に関する指導計画、環境構成、保育者の役割について実践的に学ぶ。</li> <li>・運動意欲を育む指導、危険や安全を意識するための教師の具体的援助や指導について学ぶ。</li> <li>・食育の方法や子どもの健康を保障するための子育て支援の具体的方法について学ぶ。</li> </ul>				
授 業 の 概 要	<p>領域「健康」で対象とする、心身の発達、運動指導、生活習慣、安全、食育などについて、先進的実践から学びながら、学生自身が調査研究する。指導計画を立てて実践し、集団で議論しながら課題を発見し、子どもの発達を教師が保障する指導の在り方を学ぶ。また、保護者と保育者・園との関係を、子どもの心身の発達保障という観点から、その共同の在り方を検討する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業のガイダンス</li> <li>2 子どもの健康 運動・食事・睡眠</li> <li>3 子どもの心身の発育と発達 欲求と運動</li> <li>4 保育内容としての「健康」 幼稚園教育要領、保育所保育指針より環境構成、保育者の役割学ぶ</li> <li>5 運動遊びの系統的指導からみた年間計画等の指導計画を考える</li> <li>6 生活習慣の獲得と保育者のかかわり 基本的生活習慣・安全についての指導・援助を学ぶ</li> <li>7 基本的生活習慣、運動遊び、安全生活に関わる指導計画について調べて発表する</li> <li>8 子育て支援・児童虐待について 保護者との関係性の構築と共同の在り方を実践例から学ぶ</li> <li>9 教材研究1（運動遊び・体育遊びの展開その1）運動機能の発達・心の発達と教材の選び方</li> <li>10 模擬授業1（運動遊び・体育遊びの展開その2）鬼ごっこあそびなどの指導案の実践</li> <li>11 教材研究2（運動遊び・体育遊びの展開その3）運動あそびの系統的指導の研究方法を遊具・器具を対象にして学ぶ</li> <li>12 模擬授業2（運動遊び・体育遊びの展開その4）競い合う遊びの指導案の実践</li> <li>13 健康と食育について 食育の指導における取り組みについて調べ指導計画を立てる</li> <li>14 食育の取り組みから学んだことを実践する</li> <li>15 まとめと振り返り</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	授業の中で適宜紹介する。				
学 生 に 対 す る 評 価	意欲・態度20点、提出物80点				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館 白石正久『発達の扉<上>』かもがわ出版、1994年				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	授業の中で適宜紹介する。				



科 目 名	保育内容・言葉				
担 当 教 員 名	石本 啓一郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」について理解する。</li> <li>・乳幼児期の言語発達を理解する。</li> <li>・子どもの言葉の育ちを支える指導法および保育者の役割を理解する。</li> </ul>				
授 業 の 概 要	保育内容「言葉」について、幼稚園教育要領におけるねらいと内容の理解、子どもの言語発達の理解を基盤とし、子どもの言葉の育ちを支えるための指導法を実践的に学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」</li> <li>3 子どもの言葉の発達① 乳児期</li> <li>4 子どもの言葉の発達② 幼児期</li> <li>5 子どもの言葉の発達③ 幼児期の言葉から児童期の言葉へ</li> <li>6 自分の考えや思いを伝える言葉</li> <li>7 遊びと言葉① 言葉の音を楽しむ</li> <li>8 遊びと言葉② 虚構遊びにおける言葉</li> <li>9 遊びと言葉③ 文字との出会い</li> <li>10 子どもの言葉を育む保育の実際① 言葉遊び・わらべうた</li> <li>11 子どもの言葉を育む保育の実際② 絵本・紙芝居</li> <li>12 子どもの言葉を育む保育の実際③ ストーリーテリング</li> <li>13 模擬保育① おはなし会の指導案作成</li> <li>14 模擬保育② 指導案に基づく模擬保育と振り返り</li> <li>15 幼児教育の現代的課題と保育内容「言葉」 ～小学校とのつながりを中心に</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	積極的に授業に参加して欲しい。				
学 生 に 対 す る 評 価	提出課題（40点）および期末レポート（60点）により評価する。				
教 科 書 （購入必須）	適宜プリント等を配布する。				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	保育内容・表現 I				
担 当 教 員 名	三国和子・堀川真・石本啓一郎				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域「表現」のねらいと内容を理解し、表現についての一般的概念や子どもの表現の発達に関する知識を学び指導法を身につける。				
授 業 の 概 要	領域「表現」に関わる基礎的な学習の後、環境構成や教材の提示及び情報機器の活用情報機器の表現の受容など多方面から指導法について学ぶ。実技やグループワーク、模擬保育等も行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション (担当：三国)</li> <li>2 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「表現」の理解 (担当：石本)</li> <li>3 子どもの表現の発達① 音楽 (担当：三国)</li> <li>4 子どもの表現の発達② 造形 (担当：堀川)</li> <li>5 素材との出会い① 自然との関わり (担当：石本)</li> <li>6 素材との出会い② 環境の構成・情報機器の活用 (担当：堀川)</li> <li>7 美的感動の喚起 ―保育者の役割 (担当：堀川)</li> <li>8 感動の伝えあいと共有 (担当：石本)</li> <li>9 表現の方法① 言葉 (担当：石本)</li> <li>10 表現の方法② 絵 (担当：石本)</li> <li>11 表現の方法③ 工作 (担当：堀川)</li> <li>12 表現の方法④ 楽器あそび (担当：三国)</li> <li>13 模擬保育① 指導案作成 (担当：三国)</li> <li>14 模擬保育② 実習 (担当：三国、堀川、石本)</li> <li>15 まとめ (担当：三国、堀川、石本)</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	各分野のつながりを意識しながら受講すること。				
学 生 対 する 評 価	授業態度 (30点)、課題提出 (30点)、最終レポート (40点) により評価する。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	文部科学省『幼稚園教育要領<平成 29 年告示>』フレーベル館 保育音楽研究プロジェクト編『青井みかんと一緒に考える幼児の音楽表現』大学図書出版				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	厚生労働省『保育所保育指針』、その他必要な際に提示する。				

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（音楽）				
担 当 教 員 名	三国 和子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえ、領域「表現」における音楽活動の内容及び指導についてより高度な知識・技能を身につける。				
授 業 の 概 要	保育内容の領域「表現」のうち音楽分野を扱う。保育の現場で行われる音楽活動やそれを通して養われる子どもの音楽的感性や表現に関する事項について、実技やグループワークを交えながら学ぶ。また、それを踏まえ、表現領域での音楽活動についての支援のあり方について深めていく。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インTRODクシヨN 保育における音楽の位置づけ</li> <li>2 子どもの音楽表現とその発達①（グループワーク）観察</li> <li>3 子どもの音楽表現とその発達②（グループワーク）考察</li> <li>4 子どもの音楽表現とその発達③（全体）報告とまとめ</li> <li>5 音楽活動のねらい</li> <li>6 音楽活動の教材研究① レクチャー</li> <li>7 音楽活動の教材研究② 演習</li> <li>8 音楽活動の指導① レクチャー</li> <li>9 音楽活動の指導② 演習</li> <li>10 音楽活動の指導③ 模擬保育</li> <li>11 音楽活動のメソッドとアプローチ① レクチャー</li> <li>12 音楽活動のメソッドとアプローチ② 演習</li> <li>13 音楽遊びの実践①（グループワーク）</li> <li>14 音楽遊びの実践②（全体）</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	場合によっては動きやすい服装が必要となることがある。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポート課題（50点）、授業における課題提出（50点）によって評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館 保育音楽研究プロジェクト編『青井みかんと一緒に考える幼児の音楽表現』大学図書出版				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	小林美実『こどものうた200』チャイルド社				

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（造形）				
担 当 教 員 名	堀川 真				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目				
学 習 到 達 目 標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえ、造形活動の実際を体験し、月齢に応じた指導上での留意点や工夫について考えながら、より高度な知識・技能を身につける。				
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> <li>前半の「多様な素材」は、材料や環境に向き合いながら、子どもの反応を想定した活動ができるよう制作に取り組む。</li> <li>後半の「絵本づくり」は、着想から製本までの総合的な制作を通して、こどもの発達に対応した絵本づくりや絵本理解を身につける。絵本の内容については個別に対応し、個々の発想を重視した活動とする。</li> </ul>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 風とあそぶ</li> <li>2 多様な素材 (1) 厚紙：ハンペルマン</li> <li>3 多様な素材 (2) 箱：カメラ</li> <li>4 多様な素材 (3) 土：石膏型取り</li> <li>5 多様な素材 (4) 水：染めあそび</li> <li>6 多様な素材 (5) 古紙：新聞紙であそぶ</li> <li>7 多様な素材 (6) 廃材：街をつくる</li> <li>8 様々な造形パフォーマンス</li> <li>9 絵本づくり (1) 構想</li> <li>10 絵本づくり (2) 下絵～彩色</li> <li>11 絵本づくり (3) 彩色～仕上げ</li> <li>12 絵本づくり (4) 製本の技法</li> <li>13 絵本づくり (5) 糊付け</li> <li>14 絵本づくり (6) 製本</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	必要に応じて道具・材料を提示するので準備すること。				
学 生 に 対 す る 評 価	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教 科 書 (購入必須)	必要に応じてその都度プリントを配布する。				
参 考 書 (購入任意)	特になし				

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（言語）				
担 当 教 員 名	石本 啓一郎				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえ、以下の事項についてより高度な知識・技能を身につける。				
授 業 の 概 要	まず、子どもの想像力の発達についての知識を提供する。それに基づいて受講者は、子どもの言語表現を育てる教材や指導法を学ぶ。全体を通じて、言語表現が豊かに育つときの保育者の役割について理解を深める。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 子どもの想像力の発達① 現実と想像の世界</li> <li>3 子どもの想像力の発達① 絵画表現</li> <li>4 虚構遊びにおける表現① 言葉の役割とは</li> <li>5 虚構遊びにおける表現② 物を使って言葉を導く</li> <li>6 虚構遊びにおける表現③ 身振りと言葉</li> <li>7 表現を育てる資源① 映像</li> <li>8 表現を育てる資源② 資源</li> <li>9 表現を育てる資源③ 詩的表現</li> <li>10 自然観察における表現① 経験の言語化</li> <li>11 自然観察における表現② 科学の言葉と想像</li> <li>12 自然観察における表現③ 虚構遊びと自然探索の言語表現</li> <li>13 模擬保育「私のそばにあったもの」① 子どもの興味と言語</li> <li>14 模擬保育「私のそばにあったもの」② 地域や風土と言語</li> <li>15 まとめー乳幼児の言語表現と小学校の連携</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	さまざまなワークショップやディスカッションをおこなう。積極的に授業に参加して欲しい。				
学 生 対 する 評 価	課題提出（40点）、期末レポート（60点）により評価する。				
教 科 書 （購入必須）	必要に応じて資料を配付する。				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	教育原理				
担 当 教 員 名	高島 裕美				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の教育を、歴史的・思想的・制度的な視点から理解する。</li> <li>・学校教育の制度ならびに内容・方法について理解する。</li> <li>・教育における現代的課題を理解し、これからの教育を考える視点を醸成する。</li> </ul>				
授業の概要	<p>教育に関する基礎理論や思想を取り上げるとともに、学校教育の成り立ちや歴史の変遷、教育実践の内容・方法について学ぶ。また、現代の子ども・家庭や地域・学校教育が抱える問題について具体的な事例をもとに理解し、その解決に当たる教員に求められる資質・力量、役割についても考察する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションー「教育」について学ぶ前にー</li> <li>2 家庭における子育てと教育</li> <li>3 子どもをどのように捉えるかー子ども観の歴史ー</li> <li>4 教育の思想と歴史① 教育方法の歴史</li> <li>5 教育の思想と歴史② 近代日本の教育思想と歴史</li> <li>6 幼児教育の思想と歴史</li> <li>7 学校の歴史と仕組み</li> <li>8 教育課程・カリキュラムの変遷</li> <li>9 子ども中心主義の思想と学校</li> <li>10 授業と学習指導</li> <li>11 教育の評価</li> <li>12 学力とは何か</li> <li>13 教師の成長</li> <li>14 教育の現代的課題と学校</li> <li>15 まとめー学校・教育の諸問題を解決するためにー</li> </ol>				
授業の留意点	<p>基本的には講義形式で進めるが、映像資料等を用い特定のテーマについて議論するなど、学習者それぞれが自分の考えや意見を述べる機会を多く取りたいと考えている。</p>				
学生に対する評価	<p>期末試験あるいはレポート（80%）、ディスカッションの内容・様子等授業への参加状況（20%）により評価する。</p>				
教科書（購入必須）	<p>特に指定しない。</p>				
参考書（購入任意）	<p>授業のなかで、適宜紹介する。</p>				

科 目 名	幼児教育史				
担 当 教 員 名	塚本 智宏				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	幼稚園：選択
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>この授業では、主として西欧近代の幼児教育や子ども観の歴史・理念に目を向け、過去の遺産たる教育思想並びに教育史を取り上げ、その時代背景や文化、社会構造など考慮しながら、歴史的及び今日的な意義の視点にたって授業を行う。ここでは、教育者の幼児教育実践の土台となる人間尊重の理念・幼児教育観・子ども観の獲得を一般目標とする。</p> <p>具体的には、教育史について 1)家庭と社会による教育 2)近代教育制度 3)現代社会における教育課題についての知識、理解を得ること、教育思想については、1) 家庭や子ども 2) 学校や学習について 3) 代表的な教育家についての知識、理解を獲得することを到達目標とする。</p>				
授業の概要	<p>主として、中世から現代に至るまでの西欧の幼児教育や子ども観の歴史を、メディア・経済・政治の大きな変動にと連動するマクロな歴史としてとらえるとともに、その歴史の中で、幼児教育の思想家・教育者がどういった教育観や子ども観をもって子どもという人間に向き合ってきたのか、その発展を解明することが基本的な授業展開となる。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中世の社会構造と子ども観・教育観</li> <li>2 近世文字メディアの誕生と教育観・子ども観の変化</li> <li>3 近世末期の子どもの養育危機</li> <li>4 近代社会への転換と子ども・教育観</li> <li>5 イギリス産業革命と幼児教育・思想</li> <li>6 フランス市民革命と教育思想</li> <li>7 ドイツ近代的幼児教育思想と施設</li> <li>8 近代学校批判と新教育観</li> <li>9 イタリア新教育と幼児教育思想・施設</li> <li>10 ロシア革命と保育の思想</li> <li>11 子どもの発達権思想と人権思想(1) ロシア</li> <li>12 子どもの発達権思想と人権思想(2) ポーランド</li> <li>13 第一次世界大戦と幼児教育・子ども観</li> <li>14 第二次世界大戦と幼児教育・子ども観</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	集中講義として実施する。欠席などの内容にすること。				
学生に対する評価	授業途中に課す小レポート（30点）及び授業終了時に課すレポート（70点）による。				
教科書（購入必須）	別途指示する。				
参考書（購入任意）	同『コルチャックとその時代 子どもの権利史研究の試み』子どもの未来社、2019年予定				

科 目 名	教職概論（幼稚園）				
担 当 教 員 名	棚橋裕子・高島裕美				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、幼児理解を基盤とし、幼稚園教諭としての専門性や役割について、保育実践に則した指導を行う科目				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員・保育者に求められる仕事と役割の歴史の変遷について理解する。</li> <li>・現代の教員・保育者に求められる資質・能力、期待される役割について理解したうえで、教員・保育者の専門性について自分なりに考察する。</li> <li>・学校・保育施設の役割の多様化を理解し、教職の意義や多職種との連携・協働の在り方について考察する。</li> </ul>				
授業の概要	<p>時代の移り変わりとともに、教員・保育者に期待される役割や、実際の職務内容・範囲は大きく変化してきた。一方で、教職には、いつの時代も変わらない（不易の）役割が存在する。この両面について、具体的な事例を用い学習する。</p> <p>また、学校・保育施設が担う役割や社会的要請の多様化について理解し、上記をふまえたうえで、教員・保育者の専門性、多職種との連携・協働の在り方について考察する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インTRODクシヨN</li> <li>2 教員・保育者への道：教員・保育者養成カリキュラム、教員免許・保育士資格の意義</li> <li>3 現代の子どもの生活と学校・保育施設①：子どもの生活と幼稚園・保育施設</li> <li>4 現代の子どもの生活と学校・保育施設②：幼児教育・保育と学校教育との接続</li> <li>5 教員・保育者の仕事と役割①：教育・保育実践の内容と方法</li> <li>6 教員・保育者の仕事と役割②：子どもの遊びから</li> <li>7 教員・保育者の仕事と役割③：幼稚園教諭の仕事と役割の実際（1）</li> <li>8 教員・保育者の仕事と役割④：幼稚園教諭の仕事と役割の実際（2）</li> <li>9 教員・保育者にかかわる制度・法律①：教員・保育者の身分保障と服務義務</li> <li>10 教員・保育者にかかわる制度・法律②：労働者としての教員・保育者</li> <li>11 教員・保育者をめぐる諸問題①：教育・保育に求められる役割の変化、教職における「不易と流行」</li> <li>12 教員・保育者をめぐる諸問題②：教職員集団の変化（多職種との連携・協働等）、子ども集団の変化</li> <li>13 教員・保育者をめぐる諸問題③：教員・保育者をめぐる労働問題</li> <li>14 教員・保育者の専門性とは①：グループワーク</li> <li>15 教員・保育者の専門性とは②：まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	出席は前提となる。やむを得ない事情を除き欠席はしないこと。				
学生に対する評価	授業への関心・意欲・態度（20点）、提出課題（80点）により評価する。				
教科書（購入必須）	特に指定しない。適宜プリント等を配布する。				
参考書（購入任意）	授業のなかで適宜紹介する。				



科 目 名	教育法概論				
担 当 教 員 名	栢山 茂樹				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	教育法規としての学習と理解を確認しながら、教員を目指す人たちが「教職の意義や役割、職務内容」についての理解を深め、自らの教職への意欲や適性を確かめながら、専門職としての教員の力量を養うことを目的とします。事故や災害に関する安全教育や危機管理体制への対応を学ぶこととします。				
授業の概要	教育法の概要を基礎的に学び、戦後の教育諸課題について幼児教育・学校制度のあり方を具体的に考察します。現代の教育改革の課題や動向をさぐり、今、求められている教員の役割や職務内容について理解を深めるとともに、教員として必要な資質や能力を養う意欲や態度、方法の修得を目指します。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育法の歴史</li> <li>2 現代法学と人権としての教育</li> <li>3 戦後教育行政改革と展開</li> <li>4 学校教育制度の構造と展開</li> <li>5 現代教育の課題と教育法・・・教育内容をめぐる法的問題（1）国民の教育権説、国家の教育権説</li> <li>6 現代教育の課題と教育法・・・教育内容をめぐる法的問題（2）家永教科書裁判、旭川学テ裁判</li> <li>7 子どもの「生きる力」を育む教員の役割</li> <li>8 教員の地位と身分保障（1）教職の意義、（2）国・公・私立学校教員の違い</li> <li>9 教員の地位と身分保障（1）教員の待遇と服務条件、（2）教員の研修</li> <li>10 幼稚園・保育所の生活（1）子どもの権利条約を生かした幼児教育・保育、（2）安全・安心な幼児教育・保育、（3）子どもの居場所、（4）安全・防犯への対応、（5）子ども・保護者への安全教育、（6）危機管理体制への整備</li> <li>11 幼稚園・保育所の生活（1）人権保育・教育の実践、（2）地域・家庭と連携した子育て支援と取り組み事例、（3）保護者参加による地域交流、（4）事故・防犯における保護者、地域社会との連携・協力体制</li> <li>12 現代教育改革の動向と教育法（1）・・・教育基本法の改正</li> <li>13 現代教育改革の動向と教育法（2）・・・教育基本法と教育三法の改正</li> <li>14 教師に求められる適格性と専門性</li> <li>15 教師をめぐる現状と課題（1）変容する子ども・家庭・地域、（2）いじめ・不登校の対応（3）懲戒・体罰をめぐって、（4）子どもの虐待防止と地域の取り組み、（5）子どもの安心・安全と子どもの居場所づくり、（6）子育てを支援する相談・救済制度</li> </ol>				
授業の留意点	教育と法との関係を具体的に把握するようにつとめること。教職に対して熱意ある学生の受講を期待する。				
学生に対する評価	授業の積極的な参加態度（10点）、小レポート（20点）、レポート課題試験（70点）などを総合して評価します。				
教科書（購入必須）	特になし、ほぼ毎回、プリントを配布します。				
参考書（購入任意）	参考書を必要に応じて指示する。				

科 目 名	子ども教育心理学				
担当教員名	糸田 尚史				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	幼稚園：選択
実務経験及び授業内容	児童相談所と児童家庭支援センターにおいて心理臨床の実務経験を有する教員が、子どもの「教育」という営為に有効とされる心理学的な知見について指導する科目				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの教育・保育にかかわる心理学の理論と実践を学ぶ。</li> <li>・子どもに関する教育心理学の理論と知識を修得する。</li> <li>・子どもに関する教育心理学の理論や知識を現場に応用できる力を身につける。</li> <li>・教師としての自覚と責任を持つ。</li> </ul>				
授業の概要	本講義は教育心理学の理論を子どもにかかわる援助において統合的に活かすことを目指して行われる。子どもの教育は単なる経験からだけでは行えず、机上の理論だけでも役には立たない。子どもの心身の発達や学びに関する心理学的理解をしっかりと身につけ、それを教育・保育の現場での実践に活かせるようにする。子どもの発達、学習、動機づけ、記憶、知能、パーソナリティ、神経発達症群（発達障害）のなどに関する理解と援助について、多様な映像を視聴したり、実際に体験してみたりすることにより、アクティブに学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 履修上の注意事項、成績評価の方法、教育心理学実験</li> <li>2 子どもの学習心理学：子どもの学びへの理解</li> <li>3 子どもの教育心理学：養護及び教育の一体的展開</li> <li>4 子どものモチベーション心理学：人的環境としての保育者と主体的・対話的な深い学び</li> <li>5 子どもの記憶心理学：子どもは生活や遊びから覚えていく</li> <li>6 子どもの知能心理学：知力への理解と知的能力発達の過程</li> <li>7 子どもの認知心理学：認知・学習の能力を理解・援助するための心理学的道具と資源</li> <li>8 子どものパーソナリティ心理学：子どもの気質・性格への理解と援助</li> <li>9 子どもの発達心理学：発達の課題に応じた援助と関わり</li> <li>10 子どもの社会心理学：集団における他者との経験と社会性（社会情動）の育ち</li> <li>11 子どものアフォーダンス心理学：保育における生活空間（環境）の理解と構成</li> <li>12 子ども教育心理学における個人的ドキュメントの使用法：観察、記録、省察・評価、対話、情報共有</li> <li>13 子どもの臨床心理学：子どもの心身の課題に対する理解と援助</li> <li>14 子どもの発達障害心理学：特別な配慮を要する子どもへの理解と援助</li> <li>15 発達の連続性と就学への支援：心理アセスメントと教育支援（就学相談）</li> </ol>				
授業の留意点	視覚にうったえる図や写真をなど多く盛り込んだカラー印刷による資料を配布する。既に配布済みものを遡って使用することがあるため、配布資料は遺漏なく綴り、持参していただきたい。				
学生に対する評価	試験（60点）・提出物（20点）・受講態度（20点）の合計点で評価する。提出物（20点）は毎時の「気づき・学び」ペーパーの作成と提出である。				
教科書（購入必須）	『最新保育士養成講座』総括編纂委員会 編 2020 『最新保育士養成講座 第6巻 子どもの発達理解と援助』 全国社会福祉協議会出版部 陳省仁・古塚孝・中島常安 編 2003 『子育ての発達心理学』 同文書院				
参考書（購入任意）	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 編 2020 『心理学：第5版補訂版』 東京大学出版会 高嶋景子・砂上史子 編 2019 『新しい保育講座③ 子ども理解と援助』 ミネルヴァ書房 清水益治・森俊之 編集 2019 『子どもの理解と援助』 中央法規 子安増生・名和政子ほか 著 2018 『発達と学習（教職教養講座）』 共同出版 下山晴彦・遠藤利彦・齋木潤 編 2014 『誠信 心理学辞典（新版）』 誠信書房 ナイジェル・C.ベンソン 著（清水佳苗・大前泰彦 訳） 2001 『マンガ 心理学入門：現代心理学の全体				

科 目 名	発達心理学				
担 当 教 員 名	及川智博・奥村香澄				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. 発達心理学の基礎理論について理解する。 2. 講義から得た発達理論の知識に基づいて、保育における子ども理解・発達理解の重要性および子どもの評価法を理解する。				
授業の概要	発達心理学の基礎理論について、特に保育実践との関連に触れながら講義を行う。講義を進めるにあたっては、科学が仮説の上に成り立っており、異なる理論上の立場や学説があることを理解すること、また知識として学ぶばかりでなく、学び方を学ぶことが重要であることに留意する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション／保育と心理学（1） 子どもの発達を理解することの意義</li> <li>2 保育と心理学（2） 保育実践の評価と心理学</li> <li>3 保育と心理学（3） 発達観、子ども観と保育観</li> <li>4 子どもの発達理解～感情と社会性の発達～（1） 感情とは何か／基本的感情とその理解</li> <li>5 子どもの発達理解～感情と社会性の発達～（2） 客観的自己意識の発達と自己意識の評価感情の発達／情操の発達</li> <li>6 子どもの発達理解～運動機能の発達～</li> <li>7 子どもの発達理解～認知の発達～（1） 赤ちゃんのこころの発達</li> <li>8 子どもの発達理解～認知の発達～（2） 思考の発達／心の理論</li> <li>9 子どもの発達理解～言語の発達～</li> <li>10 人との相互的にかかわりと子どもの発達（1） 愛着の形成と発達</li> <li>11 人との相互的にかかわりと子どもの発達（2） 発達と学習</li> <li>12 生涯発達と発達援助</li> <li>13 障がい児の発達</li> <li>14 保育実践事例の分析</li> <li>15 まとめ 子ども、社会、環境、発達、自立</li> </ol>				
授業の留意点	本講義は学生に学問的態度を求める。学問とは知の探求である。学問における知識の内容は、研究の深化によって変化する。従って重要なのは記憶することではなく理解する力である。理解は「どこがどのようにわからないのか」を認識することによって深まる。そのような能動的受講態度が必要である。				
学生に対する評価	授業内レポート（10点）及び期末試験（90点）により評価する。				
教科書（購入必須）	心理科学研究会（編）『新・育ちあう乳幼児心理学：保育実践とともに未来へ』有斐閣				
参考書（購入任意）	授業内で資料を適宜配付する。				

科 目 名	特別な教育的ニーズの理解とその支援				
担 当 教 員 名	安永 啓司				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校幼稚部教員や保育所等へのコーディネーターの経験を話題に討論し指導する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インクルーシブ保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害等のある子ども及びその保育について理解する。</li> <li>2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。</li> <li>3. 障害等のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。</li> <li>4. 障害等のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。</li> <li>5. 障害等のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。</li> </ol>				
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) インクルーシブ保育を支える理念、</li> <li>(2) 障害等の理解と保育における発達の援助、</li> <li>(3) インクルーシブ保育の実際、</li> <li>(4) 家庭及び関係機関との連携、</li> <li>(5) 障害等のある子どもの保育にかかわる現状と課題 などについて学び、演習を行う。</li> </ol>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害等の理解と援助①（障害とは何か？）</li> <li>2 障害等の理解と援助②（特別のニーズと支援）</li> <li>3 障害等の理解と援助③（特別支援教育の理念、歴史、法制度）</li> <li>4 障害等の理解と援助④（討論：障害と個性）</li> <li>5 障害等のある子どもの保育の実際①（療育機関・特別支援学校の現状）</li> <li>6 障害等のある子どもの保育の実際②（小学校・中学校等の現状）</li> <li>7 障害等のある子どもの保育の実際③（保育園・幼稚園の現状）</li> <li>8 障害等のある子どもの保育の実際④（討論：差別について）</li> <li>9 連携の仕組みと支援計画①（関係機関との連携）</li> <li>10 連携の仕組みと支援計画②（保護者の支援、保護者との連携）</li> <li>11 連携の仕組みと支援計画③（個別の支援計画等の作成）</li> <li>12 連携の仕組みと支援計画④（討論：支援を繋げるために）</li> <li>13 これからのインクルーシブ保育①（特別支援教育から権利条約まで）</li> <li>14 これからのインクルーシブ保育②（インクルーシブ保育への可能性）</li> <li>15 これからのインクルーシブ保育③（討論：インクルージョンの展望と課題）</li> </ol>				
授業の留意点	演習科目であり、積極的な発言等を求めます。				
学生に対する評価	リアクションペーパー30点、レポート70点で評価する。				
教科書（購入必須）	橋本創一・渡邊貴裕・林安紀子・久見瀬明日香・工藤傑史・大伴潔・安永啓司・田口悦津子編 『知的・発達障害のある子のための「インクルーシブ保育」実践プログラム』 福村出版 2012年				
参考書（購入任意）	梅永雄二、島田博祐、森下由規子編著『みんなで考える特別支援教育』北樹出版 2019 橋本創一、三浦巧也、渡邊貴裕、尾高邦生、堂山亜希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020年				

科 目 名	保育内容総論				
担 当 教 員 名	高島裕美				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容の基本理念と成り立ちを理解し、保育施設における教育課程ならびに指導計画編成の意義・目的について理解する。</li> <li>・保育施設の実情や乳幼児の発達に即した環境構成をベースとした指導計画を立案することで、総合的な保育展開の在り方を学ぶ。</li> </ul>				
授業の概要	保育・幼児教育の基本と保育内容および領域の概念について理解し、乳幼児の発達と成長を促すための教育課程ならびに指導計画の在り方について、実践的に学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 幼児教育の基本と保育内容・カリキュラム</li> <li>2 保育内容・カリキュラムの歴史的変遷</li> <li>3 保育カリキュラムの編成原理と子ども観</li> <li>4 教育課程・保育課程の編成とカリキュラム・マネジメント</li> <li>5 幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育内容の理解</li> <li>6 子どもの発達と保育内容</li> <li>7 子ども理解と評価</li> <li>8 養護と教育の一体性と保育内容</li> <li>9 保育における計画① 指導計画の作成</li> <li>10 保育における計画② 計画の展開と評価</li> <li>11 幼児教育と小学校教育の連携・接続を見据えた保育内容</li> <li>12 諸外国の保育内容・カリキュラム</li> <li>13 これからの保育内容①多様な保育ニーズとさまざまな保育形態</li> <li>14 これからの保育内容②多文化共生の保育</li> <li>15 まとめ—子どもの主体性と保育内容・カリキュラムの関係性</li> </ol>				
授業の留意点	講義形式と演習形式を適宜使い分けながら実施する。特に後半では、ペアまたはグループでの指導計画の作成作業に取り組むので、積極的な態度での参加を期待する。				
学生に対する評価	提出課題（60点）、小テスト（30点）、授業への参加状況（意欲・態度）（10点）により評価する。				
教科書（購入必須）	岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正『教育課程・保育の計画と評価 ―書いて学べる指導計画―』萌文書林、2018年				
参考書（購入任意）	『<平成29年告示>幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』チャイルド本社				

科 目 名	保育指導論				
担 当 教 員 名	棚橋 裕子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている「ねらい」「内容」を基に、具体的な保育計画作成についての方法や作成における留意点、また、実践の系統性や計画と実践の往還性についてカリキュラムマネジメントの観点から指導を行う科目				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法の基礎理論の理解を基底に、カリキュラムの意義や内容についての理解を深める。</li> <li>・発達理解を踏まえ、教育方法の理論に基づいた指導・援助、技術について理解する。</li> </ul>				
授 業 の 概 要	幼稚園教育要領の理解を基に、教育方法の基礎理論について具体的な事例を取り上げながら、指導・援助のあり方など保育技術について理解する。また、教育課程・指導計画と保育の関連性についての理解とともに、実践に根ざした指導のあり方を学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 保育とは</li> <li>2 幼稚園、保育園、認定こども園における保育の内容</li> <li>3 教育課程、保育課程の意義と理解</li> <li>4 幼児期の遊びと発達の意義</li> <li>5 環境を通して行う保育の意義と保育者の役割①</li> <li>6 環境を通して行う保育の意義と保育者の役割②</li> <li>7 子ども理解に基づいた保育のあり方①</li> <li>8 子ども理解に基づいた保育のあり方②</li> <li>9 子どもの遊びの多様性と経験の捉え</li> <li>10 子どもの育ちに即した環境の作り方、捉え方①</li> <li>11 子どもの育ちに即した環境の作り方、捉え方②</li> <li>12 保育における ICT の活用</li> <li>13 子どもの育ちが見える保育記録</li> <li>14 指導計画の作成と保育の展開①</li> <li>15 指導計画の作成と保育の展開②</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	講義形式の授業ではあるが、演習やディスカッションも含めるため、授業を通して能動的に考えたり発言したりすること。				
学 生 に 対 す る 評 価	授業内レポート（20点）期末試験（70点）授業態度（10点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	授業において資料を配付				

科 目 名	保育指導論演習				
担 当 教 員 名	棚橋 裕子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：選択
実務経験及び授業内容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、保育指導論での学びを基底に実際の保育記録（映像、画像、保育記録等）の検討を行い、幼児理解と実践的なスキルの向上をねらう。また、アクティブラーニング型の授業展開から協同的な作業と理解を通して課題解決に向かう過程について学ぶとともに、チームとしての動きについての意識を育てる科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「保育指導論」での学修を踏まえ、子どもの発達を促す教育方法について実践的な力量を身につける。</li> <li>2. 子どもの実態に即した適切な指導・援助のあるべき方法について、事例を通して自ら考えられる力量を身につける。</li> </ol>				
授業の概要	<p>保育指導論で学んだ知識をさらに深めるための講義を受けた上で、いくつかの事例について、グループワークやディスカッションを通して、その理解を確かなものにする。討議にあたっては、根拠・基準が何であるかを明確にしてその実践が優れた指導方法であるかどうかを判断する。これを踏まえた集団的討議は、反省的保育者あるいは実践的研究者となる礎を築くものであり、保育者に求められる協働性を培うことにもつながる。</p> <p>また、幼児教育のカリキュラムデザインについて、討議や演習を通し実践的な理解を深める。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：授業概要と授業の受け方</li> <li>2 発達観と教育方法の理論について（1）：講義</li> <li>3 発達観と教育方法の理論について（2）：グループ討論</li> <li>4 発達観と教育方法の理論について（3）：全体討論</li> <li>5 環境を通しての教育について（1）：事例についてのグループ討論</li> <li>6 環境を通しての教育について（2）：事例についての全体討論</li> <li>7 領域「表現」と「言葉」を中心にした教育の方法について（1）：事例についてのグループ討論</li> <li>8 領域「人間関係」を中心にした教育の方法について（1）：事例についてのグループ討論</li> <li>9 領域「人間関係」を中心にした教育の方法について（2）：事例についての全体討論</li> <li>10 行事の考え方と教育の方法について（1）：講義</li> <li>11 行事の考え方と教育の方法について（2）：事例についてのグループ討論</li> <li>12 行事の考え方と教育の方法について（3）：事例についての全体討論</li> <li>13 当番活動の指導について（1）：事例についてのグループ討論</li> <li>14 当番活動の指導について（2）：事例についての全体討論</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	<p>保育指導論の内容の振り返りを行うため、あらかじめ復習を行うこと。</p> <p>グループ討論について積極的な発言が求められる。</p>				
学生に対する評価	授業内レポート20点、期末レポート60点、授業態度（20点）により評価する。				
教科書（購入必須）	<p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーバル館</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーバル館</p>				
参考書（購入任意）	授業において資料を配付				

科 目 名	子ども理解と教育相談				
担 当 教 員 名	糸田 尚史				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	児童相談所と児童家庭支援センターにおいて心理検査や家族療法など心理臨床の実務経験を有する教員が、子どもの発達及びその障害に関して心理学的な見地からの理解を促し、相談援助の方法などについて指導する科目				
学習到達目標	<p>テーマ：子どもの心や行動への理解と教育相談にかかわる心理学的理論及び実践方法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児期の子ども理解にかかわる基礎的理論と幼児期の子どもの教育との関連を理解する。</li> <li>・ カウンセリングの基礎理論を理解し、カウンセリングに必要な諸技能を修得する。</li> <li>・ 教育相談の意義を理解し、教育支援の諸技法を実践できる。</li> <li>・ 幼児期の子ども発達と家庭や社会における現代的な諸問題について学び、それに対する実際的な支援方法（心理的支援やソーシャルワーク的支援）を状況即応的に応用できる。</li> </ul>				
授業の概要	心理学領域で発展してきた子ども理解のための基礎理論と方法、保健医療福祉分野で実践されてきた相談（ソーシャルワーク）やカウンセリングの基礎理論と方法を学び、教師が行う子ども理解と教育相談での活用について修得する。近年、注目されている神経発達症（発達障害）への理解とその教育相談も取り扱う。DSM-5やICD-11により名称や概念が変化しつつある発達症や情緒・社会性の発達にかかわる教育相談、支援の実際、教育支援（就学相談）、関係機関との連携等について解説する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの発達理解と教育相談の意義：定型発達（認知発達・人格発達）、発達の遅れと偏り、神経発達症群（発達障害）、心身の障害、非社会的行動、反社会的行動</li> <li>2 子ども理解の理論①：愛着（アタッチメント）理論、認知発達理論、社会的認知理論、正統的周辺参加理論 学び合う共同体</li> <li>3 子ども理解の理論②：幼児期の教育理論、社会・文化的アプローチ、社会構成主義的アプローチ、臨床発達心理学理論</li> <li>4 子ども理解の理論③：フロイト理論（第一の勢力）と精神分析、スキナー理論（第二の勢力）と応用行動分析、ロジャース理論（第三の勢力）とカウンセリング</li> <li>5 子ども理解の方法：行動観察法、面接法、社会診断、心理アセスメント法（新版K式発達検査2020、WPPSI-III、WISC-IV、KABC-II、DN-CAS、改訂版ITPA、各種投影法検査）</li> <li>6 子ども・保護者への心理・教育的支援：カウンセリングマインドによるカウンセリング、遊戯治療、ナラティブ・セラピー、家族療法、長所活用型指導 2E/二重の特別支援教育</li> <li>7 子どもの心理臨床①：現代における子どもの多様な臨床症状、神経発達症群（発達障害・気になる子）、心身の障害の理解と教育相談</li> <li>8 子どもの心理臨床②：言語発達遅滞、コミュニケーション症、知的発達症（知的能力障害）等の教育相談</li> <li>9 子どもの心理臨床③ 自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如・多動症（ADHD）、限局性学習症（SLD）、運動症（MD）等の教育相談</li> <li>10 子ども・養育者の心理臨床：子ども・養育者における精神の障害への理解と支援</li> <li>11 子どもの情緒・社会性の問題①：非社会的行動への理解と支援</li> <li>12 子どもの情緒・社会性の問題②：反社会的行動への理解と支援</li> <li>13 子どもの情緒・社会性の問題③：臨床社会心理学的な行動への理解と支援</li> <li>14 子どもの教育支援：教育委員会の活動と教育支援（就学相談）</li> <li>15 子ども相談と連携：地域での専門職連携（IPW）とソーシャルワーク、関係機関（児童相談所・児童家庭支援センター・教育委員会・児童発達支援事業所等）との連携、幼小の円滑な接続</li> </ol>				
授業の留意点	ケース・スタディやグループ・ワークでは積極的に参加し、活発に意見を述べ合うことを期待する。				
学生に対する評価	試験（60点）・提出物（20点）・受講態度（20点）の合計点で評価する。提出物は毎時の「気づきと学び」ペーパーの作成・提出である。				
教科書（購入必須）	陳省仁・古塚孝・中島常安 編 2003 『子育ての発達心理学』 同文書院 吉田武男監修 高柳真人・前田基成・服部環・吉田武男 編 2019 『MINERVA はじめて学ぶ教職16 教育相談』 ミネルヴァ書房				
参考書（購入任意）	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 藤田和弘 著 2019 『「継次処理」と「同時処理」 学び方の2つのタイプ：認知処理スタイルを生かして得意な学び方を身につける』 図書文化社</li> <li>(2) 菊野春雄 編 2016 『乳幼児の発達臨床心理学：理論と現場をつなぐ』 北大路書房</li> <li>(3) 佐伯胖 著 2014 『幼児教育へのいざない：改訂増補版』 東京大学出版会</li> <li>(4) 佐伯胖・大豆生田啓友・汐見幸恵ほか 著 2013 『子どもを「人間としてみる」ということ』 ミネルヴァ書房</li> <li>(5) 小山充道 編・糸田尚史 分担執筆 2008 『必携 臨床心理アセスメント』 金剛出版</li> <li>(6) マクナミー&amp;ガーゲンほか 著（野村・野口 訳） 2014 『ナラティブ・セラピー』 遠見書房</li> </ol>				



科 目 名	教育実習指導				
担 当 教 員 名	棚橋裕子・高島裕美				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、幼稚園教育の目的や内容、保育者の援助等についての学びを基に、幼児理解、指導計画立案、教材研究等現場において必要な知識と技能を身につける。				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習の意義・目的を理解する。</li> <li>2. 実習の内容を理解しし、自らの課題を明確にする。</li> <li>3. 実習園における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。</li> <li>4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価、の方法や内容について具体的に理解する。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</li> </ol>				
授業の概要	実習先の決定にいたるまでの手続とその指導、幼稚園の理解、幼稚園教育要領の理解、学外実習の目的および内容の理解、必要な保育技術の習得、学外実習終了後の事後指導をその内容とする。実習終了後に、2・3年合同で実習報告会を行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育実習の意義と目的</li> <li>2 教育実習の流れと内容 必要な書類や手続き等のおさえ</li> <li>3 幼稚園、認定こども園における保育の理解と各要領の関連性</li> <li>4 様々な事例に基づいた援助の多様性と役割</li> <li>5 教育実習記録と日誌の書き方</li> <li>6 保育における指導計画、指導案の位置づけ</li> <li>7 指導計画、指導案の作成と保育の展開①</li> <li>8 指導計画、指導案の作成と保育の展開②</li> <li>9 実習に関する諸手続き</li> <li>10 直前指導 実習前の確認事項等</li> <li>11 教育実習後の振り返りと学びのおさえ まとめに向けて</li> <li>12 教育実習の振り返り①</li> <li>13 教育実習の振り返り②</li> <li>14 教育実習報告会①</li> <li>15 教育実習報告会②</li> </ol>				
授業の留意点	実習指導は、実習と同等に位置付けているため、欠席・遅刻をしないようにする。 なお、実習実施に関しては別途「教育実習および保育実習の実施要件」を定めている（初回オリエンテーションにて説明）。要件に満たない場合は、実習を実施できない場合があるので注意すること。				
学生に対する評価	受講態度、実習への姿勢、提出物等、総合的に判断する。				
教科書 (購入必須)	(保育実習指導・教育実習指導と共通) 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (原本)』チャイルド社 大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『新しい講座 12 保育・教育実習』ミネルヴァ書房 小櫃 智子編著・田中 君枝他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	教育実習				
担 当 教 員 名	棚橋裕子・高島裕美				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	4 単 位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	幼稚園における 4 週間の実習を通して、現場の幼稚園教諭の指導の下、幼児理解を基底とし、実践力の育成や保育現場での具体的な仕事の内容や保育者の役割について学ぶ。				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園、認定こども園の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>2. 観察や子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。</li> <li>4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5. 幼稚園教諭、保育教諭の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。</li> </ol>				
授業の概要	実習を通して幼稚園、認定こども園の役割や機能を理解し、直接対象にかかわりながら保育について総合的に学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼稚園、認定こども園の役割と機能 (1) 幼稚園、認定こども園の生活と一日の流れ (2) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解と保育の展開</li> <li>2 子ども理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助やかかわり</li> <li>3 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育内容 (4) 子どもの健康と安全</li> <li>4 保育の計画、観察、記録 (1) 指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価</li> <li>5 専門職としての保育者の役割と職業倫理 (1) 幼稚園教諭、保育教諭の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 幼稚園教諭、保育教諭の役割と職業倫理</li> </ol>				
授業の留意点	<p>実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。</p> <p>実習実施に関しては別途「教育実習および保育実習の実施要件」を定めている（実習指導、初回オリエンテーションにて説明）。要件に満たない場合は、実習を実施できない場合があるので注意すること。</p>				
学生に対する評価	実習先での評価表を中心に、実習指導の受講状況、提出物等を加味して総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	テキスト・参考文献は、実習指導を参照				
参考書（購入任意）					

科 目 名	教職・保育実践演習				
担 当 教 員 名	石本啓一郎・糸田尚史・及川智博・高島裕美・棚橋裕子・傳馬淳一郎・堀川真・三国和子・三井登				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	1年次からの学修内容を省察することで、教育者として必要な資質能力を確認すると同時に、生涯学習として取り組んでいく自分なりの課題を発見することを目標とする。				
授 業 の 概 要	フィールドワークや現場の実践者と語り合う会、学生主体による「シンポジウム」の開催といった多彩な演習に挑戦することで、これまでの学修内容を振り返り、自らが卒業以降も取り組んでいく・検討していくことが求められる生涯学習としての課題を発見していく。 保育者として求められる4つの事項（①教育者としての使命感や責任感 / ②社会性や対人関係能力 / ③子ども理解やクラス経営、また職員・地域・家庭との連携 / ④教科・保育内容等の指導力）について、全15回を通じて総合的に扱う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インTRODクシヨンー4年間の学修を捉えなおす講義としてー</li> <li>2 「社会保育」を考える（1）ー領域横断講義 社会編ー</li> <li>3 「社会保育」を考える（2）ー領域横断講義 臨床編ー</li> <li>4 幼児理解のあり方を再考する</li> <li>5 家庭・地域との連携を再考する</li> <li>6 児童養護に携わる職員と語りあう</li> <li>7 保育・幼児教育に携わる職員と語りあう</li> <li>8 保育と地域とのつながりを考える（1）ーフィールドワーク事前準備ー</li> <li>9 保育と地域とのつながりを考える（2）ーフィールドワークー</li> <li>10 保育と地域とのつながりを考える（3）ーフィールドワーク総括ー</li> <li>11 4年間の学びを振りかえる（1）ーシンポジウム企画ー</li> <li>12 4年間の学びを振りかえる（2）ーシンポジウム事前準備ー</li> <li>13 4年間の学びを振りかえる（3）ー4年生最終シンポジウム 1日目ー</li> <li>14 4年間の学びを振りかえる（4）ー4年生最終シンポジウム 2日目ー</li> <li>15 教職・保育実践演習まとめ</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッションやフィールドワークなどを伴うので、欠席・遅刻は十分に留意すること。</li> <li>・これまでの4年間の学修内容について自ら振り返ろうとする受講態度が求められる。</li> </ul>				
学 生 対 する 評 価	授業内の提出課題（90点）、授業への受講態度（10点）により総合的に評価します。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	指定しない。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	各内容に応じて、その都度指示・提示する。				

科目名	生涯学習論				
担当教員名	大坂 祐二				
学年配当	4年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	幼稚園：選択
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	日本の生涯学習・社会教育実践の蓄積に学び、人々の「学ぶ権利」の保障について、また、問題への気づきから解決に向かう過程とそれに対する支援について理解を深める。身近な生涯学習の機会に関心を持ち、その意義について考えることができる。				
授業の概要	生涯学習や社会教育は、単なる生きがいづくりやキャリア・アップの手段ではない。生活の困難に立ち向かい、主体的力量を形成する（＝エンパワーメント）学びであり、人々の学ぶ権利は「人間の生存にとって不可欠な手段」（ユネスコ「学習権宣言」）である。こうした視点から本講義では、保健・医療・福祉・保育との関連も念頭に、生涯学習・社会教育の本質と構造、実践について概説する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生涯学習とは何か ―保健・医療・福祉・保育との関連にもふれて</li> <li>2 成人にとっての「学び」 ―自主夜間中学を例に</li> <li>3 生涯学習の国際的な動向と「学習権」の発展</li> <li>4 家庭・学校・地域の連携と社会教育の役割</li> <li>5 生涯学習・社会教育の法と行政 ―学びの自主性をめぐって</li> <li>6 生涯学習・社会教育を支える施設と職員</li> <li>7 自己教育活動と仲間づくり・集団づくり</li> <li>8 北海道の地域づくりと生涯学習・社会教育</li> <li>9 子育て仲間づくりにみる学習の組織化</li> <li>10 誰が学習要求を組織するのか</li> <li>11 学習過程とその支援（1）健康学習を例に</li> <li>12 学習の構造化 ―青年・若者をめぐる社会教育実践①</li> <li>13 自分さがしと居場所づくり ―青年・若者をめぐる社会教育実践②</li> <li>14 学習過程とその支援（2）子育て支援と親の学び</li> <li>15 若者自立支援と社会教育 ―青年・若者をめぐる社会教育実践③</li> </ol>				
授業の留意点	教育実習にともなう欠席状況等によって授業の順番を変更することがある。				
学生に対する評価	期末レポート（70点）のほか、小レポートやグループワークの参加状況等（計30点）で評価を行う。				
教科書（購入必須）	指定のテキストは使用しない。毎時、プリントを配布する。				
参考書（購入任意）	小林文人・伊藤長和・李正連 編著『日本の社会教育・生涯学習』大学教育出版、2013年 鈴木敏正『[増補改訂版]生涯学習の教育学』北樹出版、2014年 社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』エイデル研究所、2017年				

目 名	児童文化				
担当教員名	堀川 真				
学年配当	4年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	幼稚園：選択
実務経験及び授業内容	児童文化を研究している教員が、保育の現場における読み聞かせ等の読書活動やことばあそびの事例等を通して、児童文化の発達と心の理解を指導する科目				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主な「児童文化」に関する知識と実際を知り、その特性や実践上の留意点について理解する。</li> <li>・ 「児童文化」が保育分野に果たす役割を考える中で日本の子ども文化の特性を知る。</li> <li>・ 幼稚園・保育所・学校・地域における文化活動の発展の方向を考える。</li> </ul>				
授業の概要	伝承あそびからおもちゃ・絵本・人形劇・紙芝居・テレビ等まで、児童文化が果たす役割をできるだけ実例提示、実演する中で紹介し、その特性と課題について学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 子どもを取り巻く文化状況</li> <li>2 あそびについて 「あそび」の持つ意味と集団づくりに役立つ遊び</li> <li>3 伝承あそびについて 伝承遊びの紹介と実演</li> <li>4 おもちゃについて おもちゃの役割と特性、手づくりおもちゃ</li> <li>5 おもちゃについて 郷土玩具、グッドトイの紹介</li> <li>6 ゲームについて ビデオゲームのはじまりと今日のあり様</li> <li>7 紙芝居について 発達史と上演の留意点</li> <li>8 演じるあそびについて ごっこあそび、劇遊び、劇、人形劇</li> <li>9 昔話について 昔話とは何か、昔話の魅力</li> <li>10 絵本小史 絵本の歴史と20世紀初頭海外の展開</li> <li>11 絵本小史 絵本の歴史と日本戦後の展開</li> <li>12 絵本創作の背景 実作を通してみる課程と配慮</li> <li>13 読書推進活動を考える 公共図書館と地域家庭文庫</li> <li>14 テレビ論 児童向けテレビ番組に見る社会との同期性について</li> <li>15 まとめ 授業の感想と児童文化についての考察・発表</li> </ol>				
授業の留意点	講義科目ではあるが、科目の性格上、多少の演習を含む。				
学生に対する評価	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教科書(購入必須)	その都度必要に応じてプリントを配布する。				
参考書(購入任意)	特になし。				

科 目 名	児童文化演習				
担当教員名	堀川 真・石本 啓一郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択・幼稚園：選択
実務経験及び授業内容	児童文化を研究している教員が、保育の現場における読み聞かせ等の読書活動やことばあそびの事例等を通して、児童文化の発達と表現力の向上を指導する科目				
学習到達目標	演習を通して児童文化への理解を深め、遊びの指導者としての技術・技能を身につけるとともに、創造することの喜びと感動を体験し、保育場面での活用意欲を高める。 絵本作家との対話を通し、絵本の魅力と表現への理解を深める。				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本読み聞かせの実演を全員に課す。</li> <li>・展開可能な工作を多く身につけ、子どものうちにある同時代的文化に速やかに対応できるようにする。</li> <li>・パネルシアターの制作と上演を通して、保育士としての表現力の向上をめざす。</li> <li>・動物園に行き、動物の特性を理解し、描く際のポイントを知る。</li> <li>・絵本作家による講義を通して絵本の魅力を理解するとともに、着想の背景や完成までの過程を知る。</li> </ul>				
授業の計画	1 オリエンテーション (担当:堀川) 2 お店屋さんごっこ(1) お弁当、たべもの (担当:堀川) 3 お店屋さんごっこ(2) ケーキ (担当:堀川) 4 お店屋さんごっこ(3) アクセサリー (担当:堀川) 5 お店屋さんごっこ(4) 各グループ任意制作 (担当:堀川) 6 お店屋さんごっこ(5) 発表会準備 (担当:堀川) 7 お店屋さんごっこ(6) 発表会 (担当:堀川) 8 紙芝居大会(1) 前半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川) 9 紙芝居大会(2) 後半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川) 10 パネルシアター(1) しかけの理解 (担当:堀川) 11 パネルシアター(2) 制作の実践・内容の検討 (担当:堀川) 12 パネルシアター(3) 制作の実践・材料の選択 (担当:堀川) 13 パネルシアター(4) 制作の実践・効果の確認 (担当:堀川) 14 パネルシアター(5) 発表会準備 (担当:堀川) 15 パネルシアター(6) 発表会 (担当:堀川)	16 あそびを組織する(1) 「あそびの大会」計画づくり (担当:堀川) 17 あそびを組織する(2) 「あそびの大会」ゲームづくり (担当:堀川) 18 あそびを組織する(3) 「あそびの大会」景品づくり (担当:堀川) 19 あそびを組織する(4) 「あそびの大会」準備 (担当:堀川) 20 あそびを組織する(5) 「あそびの大会」発表会 (担当:堀川) 21 動物を見つめる(1) 鳥類 (担当:石本) 22 動物を見つめる(2) 類人猿 (担当:石本) 23 動物を見つめる(3) 哺乳類 (担当:石本) 24 動物を見つめる(4) 爬虫類 (担当:石本) 25 動物を見つめる(5) 北海道産動物 (担当:石本) 26 動物絵本を知る(1) 構想 (担当:石本) 27 動物絵本を知る(2) 各場面を考える (担当:石本) 28 動物絵本を知る(3) 完成に至るまで (担当:石本) 29 動物絵本を知る(4) 動物学と民俗学 (担当:石本) 30 動物絵本を知る(5) まとめ (担当:石本)			
授業の留意点	必要に応じて道具・材料を提示するので準備すること。				
学生に対する評価	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教科書(購入必須)	必要に応じてその都度をプリントを配布する。				
参考書(購入任意)	特になし				

科 目 名	障害児支援の基礎理論				
担 当 教 員 名	藤川 雅人				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	障害者の権利に関する条約批准に伴い、福祉や教育を含む大きな時代的転換が訪れている。特殊教育から特別支援教育へ、障害児教育も大きく変わりつつある。わが国が築きあげてきた障害児教育の歴史を概観し、先達の理念と努力を学ぶことを通して、その意義及び目的と継承すべき視点について深く理解する。併せて、障害児教育を学ぶスタートラインとして、職業的自覚や今後の学びの意味を理解し、高いキャリア意識を醸成する。				
授業の概要	特別支援教育がめざしている社会の理解、発達障害のある幼児児童生徒についての理解と支援方法を学ぶ。障害の有無にかかわらず幼児児童生徒一人一人の特性に応じた支援について考えることを通して、障害児教育の担い手として必要な知識や技術の概要を知り、今後の学習計画の基盤とする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 特殊教育から特別支援教育への転換の経緯</li> <li>2 特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システムが指すもの</li> <li>3 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援(1) LD、ADHD</li> <li>4 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援(2) 自閉症スペクトラム障害</li> <li>5 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援(3) 診断のない幼児児童生徒</li> <li>6 幼児児童生徒の行動の理解と対応(1) コミュニケーション</li> <li>7 幼児児童生徒の行動の理解と対応(2) 不適切な行動</li> <li>8 特別支援学級、通級による指導の教育課程</li> <li>9 特別支援学校の教育課程</li> <li>10 就学に向けた相談支援体制と福祉制度</li> <li>11 特別支援教育コーディネーターの役割と校内支援体制</li> <li>12 家庭や地域と連携した支援体制の構築</li> <li>13 関係機関と連携した支援体制の構築</li> <li>14 特別支援学校の教育の実際</li> <li>15 インクルーシブ教育システムと共生社会</li> </ol>				
授業の留意点					
学生に対する評価	議論や質問に応じる機会の多い授業となるため、授業の参加態度や議論や質問等について、講義時の応答・協議で判断する(30点)。これらの評価と最終試験の結果(70点)と併せて評価する。				
教科書(購入必須)	特別支援教育概論：福村出版				
参考書(購入任意)					

科 目 名	知的障害者の心理・生理・病理				
担 当 教 員 名	奥村 香澄				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	知的障害を理解する上で定型発達について理解し、発達の偏りやアンバランスについて理解できるようにする。知的障害の要因や状態、心理や社会背景などを捉えることで、多様な障害を理解する基盤を形成することを目標とする。				
授 業 の 概 要	定型発達について再確認するとともに、原因に基づいた発達の様態や表象に現れる様々な特徴を、メカニズムとして理解することが求められる。全般的な知識としてではなく、機序や構造を捉えた知的障害の理解を促すようにするため、協議機会を多く持つ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発達の生理学的基礎 身体、脳、原初期の反応、社会的相互作用、学習</li> <li>2 知的障害の定義 障害の認定と教育</li> <li>3 知的障害の分類と障害の要因 知的障害の発生機序、学習や行動の特徴</li> <li>4 社会的に増悪する知的障害 社会的相互作用、評価</li> <li>5 遺伝の仕組みと異常 遺伝形質、先天性、後天性、内因、外因</li> <li>6 脳機能の発達 定型発達児の発達</li> <li>7 脳機能の障害 認知、脳波、脳血流量、認知神経心理学、生理心理学</li> <li>8 知的障害児の学習特性 ステレオタイプ、固執性、学習された無気力</li> <li>9 脳機能障害児の運動特性 操作、協調性運動発達障害</li> <li>10 知的障害児の言語発達 他者意図理解、共同注意、自閉症</li> <li>11 知的障害児の社会性の発達 経験、学習</li> <li>12 知的障害児の行動問題の理解と支援 自傷行動、他害行動、応用行動分析</li> <li>13 ダウン症候群 染色体異常、行動特性、学習特性</li> <li>14 Williams 症候群 染色体異常、行動特性、学習特性</li> <li>15 その他の染色体異常 コーネリア・デ・ランゲ、フェニールケトン尿症、レット症候群、ソトス症候群</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学 生 に 対 する 評 価	講義における小レポート（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。				
教 科 書 (購入必須)					
参 考 書 (購入任意)	特別支援教育における障害の理解：教育出版				



科 目 名	肢体不自由者の心理・生理・病理				
担 当 教 員 名	藤川雅人・田中肇				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>肢体不自由とは、四肢体幹に永続的な機能障害があり、姿勢や運動動作に制限がある状態のことをいう。その発生原因となる疾病は多様である。それぞれの疾病に応じた特性をテーマにし、それらについての基本的な理解を得ることを目標とする。</p>				
授業の概要	<p>肢体不自由教育の対象となる主な疾患の病理・生理及び心理について学ぶ。また、認知・社会・コミュニケーション・心理などの特性について理解しながら、その支援について学習する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 肢体不自由とは 肢体不自由の状態、療育、教育</li> <li>2 姿勢と運動の発達(1) 運動の機序と障害</li> <li>3 姿勢と運動の発達(2) 運動操作における障害と心身の発達</li> <li>4 脳性麻痺の病態</li> <li>5 脳性まひの支援 就学前期から学歴期の支援</li> <li>6 神経・筋疾患の病態 ～ 二分脊椎と筋ジストロフィー</li> <li>7 療育支援の考え方 ～ 生活支援の重要性</li> <li>8 筋ジストロフィーの支援 学校における支援、家庭における支援</li> <li>9 その他の肢体不自由 発達性協調運動障害、脳機能障害</li> <li>10 てんかん てんかんの特性と支援</li> <li>11 肢体不自由を伴う子どもの心理発達過程とその支援 学齢期を中心に</li> <li>12 肢体不自由を伴う子どもの心理・認知機能とコミュニケーションの支援 代替機器、心理検査</li> <li>13 肢体不自由を伴う子どもの社会性及び関係発達 社会との接点、困難</li> <li>14 肢体不自由を伴う子どもの就学、就学支援 検診、就学相談、移行</li> <li>15 もう一度、肢体不自由とは 見える困難、見えない困難</li> </ol>				
授業の留意点	<p>ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。</p>				
学生に対する評価	<p>講義中の課題（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等、田中先生のレポートも合わせて評価する。</p>				
教科書（購入必須）	<p>適宜紹介する。</p>				
参考書（購入任意）	<p>新訂肢体不自由児の教育：放送大学教育振興会</p>				

科 目 名	病弱者の心理・生理・病理				
担 当 教 員 名	中澤幸子 下村遼太郎				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気の子どもの心理・生理・病理について理解する。</li> <li>・具体的な事象や事例から病弱者・障害者の心理特性・行動背景を理解し、当事者や家族への支援方法について考えることができる。</li> </ul>				
授業の概要	病弱教育が対象とする子どもに多くみられる疾患の生理・病理、病気の子どもや家族の心理的特性と求められる心理的支援・配慮について学び、考察します。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 授業の進め方等</li> <li>2 健康、病気、障害の概念</li> <li>3 小児期の慢性疾患Ⅰ (ぜんそく、アレルギー等)</li> <li>4 小児期の慢性疾患Ⅱ (腎臓病・心臓病等)</li> <li>5 小児期の慢性疾患Ⅲ (糖尿病等)</li> <li>6 悪性腫瘍 (小児がん、脳腫瘍等)</li> <li>7 進行性筋ジストロフィー</li> <li>8 てんかん、血友病とその他の疾患</li> <li>9 心身症、精神疾患</li> <li>10 病気・障害の受容とセルフケア</li> <li>11 病弱者・障害者の心理的特性</li> <li>12 病弱者・障害者と家族の支援</li> <li>13 教育・医療・保健・福祉等多職種による連携</li> <li>14 病弱者の支援における今日的課題</li> <li>15 まとめ / 病弱者の支援で大切なこと</li> </ol>				
授業の留意点	<p>特別支援学校教員免許取得に関わる講義であることから、他の障害（知的障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、発達障害等）についても理解を深めておくことが望ましい。</p> <p>3～9 下村遼太郎 担当授業 / 1～2、10～15 中澤幸子 担当授業</p>				
学生に対する評価	授業振り返りシート及び課題への取り組みの状況（50点）、レポート（50点）等で総合的に評価します。				
教科書（購入必須）	適宜、資料・視聴覚教材を使用します。				
参考書（購入任意）	講義内で紹介します。				

科目名	知的障害者教育課程論				
担当教員名	安永 啓司				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校3校で33年間教員を務めて得た教育内容や仕組みを体系的に指導する科目				
学習到達目標	「特殊教育」から現在の「特別支援教育」に至る過程を理解しながら、今後の展望を見通すことを目的とする。特別支援教育の理念を十分に理解しながら、障害特性に応じた教育の計画と評価を可能とするために、国によって定められる「学習指導要領」に基づいて、各学校で編成される教育課程の意義と立案の際の留意点等について理解をしていく。				
授業の概要	知的障害を中心とする教育について、教育史、教育の目的及び教育形態の概要と、学校が教育的活動を計画し、実践する際のよりどころとなる教育課程の概要を理解する。 あわせて、近年のノーマライゼーションやインクルージョンの潮流に基づいた、制度・教育的変遷の意義と課題を概観する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 知的障害とは（イントロダクション） 認知、学習、生活、自立</li> <li>2 障害児教育の概要(1) 東京学芸大学附属特別支援学校の教育の実際</li> <li>3 障害児教育の概要(2) 特別支援学級の教育の実際</li> <li>4 障害児教育の対象の拡大と教育の本質的課題 「生きる力」を中心に</li> <li>5 障害児教育の教育形態（特別支援学校、特別支援学級、通級学級、特別支援教室）</li> <li>6 教育課程の概念と原理 国による法令と基準</li> <li>7 学習指導要領改訂の変遷と意義 社会背景と教育内容の整備</li> <li>8 教育課程の開発と編成 個別的教育支援計画、個別の指導計画</li> <li>9 各教科の指導 生活科、かず・ことば</li> <li>10 領域の指導 自立活動</li> <li>11 各教科等を合わせた指導 生活単元学習、総合的な学習</li> <li>12 学習指導案の作成の視点 授業改善、授業評価</li> <li>13 チームティーチングの方法 授業計画、授業反省と教材開発</li> <li>14 教育制度と法令 学校制度、教科書、学級編制</li> <li>15 障害児教育の専門性と教師キャリア 地方公務員法、教育公務員特例法、服務、研修</li> </ol>				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	講義における小レポート（30点）、最終試験結果（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	橋本創一他編著『特別支援教育の新しいステージ：5つのI（アイ）で始まる知的障害児教育の実践・研究』福村出版 2019				
参考書（購入任意）	橋本創一、三浦巧也、渡邊貴裕、尾高邦生、堂山亞希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020年 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）				

科 目 名	知的障害者教育方法論				
担 当 教 員 名	安永 啓司				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校3校で33年間教員を務めて得た教育内容や仕組みを体系的に指導する科目				
学習到達目標	知的障害を中心とする教育において、発達の諸相と障害特性についての理解を深め、効果的な指導方法を導き、その効果を評価－改善していくプロセス（Plan-Do-See）の意義と具体的な指導について理解を深める。				
授業の概要	知的障害のある子どもの生活や学習における困難さやニーズを理解し、適切に支援するための方法論として応用行動分析学の基本的理論や原理を中心に、それらを活用するための個別の指導計画の仕組みや授業や教材の工夫について学修する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 知的障害のある子どもの理解と教育</li> <li>2 行動観察とアセスメント</li> <li>3 応用行動分析学に基づく支援（1）行動分析の理論</li> <li>4 応用行動分析学に基づく支援（2）行動の形成と強化</li> <li>5 応用行動分析学に基づく支援（3）課題分析と連鎖化</li> <li>6 応用行動分析学に基づく支援（4）問題行動と機能分析</li> <li>7 応用行動分析学に基づく支援（5）社会的強化と言語行動</li> <li>8 応用行動分析学に基づく支援（6）積極的行動支援</li> <li>9 自立活動と個別の指導計画の作成（1）</li> <li>10 自立活動と個別の指導計画の作成（2）</li> <li>11 授業の工夫と改善（1）各教科の指導</li> <li>12 授業の工夫と改善（2）各教科等を合わせた指導</li> <li>13 自閉症のある人の事例で学ぶ</li> <li>14 ダウン症のある人の事例で学ぶ</li> <li>15 知的障害のある人の自立と社会参加とは（まとめ）</li> </ol>				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	毎回の講義における小レポート（30点）と期末レポート課題の結果（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	橋本創一他編著『特別支援教育の新しいステージ：5つのI（アイ）で始まる知的障害児教育の実践・研究』福村出版 2019				
参考書（購入任意）	特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）				

科 目 名	病弱者教育論				
担 当 教 員 名	担当者未定				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	病弱者教育の歴史と意義について理解し、病弱者教育の対象者に応じた教育の特徴について概要を把握するとともに病弱者教育の現代的課題について見通すことを目的とする。				
授業の概要	病弱者教育の歴史から病弱者教育が果たしてきた役割について学び、病弱者教育の意義と課題について学ぶ。病弱者教育の対象である主な疾患とその特徴、教育を行うに当たって配慮すべきことを考察する。病弱者教育の現代的課題や病類に応じた教育の特徴について学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インTRODakShION 授業の進め方、学習マップ 1</li> <li>2 病弱者教育の歴史の変遷と定義 療育から教育へ</li> <li>3 病弱者教育の意義と目的 学ぶ権利の保障、教育課程の整備</li> <li>4 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(1) 呼吸器疾患、内分泌疾患</li> <li>5 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(2) 腎・泌尿器疾患</li> <li>6 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(3) 心疾患、筋疾患</li> <li>7 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(4) 重症心身障害</li> <li>8 死について考える ターミナル期にある子どもの教育</li> <li>9 自分自身を振り返る 命の選択</li> <li>10 病気とともに生きるということ グループワークの協議を通して</li> <li>11 拡大する病弱者教育の対象 不登校、被虐待、ネグレクト、精神疾患</li> <li>12 病弱者教育の設置基準と教育の場 特別支援学校、学級、院内学級</li> <li>13 病状に合わせた指導計画 集団の形成、授業時数の設定</li> <li>14 医療機関と教育の関係と連携、家庭との連携 連携のあり方、連絡帳、病状ノート</li> <li>15 病弱者教育の現代的課題 医療の高度化、病気の多様化</li> </ol>				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	講義中の協議課題（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）により評価する。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）	病気の子どもの教育入門：クリエイツかもがわ 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編） 特別支援教育の指導法：教育出版				

科 目 名	肢体不自由者教育課程論				
担 当 教 員 名	藤川 雅人				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	特別支援学校（肢体不自由）教諭の経験を有する教員が、肢体不自由教育の教育内容や方法、教育課程の基本について指導する科目				
学 習 到 達 目 標	肢体不自由児の障害特性を理解し、肢体不自由教育の教育内容・方法を学び、教育課程の基本について理解する。肢体不自由教育の授業づくりの基本的視点を理解し、教育実践の基盤を形成することを目標とする。				
授 業 の 概 要	肢体不自由児の障害の基礎的な特徴を概説し、肢体不自由教育の教育課程、指導方法について実践例を交えた教育を行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 肢体不自由の定義 障害認定と教育</li> <li>2 肢体不自由教育の現状 特別支援学校、特別支援学級、通常の学級</li> <li>3 肢体不自由教育のあゆみ 肢体不自由教育の歴史</li> <li>4 発達と障害の基礎理解 乳児期の反射、学習、経験</li> <li>5 脳性まひの発達と障害の基礎的理解 障害特性と支援</li> <li>6 肢体不自由の教育課程(1) 特別支援学校における教育課程</li> <li>7 肢体不自由の教育課程(2) 自立活動①</li> <li>8 肢体不自由の教育課程(3) 自立活動②</li> <li>9 肢体不自由の教育課程(4) 小・中学校における教育課程</li> <li>10 重度・重複障害の教育実践(1) 授業の実際①</li> <li>11 重度・重複障害の教育実践(2) 授業の実際②</li> <li>12 重度・重複障害の教育実践(3) 医療的ケア</li> <li>13 肢体不自由児と家族の生活実態と支援 障害に基づく困難</li> <li>14 肢体不自由教育の今日的課題 障害の重度・重複化、多様化</li> <li>15 学習指導案と授業 授業研究の視点、改善のプロセス</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学 生 対 する 評 価	リアクションペーパー（30点）、期末レポート（70点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	新訂肢体不自由児の教育：放送大学教育振興会				

科 目 名	肢体不自由者教育方法論				
担 当 教 員 名	藤川 雅人				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校（肢体不自由）教諭の経験を有する教員が、肢体不自由児の実態把握、指導や支援、授業実践について指導する科目				
学習到達目標	肢体不自由教育は、一人一人の子どもの運動障害の程度や知的発達に応じて、複数の教育課程が用意されている。本講義では、肢体不自由児の事例を通して、指導内容・指導方法及び授業実践の理解を深めることを目標とする。				
授業の概要	肢体不自由の単一障害や、二分脊椎、脊椎損傷等の知的障害を伴わない教育から、知的障害を伴う重複障害の子どもを対象とした教育まで含めて、肢体不自由児の実態把握や指導内容・方法を考える。実際の授業を行う上で必要とされる基礎的な理解を形成する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インTRODクシヨN 授業の進め方、学習マップ</li> <li>2 肢体不自由教育の概要(1) 特別支援学校の教育の実際</li> <li>3 肢体不自由教育の概要(2) 特別支援学級の教育の実際</li> <li>4 肢体不自由児の実態把握 身体面、心理面、学習面</li> <li>5 教育課程の開発と編成(1) 個別の教育支援計画</li> <li>6 教育課程の開発と編成(2) 個別の指導計画</li> <li>7 各教科の指導(1) 学習支援の方法、ICT機器の活用</li> <li>8 各教科の指導(2) 指導の工夫と留意点</li> <li>9 自立活動の指導 6区分27項目</li> <li>10 各教科等を合わせた指導(1) 日常生活の指導、遊びの指導</li> <li>11 各教科等を合わせた指導(2) 生活単元学習、作業学習</li> <li>12 学習指導案の作成の視点(1) 授業評価</li> <li>13 学習指導案の作成の視点(2) 授業改善</li> <li>14 授業研究 反省協議、学習指導案への反映</li> <li>15 肢体不自由教育のまとめ</li> </ol>				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	リアクションペーパー（30点）、期末レポート（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）				
参考書（購入任意）	新訂肢体不自由児の教育：放送大学教育振興会				

科 目 名	重複障害・発達障害の評価				
担 当 教 員 名	奥村香澄				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・特支：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	重複障害と発達障害の困難の状況を理解し、困難のメカニズムと社会的に直面する事態との関係を理解する。重複障害と発達障害の正しい理解のもとに、詳細なアセスメントの方法と解釈について、演習を中心として理解する。				
授 業 の 概 要	現代の特別支援教育においては、一方で障害の重度化や重複化を、もう一方では発達障害等の知的障害を伴わない子どもたちの存在を支援していく必要に迫られている。そこでは障害の理解に基づいた正確なアセスメントが求められてくる。多様な評価について学び、実際のアセスメントの知識と技術を身につける。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 アセスメントとは 評価、心理、社会、生活</li> <li>2 アセスメントの方法 観察、解釈、記録、聴き取り、定量的評価、定性的評価</li> <li>3 重複障害の評価 反応形成、フィードバック</li> <li>4 医療的数値 脳波、脳血流量、血中酸素、その他の数値</li> <li>5 心理検査の理解① 認知理論、心理検査の発展過程</li> <li>6 心理検査の理解② C-H-C 理論、PASS 理論、知能の定義</li> <li>7 心理検査の理解③ WISC-IV、KABC-II、DN-CAS</li> <li>8 心理検査の実際① WISC-IV</li> <li>9 心理検査の実際② DN-CAS と KABC-II</li> <li>10 心理検査の解釈① WISC-IV</li> <li>11 心理検査の解釈② DN-CAS と KABC-II</li> <li>12 心理検査の解釈③ 総合的な解釈、検査レポート、倫理的責任、支援計画</li> <li>13 保護者支援 障害受容、療育の見通し、家族との調整</li> <li>14 自立支援 本人受容、将来設計</li> <li>15 支援の実際 アセスメント、支援計画、介入、コンサルテーション</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	実際の心理検査などを行うため、グループワークの際は欠席などの無いようにすること。				
学 生 対 する 評 価	講義における小レポート（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。				
教 科 書 （購入必須）					
参 考 書 （購入任意）	特別支援教育における障害の理解：教育出版				



科 目 名	重複障害・発達障害の教育				
担 当 教 員 名	奥村香澄				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	重複障害と発達障害の困難の状況を理解し、困難のメカニズムと社会的に直面する事態とを正しく把握することができ、適正な支援の方法と障害のある幼児、児童、生徒の社会的自立の見通しを立てることができるようにする。				
授業の概要	現代の特別支援教育においては、一方で障害の重度化や重複化を、もう一方では発達障害等の知的障害を伴わない子どもたちの存在を支援していく必要に迫られている。障害の重複を具体的に捉え、自己決定を保障する方法を学ぶと共に、6.5%といわれる発達障害の概要を理解し、多様なニーズに応えられる知識と技能を身につける。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 重複障害とは 障害の重複、困難の重複、複合的な相互作用</li> <li>2 重複障害の教育 教育課程、指導法</li> <li>3 重複障害の予後 施設、病院、家庭、社会参加</li> <li>4 発達障害とは LD、注意欠如/多動症(AD/HD)、自閉スペクトラム症</li> <li>5 発達障害の困難 聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する、コミュニケーション</li> <li>6 発達障害の教育 通常学級、通級による指導、適応教室、不登校</li> <li>7 発達障害の教育課程における位置づけ 特別支援教育</li> <li>8 学習やコミュニケーションの困難の機序 感覚、知覚、認知</li> <li>9 LD の指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、2次障害</li> <li>10 AD/HD の指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、2次障害</li> <li>11 自閉症スペクトラムの指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、2次障害、アスペルガー症候群</li> <li>12 発達障害の社会的自立 障害認定、適応</li> <li>13 社会における発達障害 定義、啓発、受容</li> <li>14 発達障害に関わる制度の変遷 教育、福祉、就労</li> <li>15 重複障害・発達障害のまとめ 自己認識、社会的相互作用、社会的背景</li> </ol>				
授業の留意点	実際の発達障害支援の実務者の活動を取り混ぜる予定である。				
学生に対する評価	講義における小レポート（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）	特別支援教育における障害の理解：教育出版				

科目名	視覚障害者教育総論				
担当教員名	星 祐子				
学年配当	3年	単位数	1単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	視覚障害の概要を生理・病理の観点から理解し、視覚障害教育の歴史・教育課程・指導内容・指導方法などについて学び、視覚障害教育に関する知識を習得するとともに共生社会形成の基礎となる特別支援教育に対する理解を深めることを目的とする。				
授業の概要	本講義では、主として視覚障害教育に関する以下の内容について、テキスト、プリント資料、映像教材、実物教材を使用しながら授業を行う。 1. 視覚障害の概要（生理・病理）及び視覚管理 2. 視覚障害教育の歴史及び制度 3. 視覚障害教育の教育課程及び指導計画 4. 視覚障害教育の指導内容・指導方法				
授業の計画	1 視覚障害の生理及び病理と視覚管理① 視覚障害の定義、視覚器の構造と視覚障害 2 視覚障害の生理及び病理と視覚管理② 視機能と視覚障害、眼疾患と教育的配慮 3 視覚障害の心理特性、発達を規定する要因と発達の特徴、アセスメント、観察評価 4 視覚障害教育の歴史と制度、交流及び共同学習 5 教育課程と指導計画① 教育課程の意義、教育課程の編成と指導計画の作成 6 教育課程と指導計画② 学習指導要領 7 指導内容及び指導方法① 視覚障害教育における指導上の配慮事項、盲児の触知覚の特性、点字の読み書きの指導、空間概念の指導、歩行指導、言葉と事物・事象の対応の指導 8 指導内容及び指導方法② 弱視児の視知覚の特性 重複障害児の指導、教材教具				
授業の留意点	視覚障害の疑似体験や演習なども行うため、積極的に講義に参加すること。				
学生に対する評価	提示課題の取り組み状況（30点）、レポート課題（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	適宜、プリントを配布する。				
参考書（購入任意）	視覚障害教育入門 ジアース教育新社 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）				

科 目 名	聴覚障害者教育総論				
担 当 教 員 名	庄司 和史				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	聴覚障害の概要を生理・病理の観点から理解し、聴覚障害教育の歴史・教育課程・指導方法・評価法などについて学び、聴覚障害教育に関する知識を習得するとともに、発達期における心理的特性や保護者の心情などを理解することを目標とする。				
授業の概要	聴覚障害は、単に聞こえの障害のみならず様々な学習経験や発達上の困難が生じる。補聴器などの装用に対する心理的な抵抗が生じる場合もある。聞こえの障害を多角的に捉えて、他者を深く理解する基盤を培うことができるように、体験や協議を多くした講義としていく。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 聴覚障害の生理及び病理① 聴覚障害の定義、聴覚の構造と障害</li> <li>2 聴覚障害の生理及び病理② 聴覚機能と聴覚障害、疾患と教育的配慮</li> <li>3 聴覚障害の心理特性と発達 コミュニケーション、社会性、学習</li> <li>4 聴性脳幹反応と人工内耳 心理的支援、保護者支援、早期介入</li> <li>5 聴覚障害教育の歴史と制度 聾啞学校、ろう学校、口話、手話</li> <li>6 聴覚障害教育における教育課程と指導計画① 各教科の指導</li> <li>7 聴覚障害教育における教育課程と指導計画② 各領域の指導、自立活動</li> <li>8 授業の実際 「個別の指導計画」、学習指導案</li> </ol>				
授業の留意点	聴覚障害体験なども行うため、積極的に講義に参加すること。				
学生に対する評価	講義における小レポート（20点）、提示課題の取り組み状況（20点）、レポート課題（60点）により評価する。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）	教育オーディオロジーハンドブック：ジアース教育新社 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編） 特別支援教育の指導法：教育出版				

科 目 名	障害児教育実習事前事後指導				
担 当 教 員 名	安永啓司・奥村香澄・藤川雅人				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	国立大学附属特別支援学校 3 校での教育実習生への指導経験を有する教員が、その知識と経験を生かした演習を主とし展開する科目				
学習到達目標	実習の意義と目的、実際の幼児・児童・生徒の実態把握の方法、指導計画の作成と指導案作成及び模擬授業を行い、それぞれの実習時期に合わせながら、全体及び個別指導を行う。事後指導においては、再度、教職の意義、教育公務員特例法の意義と教員の義務、キャリア形成等について復習し教職に対する心構えを確認する。				
授業の概要	特別支援教育に特有のアセスメントなどを再度確認の上、指導計画の作成を通じて障害児教育実習への準備を行う。実習後は授業研究などを通じて、実際の実習の振り返りと教職の意義の確認を行う。				
授業の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別支援と集団による授業における指導計画のたてかた</li> <li>・ 実態把握のための観察法</li> <li>・ 個別のアセスメント</li> <li>・ 個別指導の方法と集団のダイナミズムの活用方法</li> <li>・ 年間指導計画の策定</li> <li>・ 個別の指導計画の作成</li> <li>・ 教科・領域の指導計画</li> <li>・ 学習指導案の作成</li> <li>・ 指導意図に基づいた教材の意義の確認と準備</li> <li>・ 模擬授業</li> <li>・ 授業研究会</li> <li>・ 計画の修正と確認</li> </ul>				
授業の留意点	相互模擬授業などを行うため、原則として欠席は認めない。				
学生に対する評価	模擬授業・指導計画作成・実習報告などを総合的に評価する。				
教科書 (購入必須)					
参考書 (購入任意)					

科 目 名	障害児教育実習				
担 当 教 員 名	安永啓司・藤川雅人・奥村香澄				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	国立大学附属特別支援学校3校での教育実習生への指導経験を生かした指導による科目				
学習到達目標	特別支援学校における実習を通じて、それぞれの障害領域に対応した指導力及び、校内・校外におけるコーディネート能力など教員としてふさわしい能力を身につける。				
授業の概要	各支援学校において、指導案の作成、研究授業などを行う。				
授業の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該障害種における教育の概要（講義及び見学、活動参加実習）と教員の専門性及び服務</li> <li>・ 幼稚部から高等部及び専攻科を通じた、教育の一貫性と自立支援の実際（講義及び見学）</li> <li>・ 各教科・領域の授業参観</li> <li>・ 配属学級における学級経営の視点と方法</li> <li>・ 幼児、児童、生徒の実態の把握</li> <li>・ 個別の指導計画と学級経営を元にした指導計画の作成</li> <li>・ 各教科・領域の指導計画の作成</li> <li>・ 実習授業</li> <li>・ 研究授業</li> <li>・ 実習のまとめ</li> </ul>				
授業の留意点	実習の所定時間はすべて出席が求められるため、実習中の欠席は認められないので注意すること。				
学生に対する評価	学習指導、生活指導、実習態度について、実習校担当者が評価し、事前・事後指導の評価と総合して評価する。				
教科書 (購入必須)					
参考書 (購入任意)					

